

STAR

大型自走ローバーク

取扱説明書

製品コード

K93160

型

式

JRB3000

部品ご注文の際は、ネームプレートをお確かめの上、
部品供給型式を必ずご連絡下さい。

“必読” 機械の使用前には必ず読んでください。

スター農機株式会社

安全に作業するために

安全に関する警告について

本機には、印付きの警告ラベルを貼付しています。安全上、特に重要な項目を示しています。警告を守り、安全な作業を行ってください。

警告ラベルについて

- 危険**

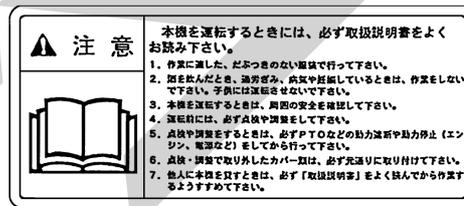
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを示します。
- 警告**

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があることを示します。
- 注意**

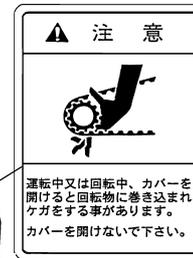
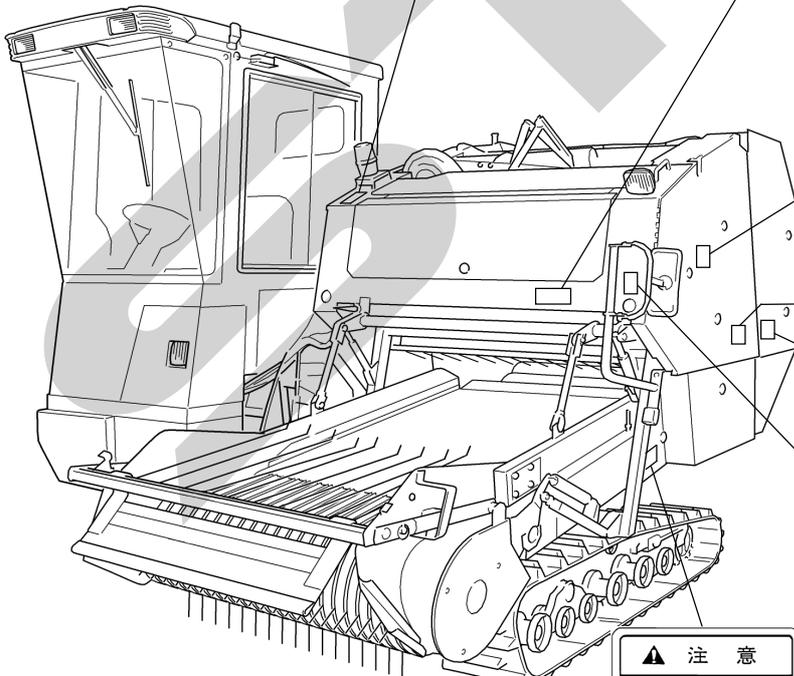
その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあることを示します。



部品番号 106584



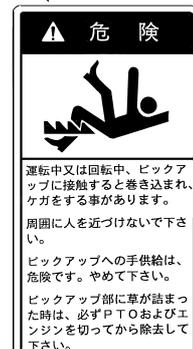
部品番号 106164



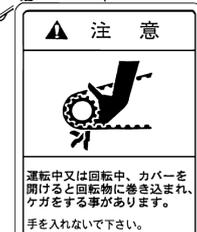
部品番号 106171



部品番号 106524



部品番号 106409



部品番号 106417



部品番号 106413

危険

傾斜地で荷降ろしするとペールが回り、巻き込まれてケガをする事があります。
ペールの排出は、平坦な場所で行って下さい。

部品番号 106414

注意

運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。
カバーを開けないで下さい。

部品番号 106171

梱包密度の調整

梱包密度とPTO馬力は、下表の様な関係になります。条件に合せ②、③部を調整して下さい。

1. 最初の選択は、②部のA・B・Cで行います。この調整により密度は大きく変化します。

2. 次に、A・B・C各々の範囲で③部の①・②・③を調整します。

P	大	A-①
T	中	B (最大)
O	小	C-③
馬力	小	(最小)

①はより重く
②は中間に
③はより軽く
なります。

987491000

危険

ゲートを開ける時、後方に人がいると壁などの間に挟まれ、ケガをする事があります。
周囲に人を近づけないで下さい。
後方をよく確認してから開けて下さい。

部品番号 106412

危険

運転中又は回転中、ローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。
ローラにはふれないで下さい。
周囲に人を近づけないで下さい。
ローラに草が巻き付いた時は、必ずPTOおよびエンジンを切ってから除去して下さい。

部品番号 106410

危険

ゲートを閉じる時、中に人がいるとゲートに挟まれ、ケガをする事があります。
周囲に人を近づけないで下さい。
中に人がいない事を確認してから閉じて下さい。

部品番号 106413

警告

ゲートを開けての点検・調整中、不意にゲートが閉まり、挟まれてケガをする事があります。
油圧シリンダに安全ストッパを掛け、ゲートを確実にロックして下さい。

部品番号 106524

注意

運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。
カバーを開けないで下さい。

部品番号 106171

スター農機株式会社
STAR FARM MACHINERY MFG. CO., LTD.

型 式	
MODEL	
部品供給	
型 式	
製造番号	
MFG. NO.	

※販売店でのみ、部品供給が受けられます。



⑪ 1E8540-97720 注意(取扱S)

注意

取扱説明書をよく読んで安全に作業してください。

- エンジン始動時はかならず主要運レバーを「N」、作業クラッチを「切」にし、セーフティペダルを「停止」にしてください。機械が急に動いてケガをするおそれがあります。
- 発進および作業クラッチを入れるときは、周囲の人がケガをしないように合図をし、安全を確認してください。
- 機械からはなれるときはかならず駐車ブレーキをかけてください

1E8540-97720

④ 1E6363-97510 注意(収納)

注意 移動走行するときは収納してください。

1E6363-97510

⑫ 1E6684-97130 注意(走行 積降)

注意

運搬、移動時の注意
取扱説明書をよく読んで安全に使用してください。

移動走行

- 公道を走らないでください。
- 大型特種自動車の認定を受けていません。
- 運搬、移動はトラック等で行ってください。

積降ろし・あぜ越え

- アユミ板の上では道路を突かないでください。
- アユミ板を使用して積降ろしをするときは降りて操作してください。(キャビン仕様は乗って操作します。)
- あぜ越えは低速で、あぜに直角に行ってください。
- 高いあぜはアユミ板等を使用してください。

1E6684-97130

⑥ 1E8665-97300 注意(旋回モード)

注意

- 移動走行するときは標準モードに切替えてください。
- 自動減速及び小回りが効かなくなります。

旋回モードの切替え要領

湿田作業では、湿田モードに切替えてください。切替えは主変速「N」ハンドル「中立」で行ってください。

→ 引く ← 押す

湿田モード 標準モード

1E8665-97300

⑭ 1E8500-97220 危険(ラジエータ)

危険

- 高温時にはキャップを開けないでください。
- 熱湯が吹き出しやけどをするおそれがあります。

1E8500-97220

⑰ 1E8230-97030 危険(火気厳禁B)

危険 火気厳禁

- 給油口に火を近づけると火災になるおそれがあります。
- 給油中は、エンジンを停止してください。

ディーゼル軽油

1E8230-97030

⑦ 1E8500-97460 注意(エンジン停止)

⑳ 1E8500-97440 注意(ベルトカバー)

注意

点検時エンジン停止

- 点検整備をするときは、エンジンを停止してください。
- ケガをするおそれがあります。

1E8500-97440

㉓ 1E8645-97490 注意(ステップ操作)(キャビン仕様の場合)

注意

- 1) 移動走行するとき、および刈取作業中は収納してください。
- 2) ステップの直前に人がいないことを確認してから操作してください。

収納式ステップの操作要領

展開するとき 収納するとき

※展開レバーを矢印方向に引くとロックが解除されステップが飛び出します。

※収納ペダルを矢印方向に踏みこむとステップが収納されてロックします。※ステップ上陸を手で矢印方向に動かしても同時にロックされます。

ステップ ステップ

1E8645-97490

⑨ 1E8230-97800 注意(UFO)

注意

- 移動走行、積込み、積降ろし時はかならずUFO自動スイッチを「切」にしてください。
- 機械が急に動かいてケガをするおそれがあります。

1E8230-97800

ー ラベルが損傷した時はー

警告ラベルは、使用者および周囲の作業員などへ危険を知らせる大切なものです。ラベルが損傷した時は、すみやかに貼り替えてください。注文の際には、この図に示す 部品番号 をお知らせください。

安全操作上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害を生じる恐れがあります。

作業前には、本取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解をしてからご使用ください。

作業前に

取扱説明書は製品に近接して保存を

- ・ **注意**
- ・ 機械の取り扱いで分からない事があった時、取扱説明書を製品に近接して保存していないため、自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こし、ケガをする事があります。取扱説明書は、分からない事があった時にすぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

取扱説明書をよく読んで作業を

- ・ **注意**
- ・ 取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、思わぬ事故を起こす事があります。作業を始める時は、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項、取扱要領を十分に理解してから行ってください。

こんな時は運転しないでください

- ・ **警告**
- ・ 体調が悪い時、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。次の場合は、運転しないでください。
 - 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない時。
 - 酒を飲んだ時。
 - 機械操作が未熟な人。
 - 妊娠している時。

服装は作業に適していますか

- ・ **警告**
- ・ 作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。次に示す服装で作業してください。
 - 袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。

- ズボンや上着は、だぶつきのないものを着用する。
- 帽子を着用する。
- はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどはない。

機械を他人に貸す時は

- ・ **警告**
- ・ 機械を他人に貸す時、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からないため、思わぬ事故を起こす事があります。取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

機械の改造禁止

- ・ **注意**
- ・ 機械の改造や、当社指定以外のアタッチメント・部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。機械の改造はしないでください。アタッチメントは、当社指定製品を使用してください。部品交換する時は、当社が指定するものを使用してください。

始業点検の励行

- ・ **注意**
- ・ 始業点検を怠ると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。作業を始める前には、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

燃料を補給する時は

- ・ **危険**
- ・ 給油口に火気を近づけると、火災になる事があります。火気を近づけないでください。給油はエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

エンジン始動・発進する時は

- ・ **警告**
- ・ 換気の悪い場所で運転すると、排気ガスにより中毒になる事があります。窓や戸等をあけ十分に換気をしてください。
- ・ **注意**
- ・ エンジンを始動する時、機械が急に動いてケガをする事があります。駐車ブレーキをかけ、作業クラッチを切ってください。

- ・急発進すると事故を起こす事があります。周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してください。

公道走行禁止

- ・ **注意**
- ・本機はほ場内作業機です。公道での乗車運行はできません。乗車運行した場合は、道路交通法に違反します。一般道路を移動する時は、トラックなどで運んでください。

積み下ろしをする時は

- ・ **注意**
- ・トラックへの積み下ろしの際、機械が転倒しケガをする事があります。平坦で堅固な場所で、登坂角15°以下となるアユミ板を用い低速で行ってください。搭載後は駐車ブレーキをかけ、ロープで固定してください。
- ・トラックへの積み下ろしの際、機械が転倒し、ケガをする事があります。前進で積み込み、後進で降ろす様にしてください。

移動走行する時は

- ・ **危険**
- ・走行中および作業中、転倒するおそれがあります。路肩付近や軟弱地では、十分注意して使用してください。
- ・傾斜地や凹凸地で高速走行すると、転倒・転落し重大事故につながります。低速走行してください。
- ・後進時、後方に障害物があると、転倒や障害物にはさまれ、重大事故につながります。障害物がないことを確認して、後進してください。
- ・ **注意**
- ・本機は、ほ場内作業機です。公道での乗車運行はできません。乗車運行した場合は道路交通法に違反します。
- ・急制動・急旋回を行うと、運転者が振り飛ばされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。急制動・急旋回はしないでください。
- ・側面が傾斜していたり、側溝がある道路で路肩を走行すると、転落事故を起こす事があります。路肩は走行しないでください。

- ・畦を越える時、機械が転倒し、ケガをする事があります。畦越えは低速で畦に直角に行ってください。高い畦を越える時は、アユミ板等を使用してください。
- ・本機の上に人を乗せると、転落し、ケガをする事があります。また、物を載せて走行すると、落下し、周囲の人へケガを負わせる事があります。本機の上には、人や物をのせないでください。
- ・作業クラッチを切らないで走行すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせる事があります。移動走行する時は、作業クラッチを切ってください。

作業中は

作業する時は

- ・ **危険**
- ・運転中および作業中、転倒するおそれがあります。路肩付近や軟弱地では、十分注意して使用してください。
- ・ **警告**
- ・運転中又は回転中、ピックアップに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。ピックアップへの手供給は、危険です。やめてください。ピックアップ部に草が詰まった時は、必ず作業クラッチ及びエンジンを切ってから除去してください。
- ・運転中又は回転中、ローラに接触すると巻き込まれケガをする事があります。ローラに触れないでください。ローラに草が巻き付いた時は、作業クラッチ及びエンジンを切ってから除去してください。
- ・ゲートを開ける時、後方に人がいると壁などの間に挟まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。後方をよく確認してから開けてください。
- ・ゲートを閉じる時、中に人がいるとゲートに挟まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。
- ・傾斜地で排出すると、ボールが転がり、巻き込まれてケガをする事があります。ボールの排出は、平坦な場所で行ってください。
- ・トワインを収納する時及びトワインを通すとき、ローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事

があります。

作業クラッチを切り、エンジンをとめてから行ってください。

- 作業する時、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれケガをする事があります。

周囲に人を近づけないでください。

- 傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をまねく事があります。

低速で作業してください。

坂の途中で副変速レバーを操作したり変速操作をしないでください。また、斜め走行や旋回もしないでください。

暴走する原因となります。坂の前で低速に変速してください。

- わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や、周囲の人への危険回避などができず、思わぬ事故を起こす事があります。

前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。

- 手放し運転をすると、思わぬ方向へ暴走し、事故を起こす事があります。

しっかりとハンドルを握って運転してください。

• 注意

- ゲートの開閉の際、ゲートに挟まれケガをする事があります。

安全を確認して、開閉してください。

- 運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。

カバーを開けないでください。

- 機械の調整や、付着物の除去などを行う時、作業クラッチ及びエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。

作業クラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

— 本機から離れる時は —

• 警告

- エンジンをかけたまま本機から離れると、不意に本機が動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。

エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

作業が終わったら

— 機体を清掃する時は —

• 注意

- 本機の調整や、付着物の除去などを行う時、作業クラッチ及びエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に本機が動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。

作業クラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめてください。

- マフラーに触れるとヤケドをする事があります。マフラーには触れないでください。

- 高圧洗車機等で本機を洗車すると、バッテリー、ブザー、エンジン等に水が入り破損の原因となります。

洗車時、水がかからない様に注意してください。

— 終業点検の励行 —

• 注意

- 作業後の点検を怠ると、作業機の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。

作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

— 不調処置・点検・整備をする時 —

• 警告

- トロイン巻付装置を調整する時、ローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。作業クラッチおよびエンジンを切ってから行ってください。

- ゲートを開けての点検・調整中、不意にゲートが閉まり、挟まれてケガをする事があります。油圧シリンダに安全ストッパを掛け、ゲートを確実に固定してください。

• 注意

- 機械に異常が生じた時、そのまま放置すると、破損やケガをする事があります。取扱説明書に基づき行ってください。

- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、本機が不意に動き出して思わぬ事故を起こす事があります。

平坦で地盤のかたい所で行ってください。

- 作業クラッチおよびエンジンをとめずに点検・整備すると、第三者の不注意により、不意に本機が動き出して思わぬ事故を起こす事があります。

作業クラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

- マフラーに触れるとヤケドする事があります。
マフラーに触れないでください。
- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルで、ケガをする事があります。
補修もしくは部品交換してください。
継手やホースを外す時は、油圧回路内の圧力を無くしてから行ってください。
- 不調処置・点検・整備のため外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをする事があります。
元通りに取り付けてください。



も く じ

•	安全に作業するために			
	安全に関する警告について 1	作業が終わったら 7
	作業前に 5	不調処置・点検・整備をする時 7
	作業中は 6		
1	各部の名称と運転			
	1 各部の名称 11	(7) 機体水平制御 21
	2 各部のはたらき 16	(8) キャビン関係 22
	(1) エンジンコントロール関係 16	(9) 作業部 29
	(2) 作業関係 16	3 運転の仕方 31
	(3) 走行関係 17	1. 走行の仕方 31
	(4) 電装関係 19	2. 停止の仕方 34
	(5) 液晶コンビネーションメータ 20	3. 駐車の方法 34
	(6) ピックアップオートリフト、オートセット、 バックアップ 21	4. トワインの通し方 34
2	運転を始める前の点検			
	1 運転前の点検 36	3 給油箇所一覧表 39
	1. 製品本体の点検 36		
	2. エンジンルーム内部の点検 36		
	2 エンジン始動での点検			
	1. 走行部操作部の点検 36		
	2. 作業機油圧系統の点検 37		
	3. 給油装置の点検 38		
3	運搬の仕方			
	1 アユミ板について 43	3 積み込み方 43
	2 トラックについて 43	4 降ろし方 44

4	作業の仕方	
	1 本製品の使用目的	45
	2 作業をするための調整	45
	1. トワイン巻数の調整	45
	2. トワインガイドの調整	45
	3. 梱包密度の調整	45
	4. ピックアップオートリフト	
	・オートセットでのタイン地上高の設定	46
	5. エプロンの調整	47
	3 作業要領	47
	1. ほ場への出入りの仕方	48
	2. 実作業の要領	48
	3. バインディングの強制作動	50

5	作業が終わったら	
	1 作業後の手入れ	50
	2 長期格納する時	51

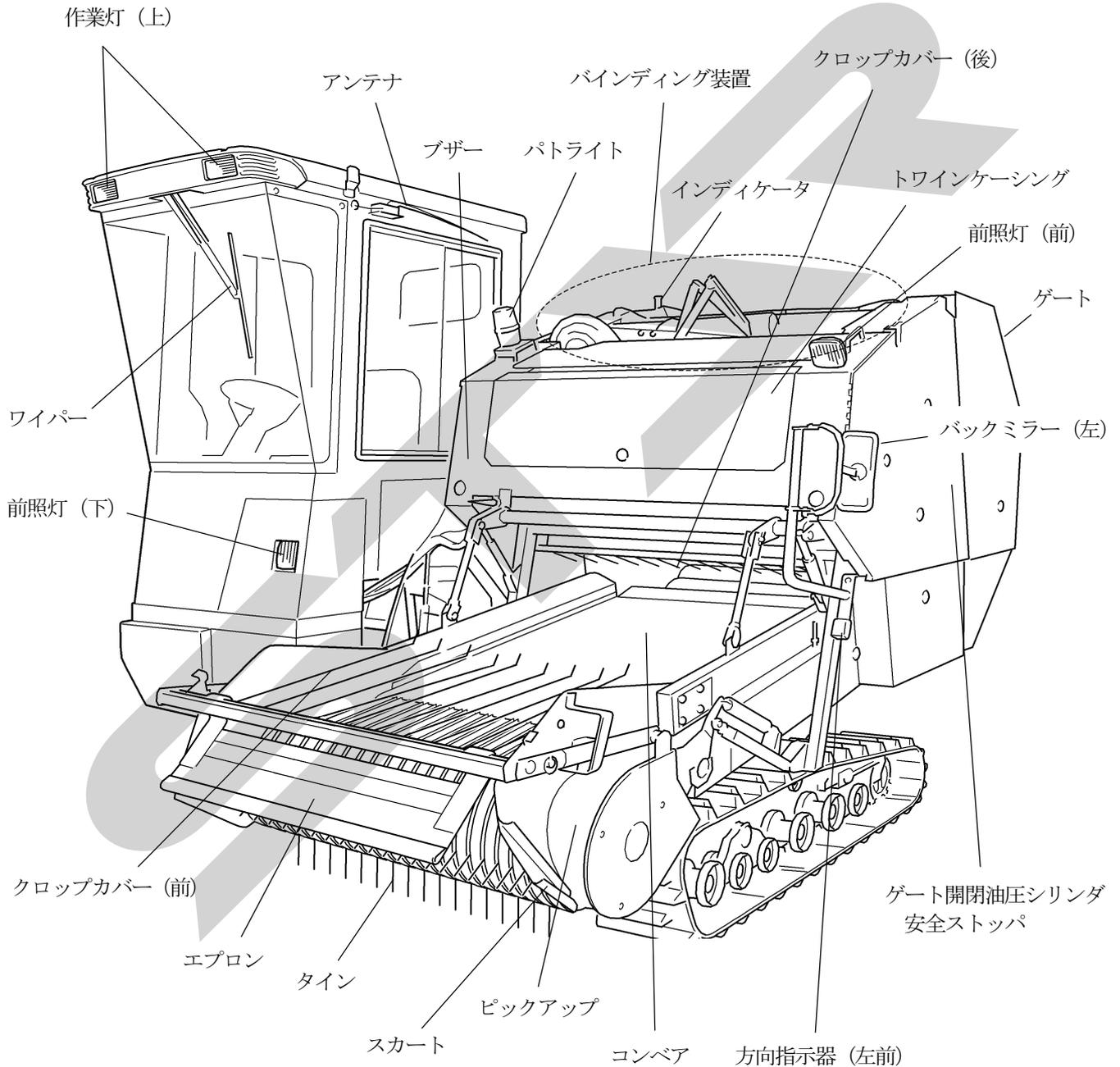
6	点検と整備について	
	1 点検整備一覧表	51
	2 燃料の点検・補給の仕方	53
	3 オイルの点検・補給・交換の仕方	54
	(1) エンジンオイル	54
	(2) ミッションオイル	55
	4 冷却水の点検・補給・交換の仕方	55
	5 エンジンオイルエレメントの交換の仕方	57
	6 HSTフィルタの交換の仕方	57
	7 ウォータセパレータと燃料コシ器エレメントの点検・掃除・交換の仕方	58
	8 燃料タンクのドレン抜き	59
	9 燃料の空気(エア)抜き	59
	10 エアクリーナーの掃除・交換の仕方	59
	11 吸気口・ラジエータスクリーン・ラジエータフィン	60
	の掃除の仕方	
	12 ウォッシュャー液の補充の仕方	62
	13 バッテリーの点検・整備の仕方	62
	14 パイプ類の点検の仕方	63
	15 電気配線の点検の仕方	63
	16 ヒューズの点検・交換の仕方	64
	17 各部ベルトの点検・調節の仕方	64
	18 駐車ブレーキの点検・調節の仕方	65
	19 クローラの点検・調節の仕方	66
	20 排気ガスの色について	66
	21 クーラーガス(冷媒)の点検の仕方	66
	22 各部ローラチェーンの点検・調節の仕方	68
	23 コンベアベルトの点検・調節の仕方	70
	24 ピックアップの浮動調整	70
	25 トワインブレーキの調整	70
	26 トワインスクレーパの調整	70
	27 バインディングナイフの調整	71
	28 スイングアームブレーキの調整	71
	29 クロップカバーの調整	71
	30 トワインブレーキのリンク調整	72
	31 梱包密度検出リンク調整	72
	32 給油装置の空気抜き要領	73

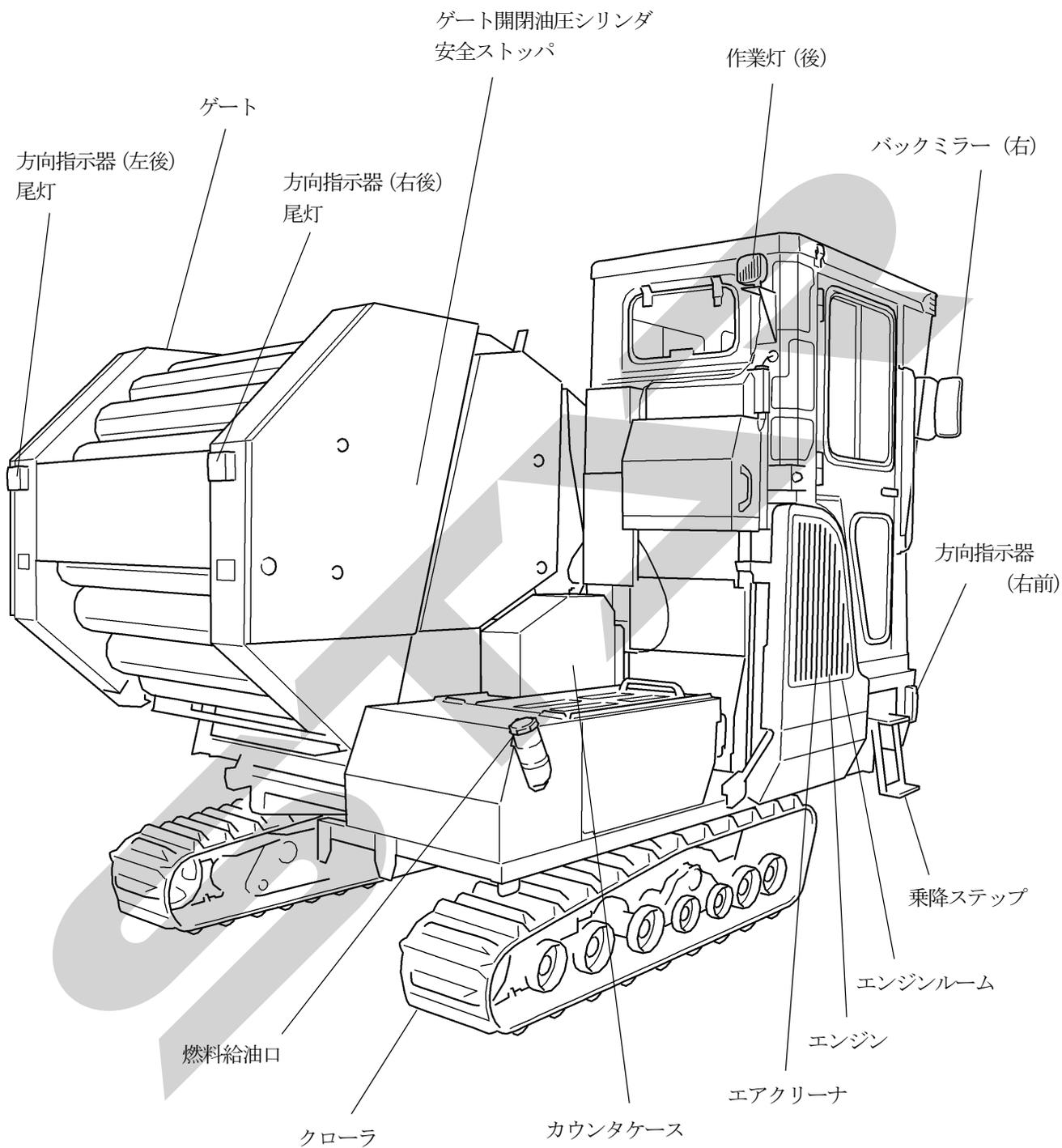
7	不調時の対応	
	1 不調処置一覧表	74

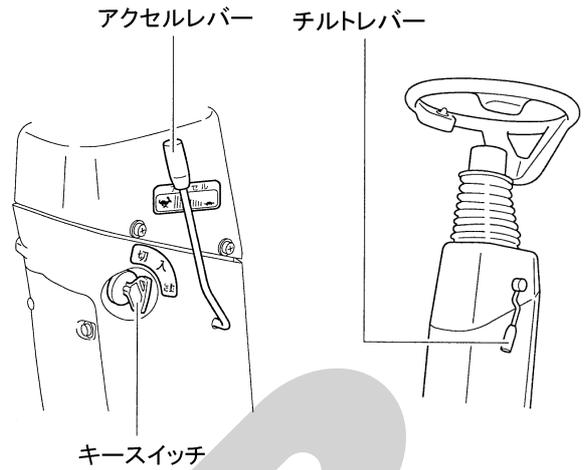
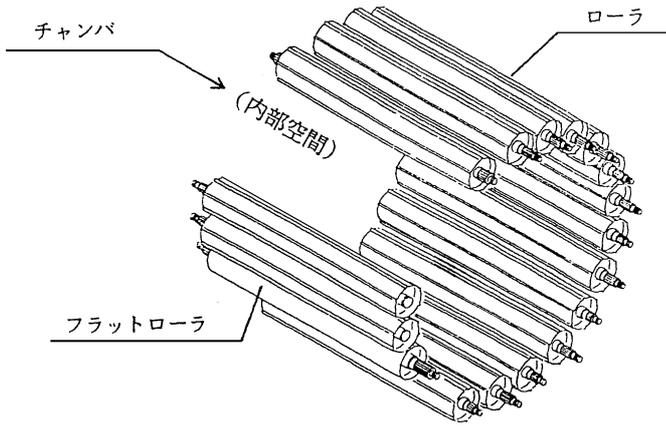
1 各部の名称と運転

適切な装着で安全な作業をしましょう。

1 各部の名称





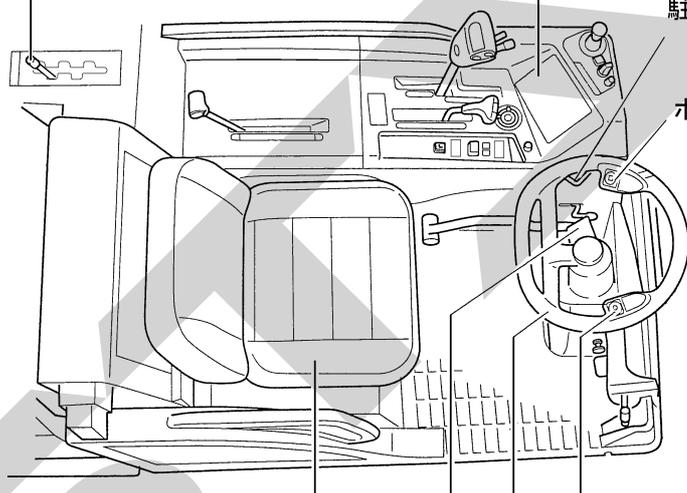


オートセット高さ
調節レバー

液晶コンビネーションメータ

駐車ブレーキ
ロックレバー

ホーンボタン



セフティペダル

ピックアップ
昇降スイッチ

ドライバーシート

ステアリング
ハンドル

旋回モード
切替ノブ

乗降ステップ
収納ペダル

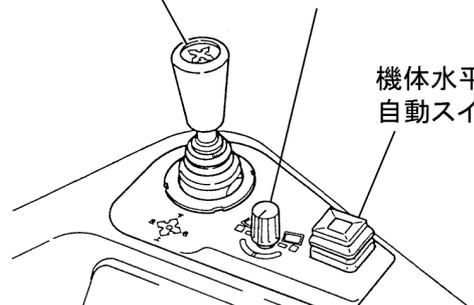
乗降ステップ
解除レバー

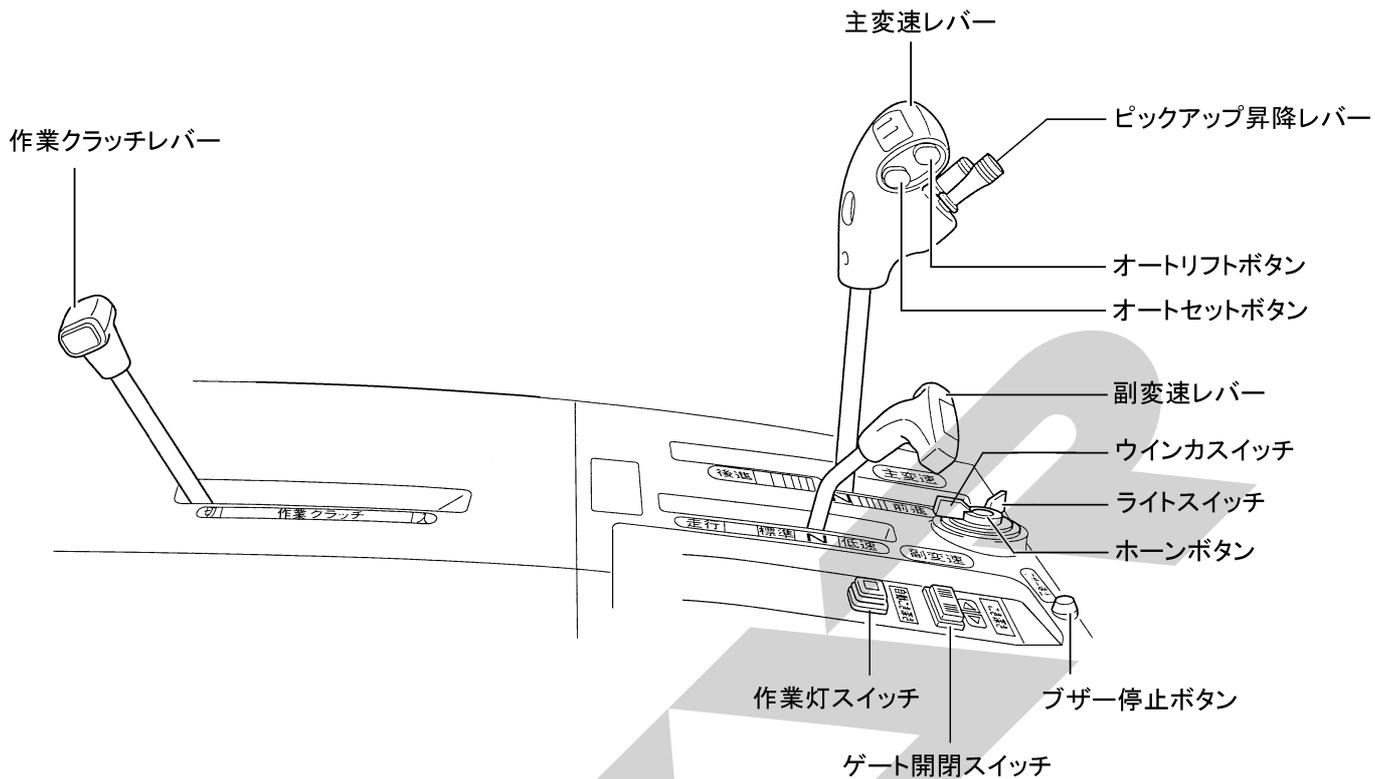


車高調節レバー

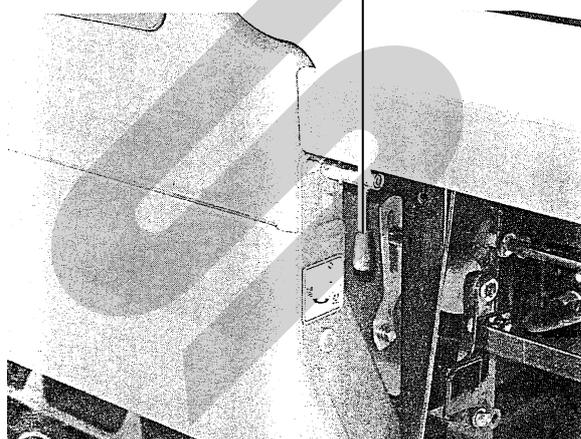
傾斜角調節ダイヤル

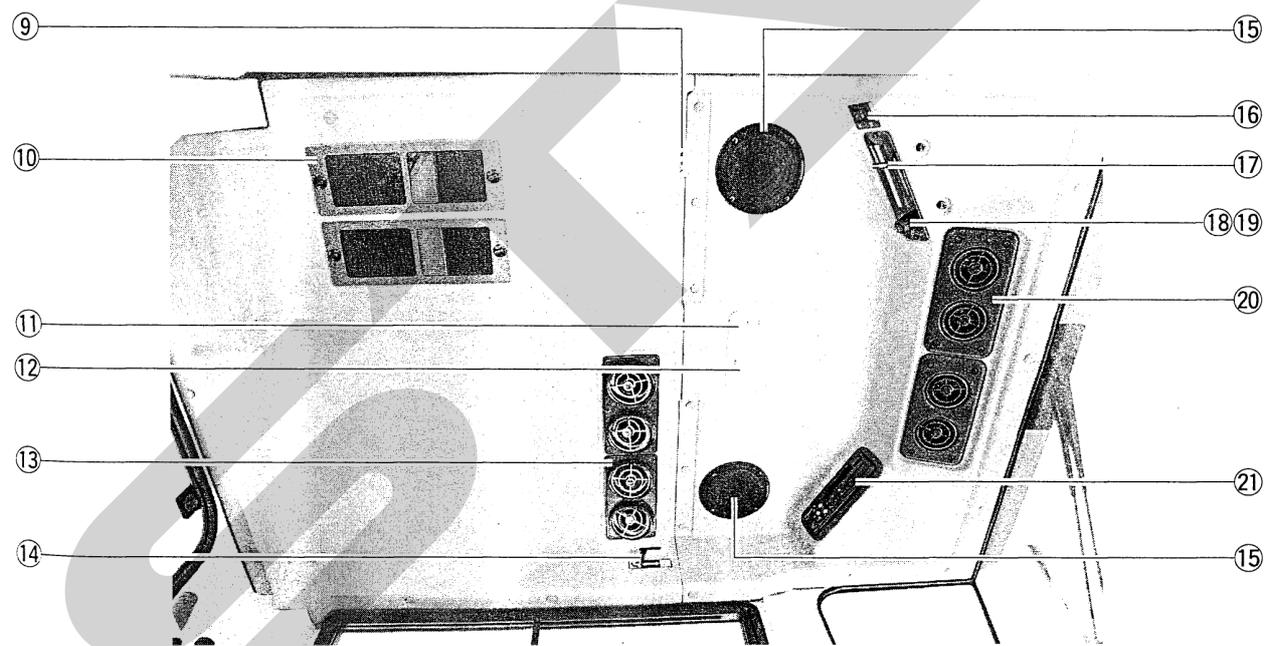
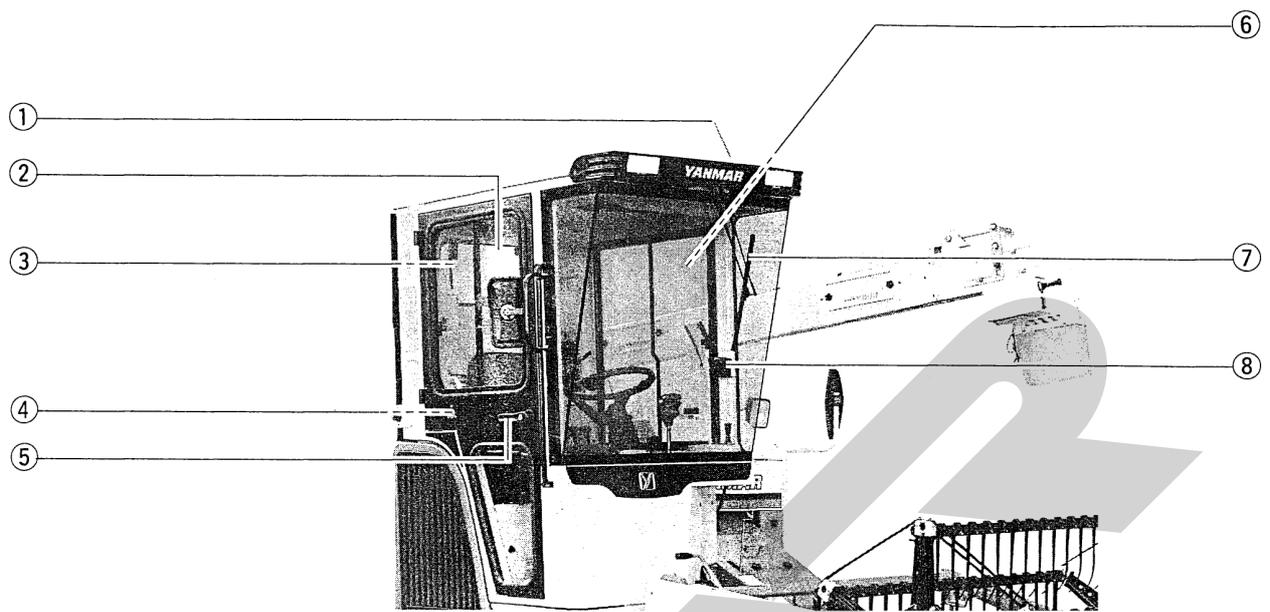
機体水平制御
自動スイッチ





エンジンルームロックレバー





- ①アンテナ
- ②ドアウインドウ
- ③リヤウインドウ
- ④ドアロックボタン
- ⑤ドアハンドル
- ⑥サイドウインドウ
- ⑦ワイパー

- ⑧灰皿
- ⑨ヒューズボックス
- ⑩フィルター
- ⑪ルームランプスイッチ
- ⑫ルームライト
- ⑬風向グリル (後方吹出口)
- ⑭吹出口切替レバー

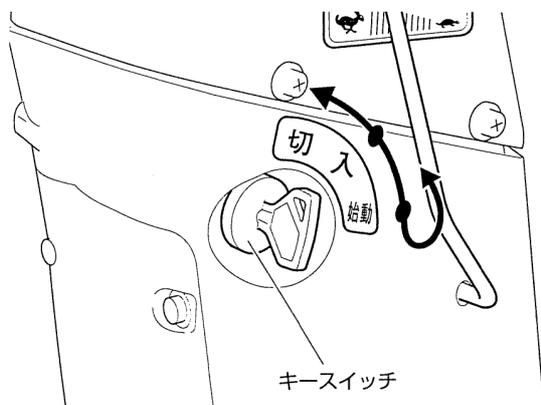
- ⑮スピーカー
- ⑯ワイパー&ウォッシャースイッチ
- ⑰温度コントロールレバー
- ⑱ファンスイッチ
- ⑲エアコンスイッチ
- ⑳風向グリル (前方吹出口)
- ㉑FM・AM付ラジオカセット

2 各部のはたらき

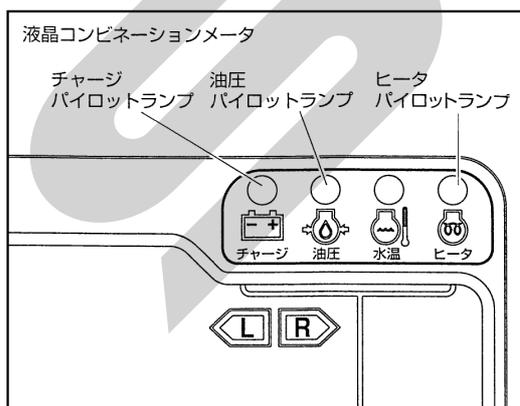
(1) エンジンコントロール関係

①キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。



- ・「切」位置 …… エンジン停止時に使用する。(電流は流れず、キーを抜き取れる)
- ・「入」位置 …… 各電装スイッチに電流が流れる。エンジンが停止している場合は、液晶コンビネーションメータの油圧パイロットランプとチャージパイロットランプが点灯する。(⇒57 ページ参照)
- ・「始動」位置 …… セルモータが回転し、エンジンが始動する。
エンジンが始動したらキーから手を離す。キーは自動的に「入」位置に戻り、連続運転に入る。

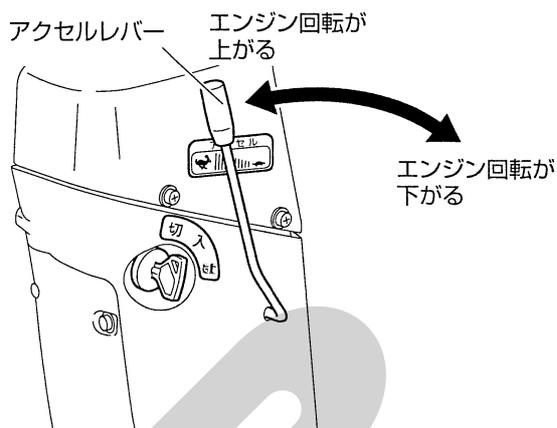


参考

- ・寒冷時にキースイッチを「入」位置にすると、自動的にエアヒータが作動し、エンジン始動を容易にします。(エアヒータが働いているときは、液晶コンビネーションメータのヒータパイロットランプが点灯します。また、エンジンが始動すると、エアヒータの通電が停止し、ヒータパイロットランプも消灯します。)

②アクセルレバー

エンジン回転の上げ下げに使用します。

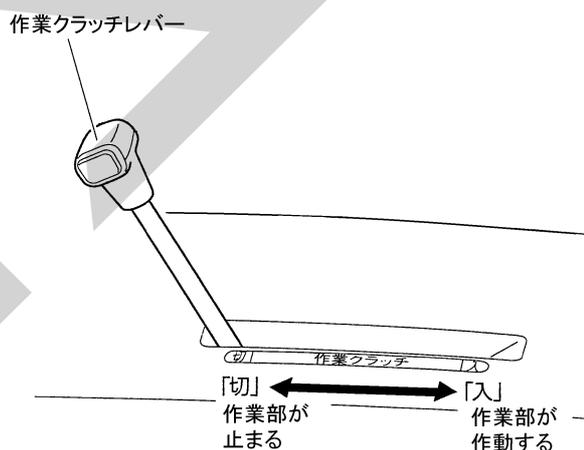


- ・手前に引く …… エンジンの回転上がる
- ・前方に押す …… エンジンの回転下がる

(2) 作業関係

①作業クラッチレバー

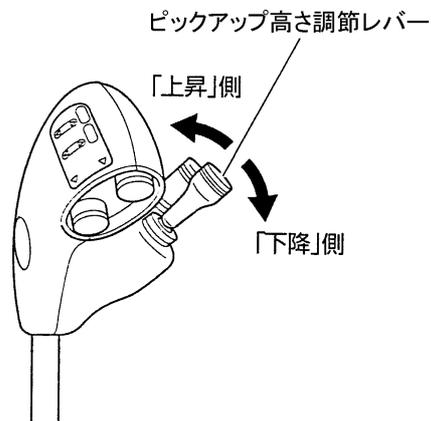
作業部の作動・停止に使用します。



- ・「入」位置 …… 作業部が作動する
- ・「切」位置 …… 作業部が停止する

②ピックアップ高さ調節レバー

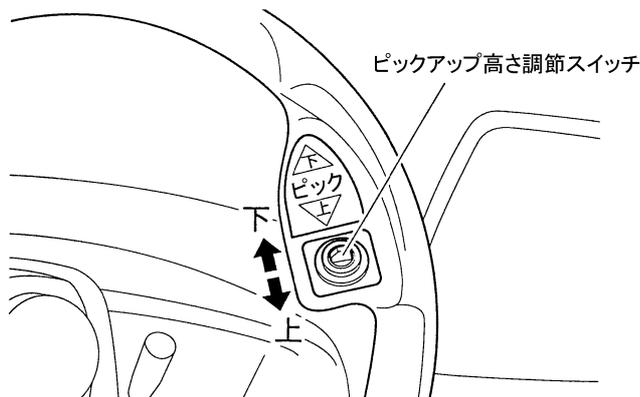
ピックアップの上昇、下降に使用します。



- ・「下降」側 …… ピックアップが下がる
- ・「上昇」側 …… ピックアップが上がる

③ピックアップ高さ調節スイッチ

ハンドルを握ったままで、ピックアップの上昇・下降をするときに使用します。



- ・「下」側 …… ピックアップが下がる
- ・「上」側 …… ピックアップが上がる

取扱い上の注意

- ・主変速レバー部のピックアップ高さ調節レバーとハンドル部の高さ調節スイッチを同時に逆方向に使用したときには、ピックアップの上昇・下降が止まります。
- ・ピックアップの昇降は、エンジンを始動しないとできません。

(3) 走行関係

①ステアリングハンドル

機体を旋回するときに使用します。

ハンドルを右へ回すと機体が右へ旋回し、左へ回すと機体が左に旋回します。

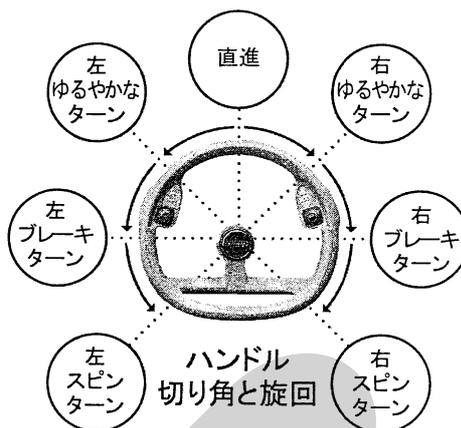
さらにハンドルを右または左へ回すと、左右のクローラが逆転し、旋回半径が小さくなります。

ステアリングハンドルの操作量と旋回角度について

ハンドルの操作量によって、旋回角度の調節ができます。ハンドルを回した側のクローラが徐々に減速され、約1/4回転(約90°)で、クローラの速度がゼロになり、ブレーキターンの状態になります。

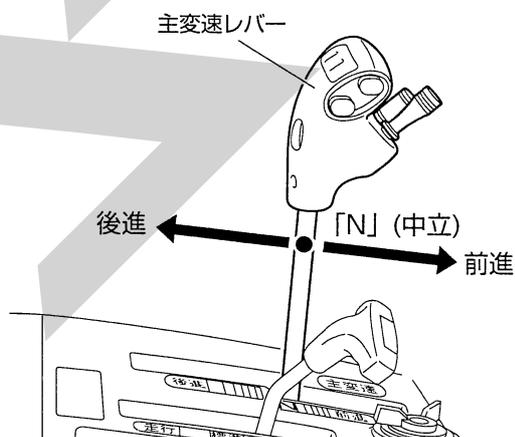
さらにハンドルを回すと、徐々にクローラが逆転し始め、約135°でスピンの状態になります。

〈ハンドル切角と旋回状態〉



②主変速レバー (HST)

前進・後進の進行方向と走行速度の調節、および走行停止に使用します。



- ・「前進」側 …… 機体が前進する
- ・「後進」側 …… 機体が後進する
- ・「N」(中立)位置 …… 機体が停止する

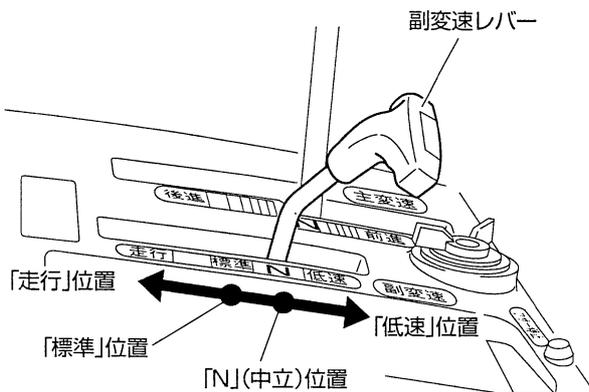
走行速度は、レバーの操作量によって無段階に選べます。

取扱い上の注意

- ・セフティペダルを踏み込んでいるときは、主変速レバーは「N」(中立)位置に戻り、主変速レバーの操作はできません。

③副変速レバー

使用目的や条件により、「低速」「標準」「走行」の3段階の走行速度が選べます。



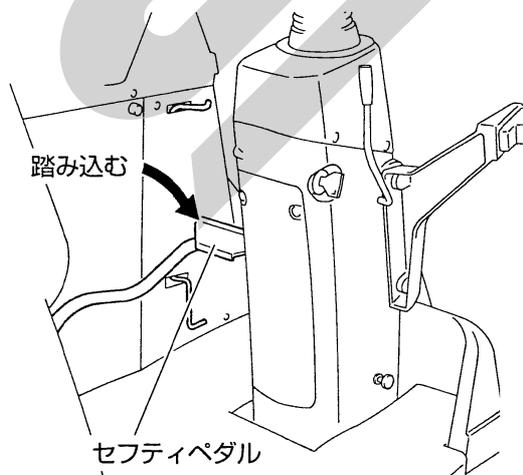
- ・「低速」位置 …… トラックへの積み降ろし
- ・「標準」位置 …… 標準的な作業
- ・「走行」位置 …… 移動走行
- ・「N」(中立)位置 …… 走行しない

取扱い上の注意

- ・副変速レバーによる変速は、主変速レバーを必ず「N」(中立)位置にして、機体が完全に停止してから変速してください。
- ・セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。
- ・坂道では変速しないでください。

④セフティペダル

エンジン始動時、および走行中の緊急停止時に使用します。



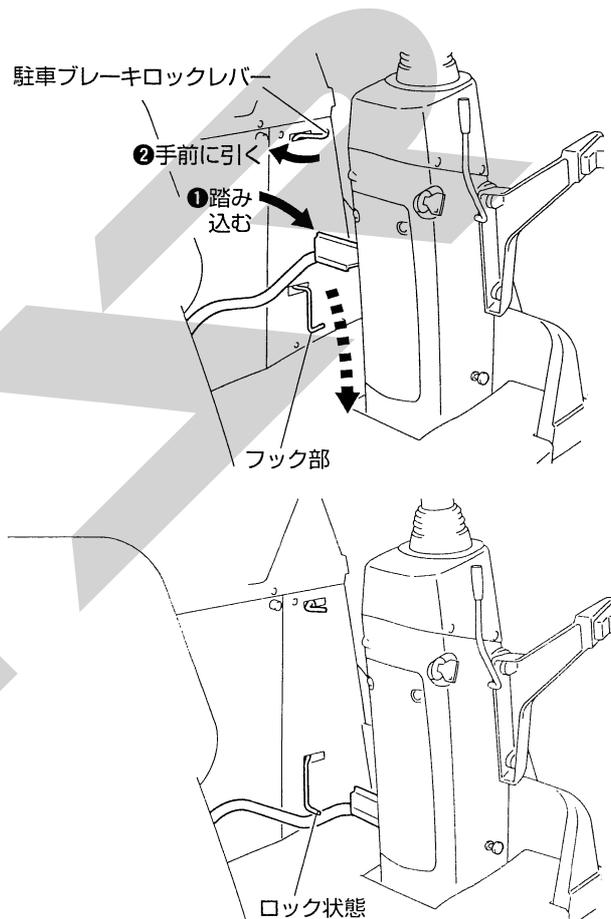
セフティペダルを踏み込むと、主変速レバーが「N」(中立)位置に戻り、本機が停止し、ブレーキが効きます。

参考

- ・通常の走行停止は、主変速レバーを「N」(中立)位置にして行ってください。

⑤駐車ブレーキロックレバー

ドライバーシートに座って、駐車ブレーキをかけるときに使用します。



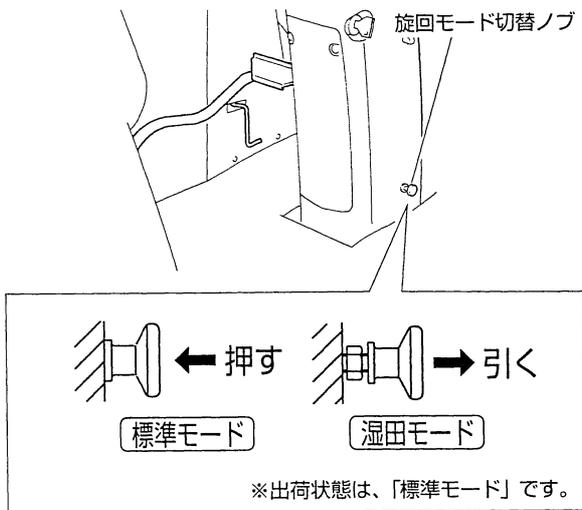
セフティペダルをいっぱい踏み込んで、駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけると、駐車ブレーキがかかります。解除するときは、セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フックが外れ解除できます。

参考

- ・駐車ブレーキをかけると、主変速レバーは「N」(中立)位置に戻ります。

⑦ 旋回モード切替ノブ

旋回モードを切り替えるときに使用します。



旋回モードを切替ノブは、主変速レバーを「N」（中立）位置、ステアリングハンドルを「中立」にして操作してください。

- ・ノブを押し込む …… 標準モード
(スピンターンする)
- ・ノブを引き出す …… 湿田モード
(スピンターンしない)

参考

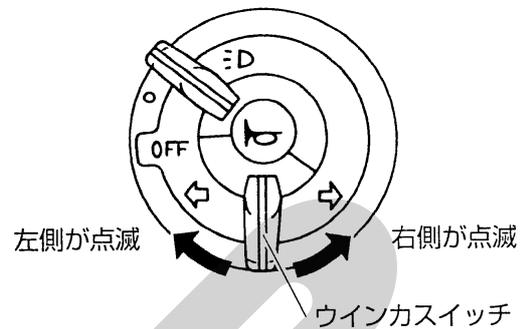
- ・「標準モード」では、旋回時に自動減速が働いて小回りができますが、「湿田モード」では、自動減速せずに大回りになります。移動走行するときは、「標準モード」にしてください。
- ・乾田作業・移動走行では、「標準モード」を使用してください。湿田作業をする場合は、「標準モード」でも十分に作業は可能ですが、機体の沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに湿田性能が向上します。

	標準モード	湿田モード
旋回時の車速	減速する	減速しない
副変速「標準」での旋回	スピンターンする (小回り)	スピンターンしない (大回り)
乾田での旋回	◎	○
湿田での旋回	○ (ハンドルを切りすぎない)	◎ (旋回力大)
移動走行性能	◎	× (使用不可)
車庫入れ性能	◎	× (使用不可)

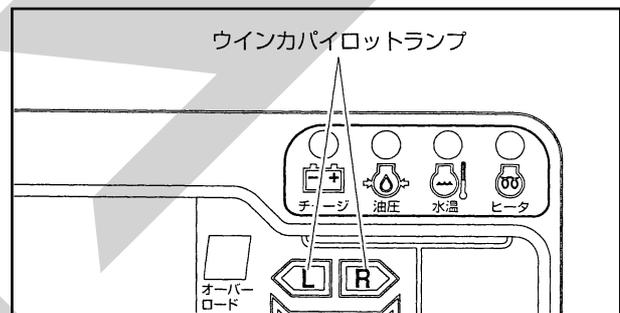
(4) 電装関係

① ウィンカスイッチ

方向指示器（ウィンカ）を点滅させるときに使用します。

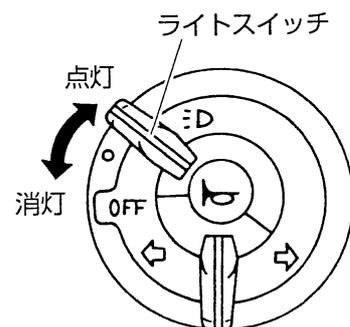


キースイッチが「入」位置のとき、旋回する側の矢印方向にスイッチを回すと、方向指示器が点滅します。同時に液晶コンビネーションメータのウィンカパイロットランプも点滅します。



② ライトスイッチ

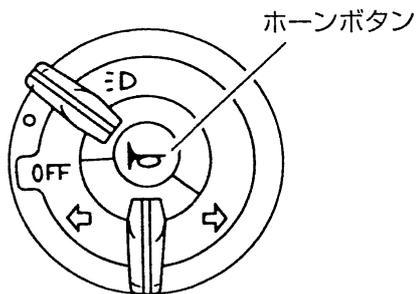
前照灯を照射させるときに使用します。



キースイッチが「入」位置のとき、ライトスイッチを右（点灯）側に回すと前照灯が照射し、左（消灯）側に回すと消灯します。

③ホーンボタン

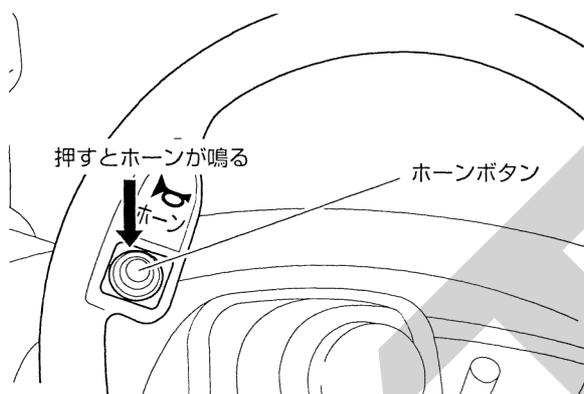
ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。



キースイッチが「入」位置のとき、ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

〈ハンドル部〉

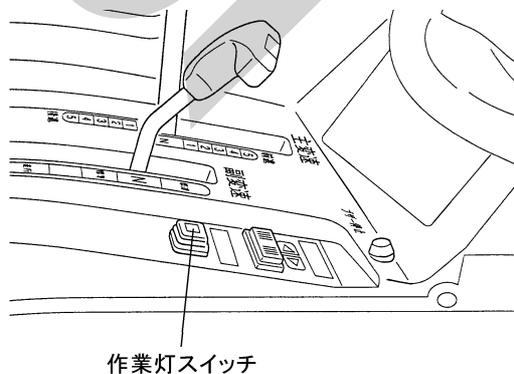
ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。



キースイッチを「入」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

④作業灯スイッチ

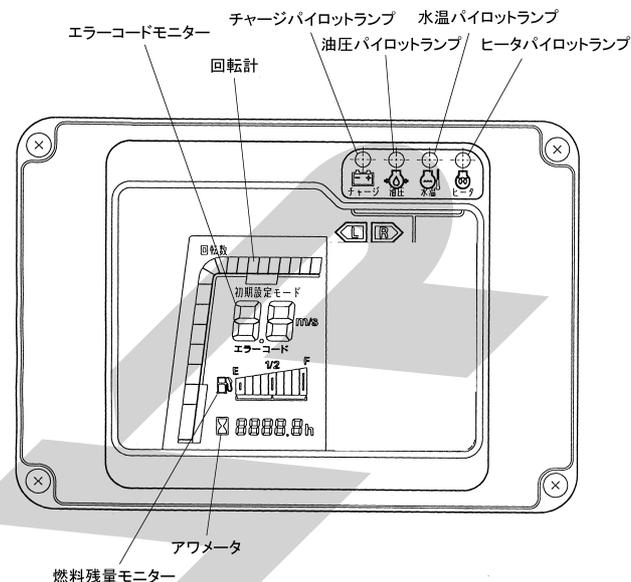
作業灯を点灯するときに使用します。



キースイッチが「入」位置のとき、作業灯スイッチを押して「入」（ランプ点灯）にすると、作業灯が点灯します。

(5) 液晶コンビネーションメータ

運転中の各部の状態や、異常があった場合の警告装置で、異常箇所を液晶グラフィックモニターとブザーで知らせます。



①回転計

エンジン回転数を表示します。

②アワメータ

エンジンの使用時間を表示します。（エンジンを始動すると、カウントを始めます。）

③充電パイロットランプ

エンジン回転中にバッテリーに充電しなくなったときに、赤ランプが点灯し、ブザーが連続で鳴ります。

④油圧パイロットランプ

エンジン潤滑油の油圧が低下したときに、赤ランプが点灯し、ブザーが連続で鳴ります。

⑤水温パイロットランプ

エンジンの冷却水温が異常に上がったときに、赤ランプが点灯し、ブザーが連続で鳴ります。

⑥ヒータパイロットランプ

エアヒータ作動時に点灯します。

⑦エラーコードモニター

センサやコントローラに異常が生じたときに、「エラーコード」の文字が点滅し、エラーコード表示部にエラーコードを表示します。

(エラーコード表示部にエラーコードを表示させるときは、ブザー停止ボタンを5秒間押ししてください。)

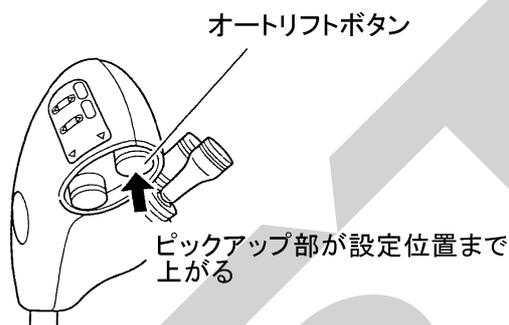
⑧燃料残量モニター

燃料の残量を表示します。また、燃料の残量が少なくなったときに  マークが点滅し、ブザーが断続音で鳴ります。ブザー停止ボタンを押すとブザーが鳴り止みます。 マークは点滅したままです。

(6) ピックアップオートリフト、オートセット、バックアップ装置

①オートリフトボタン

設定している高さに、ピックアップを上昇させるときに使用します。



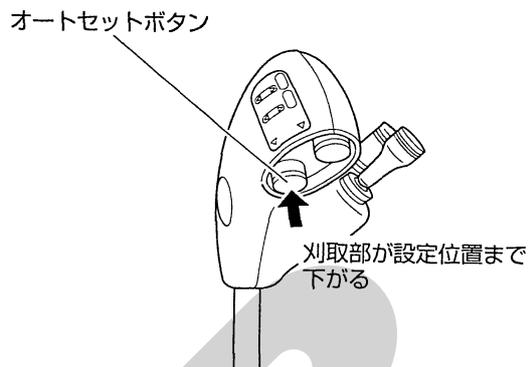
作業クラッチレバーが「入」位置のとき、オートリフトボタンを押すと、ピックアップが設定位置まで上昇します。

取扱い上の注意

- ・エンジンが停止している場合でも、作業クラッチレバーとキースイッチが「入」位置になると、刈取部が下降することがありますので注意してください。

②オートセットボタン

設定している適正な高さに、ピックアップを下降させるときに使用します。



作業クラッチレバーが「入」状態で、オートセットボタンを押すと、刈取部が設定位置まで下降します。

③バックアップ

機体後進時、ピックアップのタイヤが地面をひっかけるのを防ぐ為、自動でピックアップが上昇する装置です。

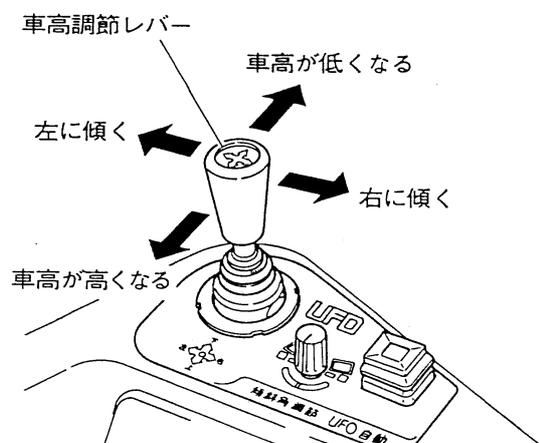
作業クラッチレバーが「入」位置で、機体を後進させるとオートリフト高さまでピックアップが上昇します。

(7) 機体水平制御

・注意

- ・傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、機体水平制御自動スイッチを「OFF」(ランプ消灯)にして、車高調節レバーで車高を最も低い位置まで下げてください。機械が急に傾き転倒し、ケガをするおそれがあります。

①車高調節レバー



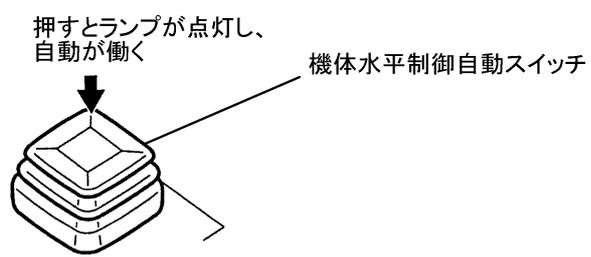
- ・前方に倒す …… 車高が低くなる
- ・後方に倒す …… 車高が高くなる
- ・左に倒す …… 車高が左に傾く
- ・右に倒す …… 車高が右に傾く

参考

- ・機体水平制御装置には、手動優先回路が組み込まれていて、自動制御中でも車高調節レバーを操作すると、手動で機体の昇降角度を調節できます。自動調節をやめると自動制御が働きます。
- ・自動制御中に手動で機体の角度や車高を調節したときは、機体水平制御スイッチのランプは消灯します。

②機体水平制御自動スイッチ

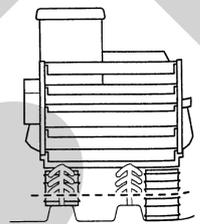
機体を水平に自動制御するときに使用します。傾斜角調節ダイヤルにより、自動制御する角度を調節できます。



作業クラッチレバー「入」位置のときに、スイッチを押すごとに「入」「切」を繰り返します。

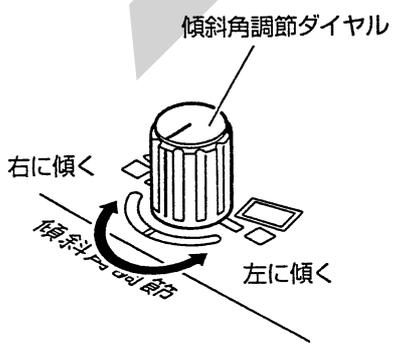
- ・「入」(ランプ点灯) … 自動制御が働く
- ・「切」(ランプ消灯) … 自動制御が切れる

ほ場の起伏やうねの高さが変化しても、常に機体を水平に保ちます。



③傾斜角調節ダイヤル

車体の角度を一定に保ちたいときに使用します。



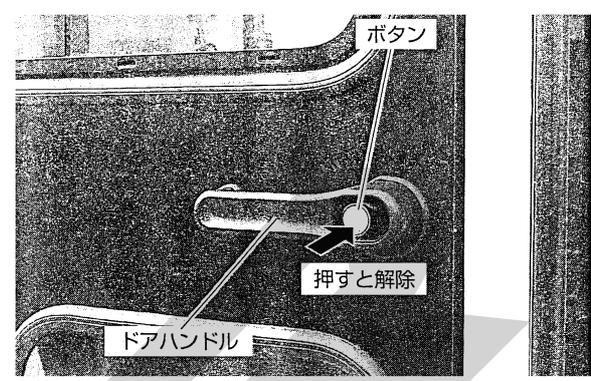
- ・中央位置 …… 車体が水平になる
- ・☞ 方向に回す …… 車体が右に傾く
- ・☜ 方向に回す …… 車体が左に傾く

(8) キャビン関係

①ドアハンドル (外側・内側)

車外からドアを開閉するときに使用します。

- ・外側



〈開けかた〉

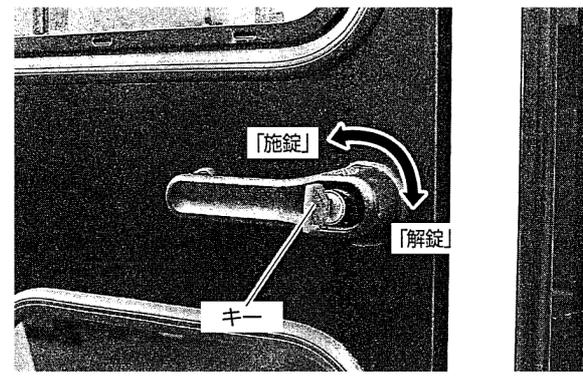
ドアハンドルを持ち、ボタンを押してロックを解除した後、ドアを開いてください。

〈閉めかた〉

ドアハンドルを持ち、確実にロックされるまで閉めてください。

参考

- ・ドアを閉めたときは、半ドアになっていない必ず確認してください。



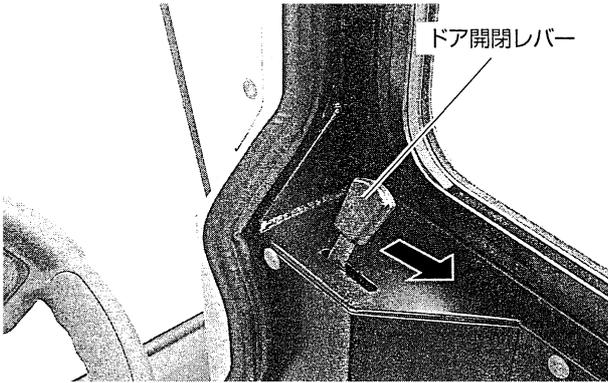
〈施錠のしかた〉

- ① ドアハンドルのボタン部にキーを差し込み、左側に90度回してください。ドアが施錠されます。
- ② キーを抜いてください。

〈解錠のしかた〉

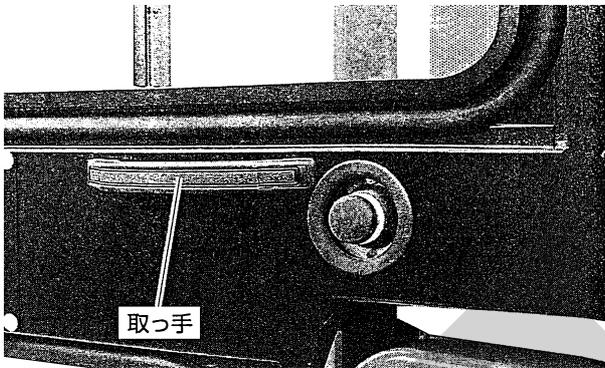
- ① ドアハンドルのボタン部にキーを差し込み、右側に90度回してください。ドアが解錠されます。
- ② キーを抜いてください。

・内側



〈 開けかた 〉

ドア開閉レバーを後方に引いてください。ドアが開きます。



〈 閉めかた 〉

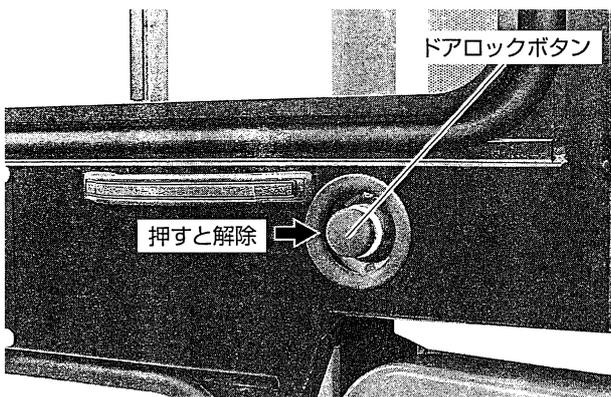
取っ手をもち、確実にロックされるまで閉めてください。

参考

- ・ドアを閉めたときは、半ドアになっていないか必ず確認してください。

②ドアロックボタン

ドアを開けて作業をするときに使用します。



〈 開けかた 〉

ドアを後方に、いっぱいまで開いてください。ドアは自動的に固定されます。

〈 閉めかた 〉

ドアロックボタンを押してください。ドアの固定が解除されます。

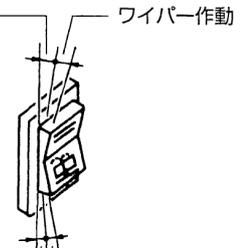
③ワイパー&ウォッシャースイッチ

ワイパーの作動と、ウォッシャー液を噴出するときに使用します。

キースイッチが「入」位置のとき

- ・スイッチの上側を1段押す
..... ワイパーが作動する
- ・スイッチの上側を最後まで押す
..... 押している間は、ワイパーが作動しながらウォッシャー液が洗浄液噴出口から噴出する
- ・スイッチの下側を1段押す
..... ワイパーが停止する
- ・スイッチの下側を最後まで押す
..... 押している間は、ウォッシャー液が洗浄液噴出口から噴出する

ウォッシャー液噴出+ワイパー
スイッチを押している間、ワイパーが作動しながらウォッシャー液が噴出します。



ウォッシャー液噴出
スイッチを押している間、
ウォッシャー液が噴出します。

ワイパー停止

取扱い上の注意

- ・ウインドウガラスが乾いているときは、ワイパーを作動させないでください。ガラスやワイパーが傷つくおそれがあります。必ず、ウォッシャー液で濡らしてからワイパーを作動させてください。
- ・ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。ウォッシャー液が出ない状態で作動させるとウォッシャーモータの故障の原因になります。
- ・寒冷時、ワイパーブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがあります。張りついたまま作動させると、ワイパーが破損するおそれがあります。

りますので、吹出口切替レバーを「フロントガラス側」位置にして、温風でフロントガラスを暖めてください。

- ・エンジン停止状態でワイパーを長時間使用しますと、バッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

④アンテナ

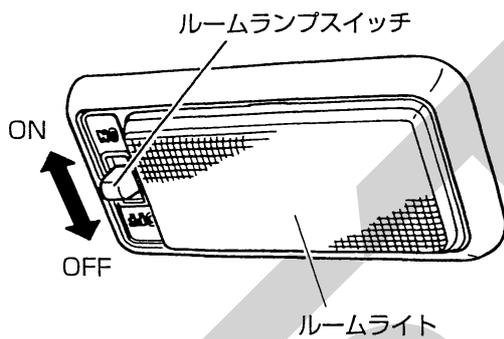
FM・AMラジオを使用するときに使用します。

取扱い上の注意

- ・FM・AM付ラジオカセットを使用しないときは、必ずアンテナを収納してください。
- ・格納するときは、必ずアンテナを収納してください。

⑤ルームランプスイッチ

キャビン内で作業するときに使用します。



キースイッチが「入」のとき

- ・「ON」位置 … ルームライトが点灯する
- ・「OFF」位置 … ルームライトが消灯する

参考

- ・「ON」と「OFF」の中間位置ではルームライトは点灯しません。

⑥FM・AM付ラジオカセット

ラジオを使用するときは、アンテナを立ててください。

〈ハーネスの接続について〉

FM・AM付ラジオカセットへの電源の供給のしかたは変更できます。キャビンインナーカバー内のフィルタを外して、中にあるハーネスの接続を行ってください。

〈通常の接続について〉

ハーネスの接続は、赤白とピンクが接続されています。

参考

- ・通常の接続では、キースイッチを「切」位置にすると、本体から電源が切れて、プリセットメモリーおよび時計表示が消えますので、再セットが必要です。この接続状態は、バッテリー放電防止のために、バックアップ電源をキースイッチ「切」位置で切ってしまうため、故障ではありません。

〈農繁期などで、コンバインを頻繁に使用するときの接続について〉

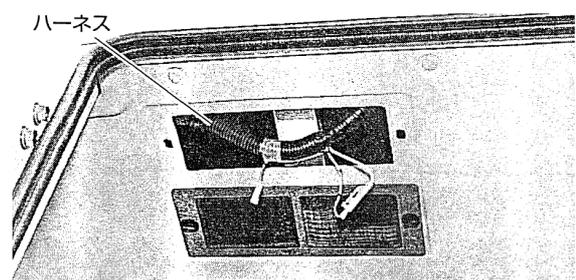
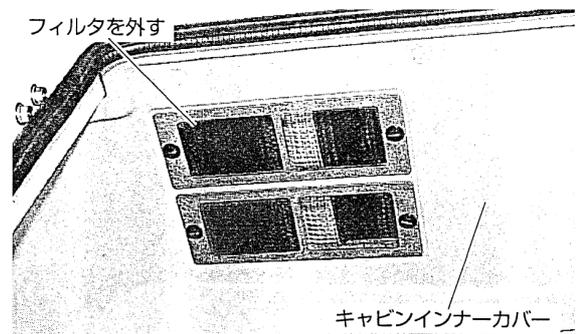
- ①通常の接続（赤白とピンク）を外してください。
- ②赤黒（バックアップ電源用）とピンクを接続してください。

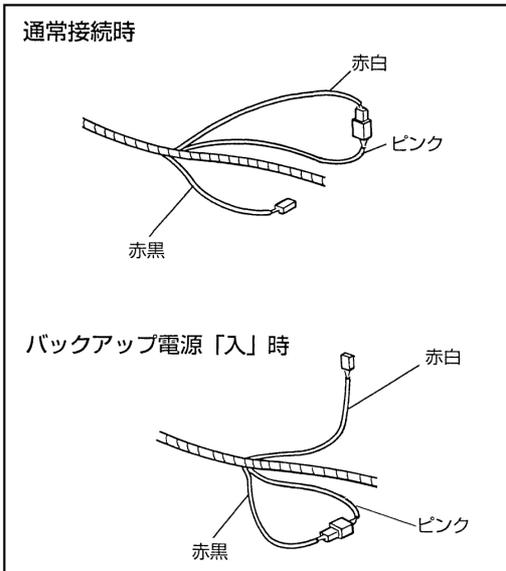
参考

- ・この接続状態では、プリセットメモリーおよび時計表示は、キースイッチの「入」「切」位置に関係なく作動します。

取扱い上の注意

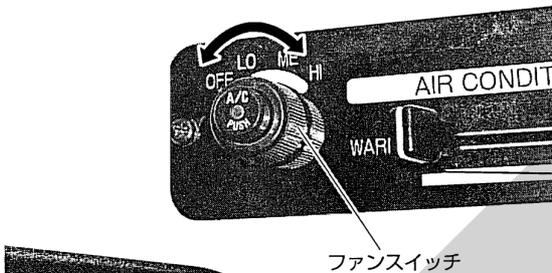
- ・赤黒とピンクを接続した状態では、長期間（1ヶ月以上）使用しないと、バッテリーが放電して使用できなくなることがあります。必ず赤黒（バックアップ電源用）を外し、通常の接続状態（赤白とピンク）に戻してください。





⑦ファンスイッチ

風量を調節するときに使用します。



風量を3段階に調節できます。

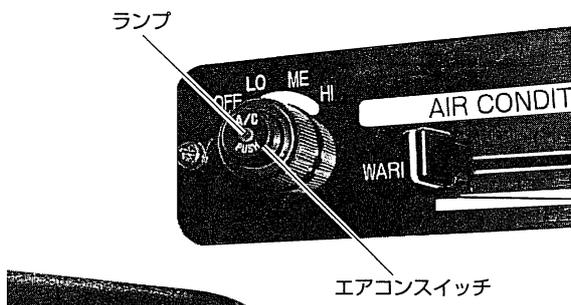
- ・「OFF」位置 …… ファン回転停止
エアコンスイッチの青ランプが点灯しているとき
- ・「LO」位置 …… 弱風
- ・「ME」位置 …… 弱風と強風の間
- ・「HI」位置 …… 強風

参考

- ・エアコンスイッチを入れる前に、ファンスイッチを希望の風量位置にセットしておきます。

⑧エアコンスイッチ

エアコン電源を「ON」「OFF」するときに使用します。



キースイッチが「入」位置のとき

- ・1回押す …… エアコン「ON」
(ランプ点灯)
- ・ランプ点灯時に押す …… エアコン「OFF」
(ランプ消灯)

取扱い上の注意

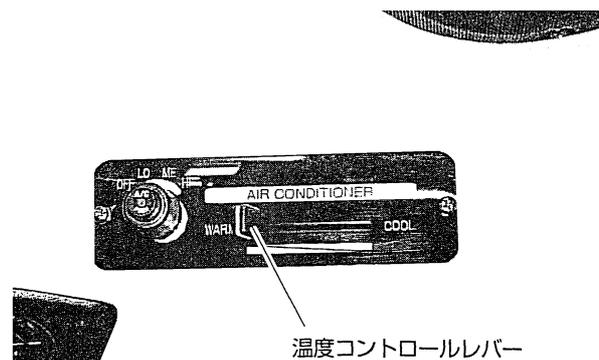
- ・エアコンスイッチは、コンプレッサなどに無理な力をかけないために、エンジンを始動してから「ON」(ランプ点灯)にしてください。
- ・エアコンスイッチ「ON」(ランプ点灯)の状態、風が出ない、風力が弱い状態が続く、または冷房不良の場合は、エアコンスイッチを「OFF」(ランプ消灯)にしてください。異常な状態での連続運転は、ブローモータやコンプレッサの損傷につながります。

参考

- ・ファンスイッチが「OFF」位置のときは、エアコンスイッチを「ON」(ランプ点灯)にしてもエアコンは作動しません。

⑨温度コントロールレバー

エアコンの風の温度を調節するときに使用します。



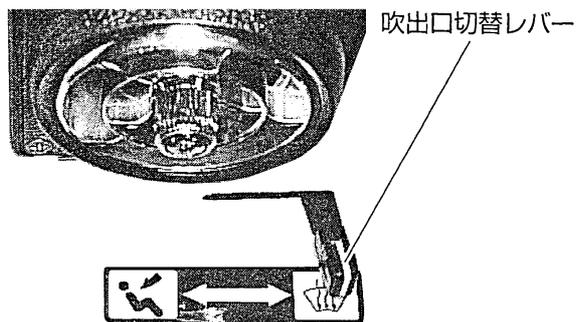
- ・「WARM」側 …… 近づけるほど風の温度は高くなる
- ・「COOL」側 …… 近づけるほど風の温度は低くなる

参考

- ・除湿をするときは、「WARM」と「COOL」の間位置にしてください。

⑩吹出口切替レバー

温風・冷風の噴出口を切り替えるときに使用します。

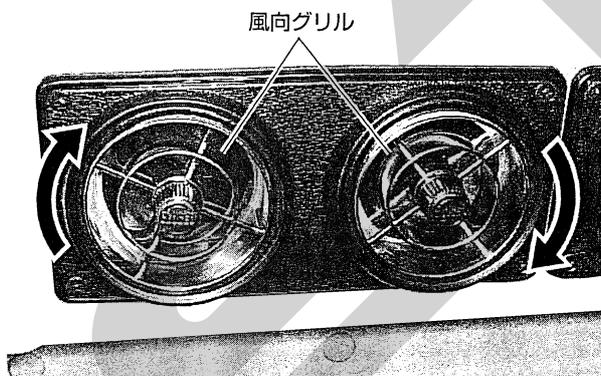


オペレータ側 中間位置 フロントガラス側

- ・オペレータ側 …………… オペレータ側に吹き出す
- ・フロントガラス側 …… フロントガラスに向かって吹き出す
- ・中間位置 …… オペレータ側・フロントガラス側からの吹き出し量が変わる

⑪風向グリル

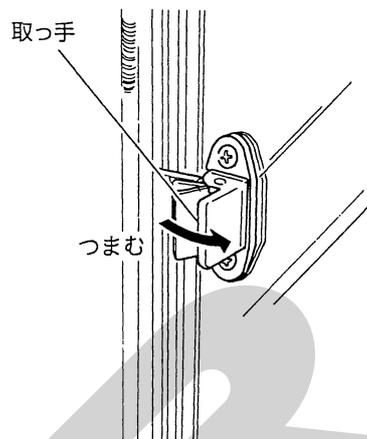
風量を変更するときに使用します。
風向グリルは、キャビン内の前方と後方にあります。



吹出口の風向グリルを矢印方向（右回転）に回転すると風量が少なくなり、反回転（左回転）にすると風量が多くなります。

⑫ドアウインドウ・サイドウインドウ

開閉することができます。



〈 開けかた 〉

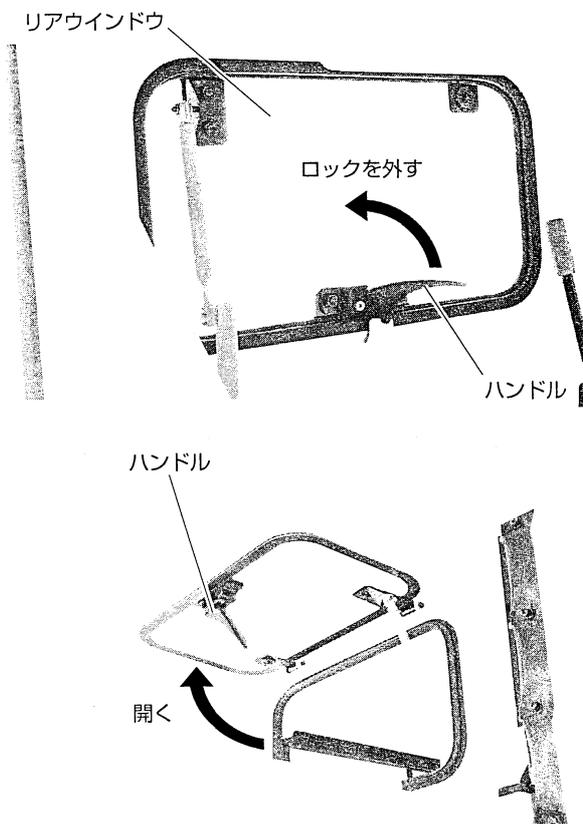
ウインドウの取っ手をつまんで横に引いてください。

〈 閉めかた 〉

ウインドウをいっぱいまで閉めると、自動的にロックされます。

⑬リアウインドウ

開閉することができます。



〈開けかた〉

ハンドルを回してロックを外し、そのまま外側に押ししてください。窓が自動的に開きます。

〈閉めかた〉

ハンドルを持って手前に引き寄せ、ハンドルを回してロックしてください。

⑭灰皿

・注意

- ・灰皿を掃除するときは、灰皿内のたばこの火が確実に消えて、灰皿が十分に冷えてから行ってください。

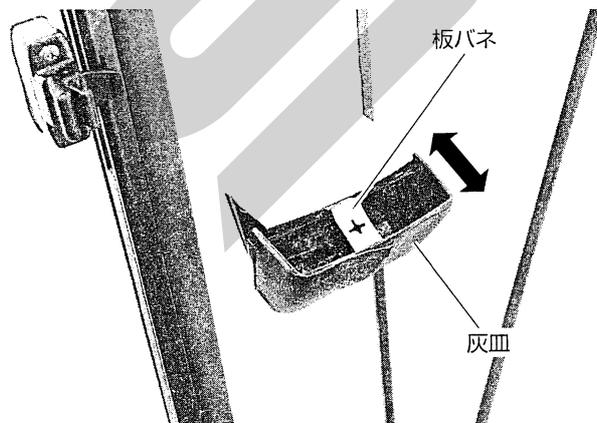
〈使いかた〉

灰皿はキャビン内の左前方にあります。灰皿を開いて使用してください。使用後は、灰皿を押して収納してください。

〈灰皿の取り外しかた〉

灰皿を掃除するときは、下記の要領で脱着してください。

- ①灰皿を開いてください。
- ②板バネを軽く押さえながら、灰皿を引き出してください。

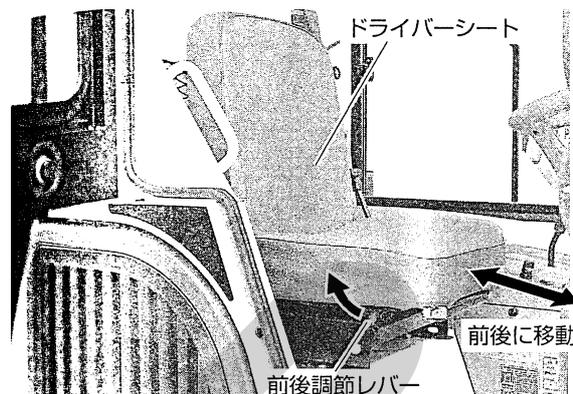


〈灰皿の取り付けかた〉

取り外しの逆手順で取り付けてください。

⑮ドライバーシート

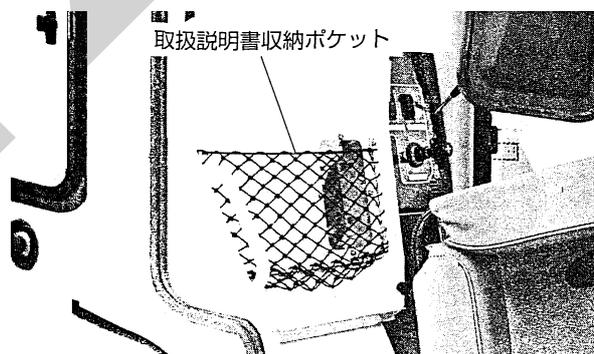
運転者の体格に合わせて、前後に6段階の調節ができます。



前後調節レバーを矢印方向に引き上げて、ドライバーシートを前後にスライドさせ、操作しやすい位置に調節してください。また、ドライバーシートは前方に倒すことができます。

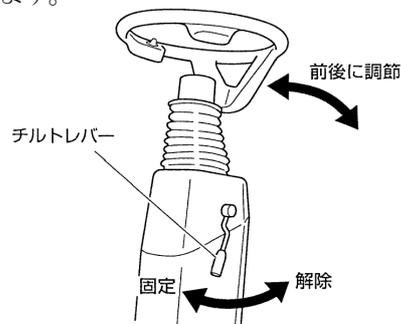
⑯取扱説明書収納ポケット

取扱説明書を収納するポケットが、ドライバーシートの後ろにあります。



⑰チルトレバー

ステアリングハンドルの前後の角度を、調節するときに使用します。



- ・「解除」方向 …… ハンドルの固定が解除される
- ・「固定」方向 …… ハンドルが固定される

好みの角度に調節し、調節後は確実に固定してください。

⑩エンジンルームロックレバー

〈 オープンのしかた 〉

- ① ドアを確実に閉めてください。
- ② 左手でエンジンルームカバーの上部を持ち、右手でエンジンルームロックカバーを手前に引いて、エンジンルームをオープンしてください。



取扱い上の注意

- エンジンルームをオープンするときは、完全にオープンするまでカバーの上部を持ってください。オープンの途中で手を離すと、エンジンルームの変形の原因になります。

〈 収納のしかた 〉

- ① ドアを確実に閉めてください。
- ② エンジンルームを閉じると自動的にロックされます。

参考

- エンジンルームを閉じたときは、ロックが確実にできているか確認してください。

⑨乗降ステップ解除レバー・乗降ステップ収納ペダル

乗降ステップのセット、および収納するときに使用します。

〈 乗降するとき 〉

乗降ステップ
解除レバー



〈 収納するとき 〉

乗降ステップ
収納ペダル



乗降ステップ

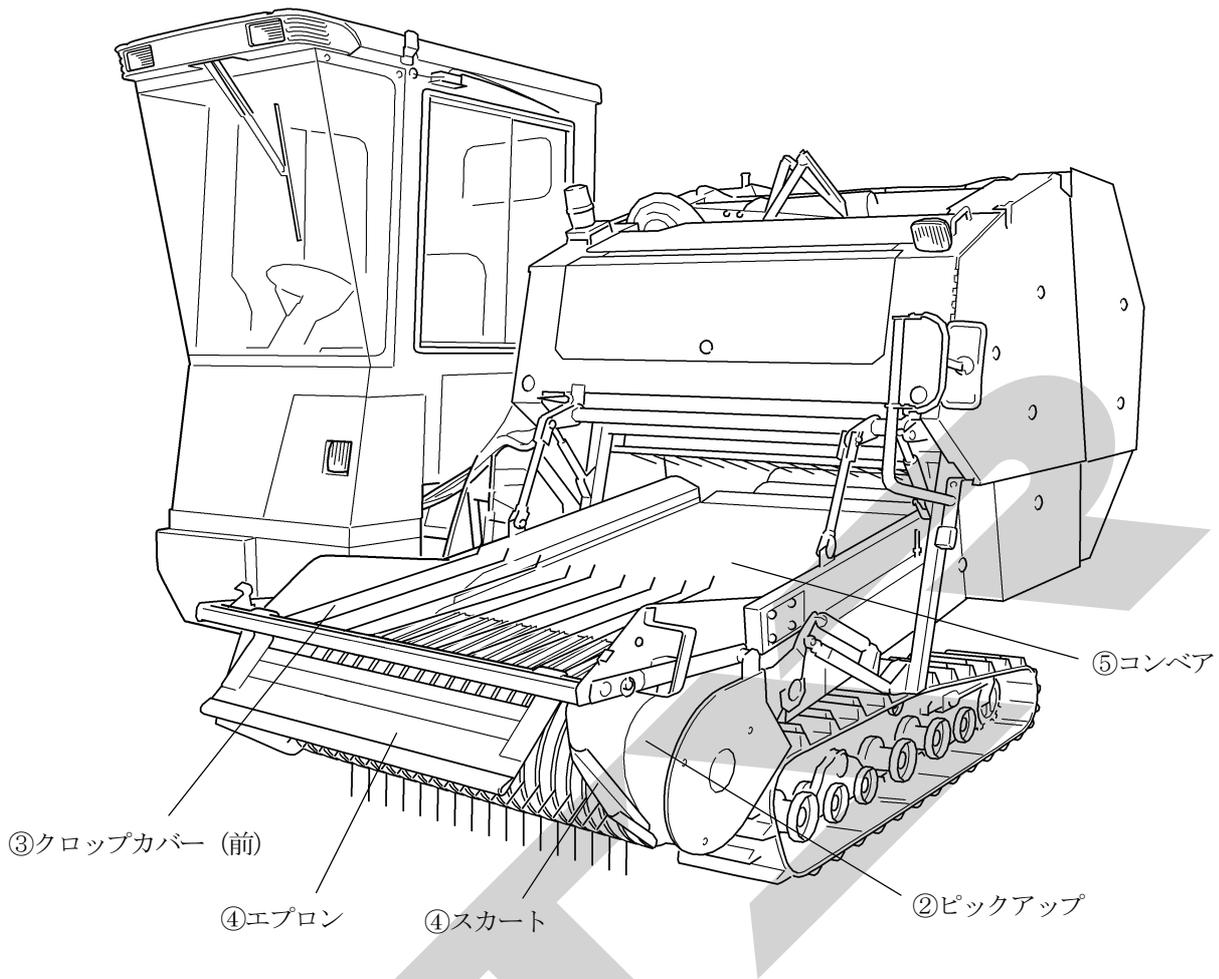
解除レバーを矢印方向に押すとロックが解除され、ステップが飛び出します。

収納ペダルを踏み込むと、ステップが収納されてロックされます。ステップ上段を手で矢印方向に押し上げても、同様にロックされます。

取扱い上の注意

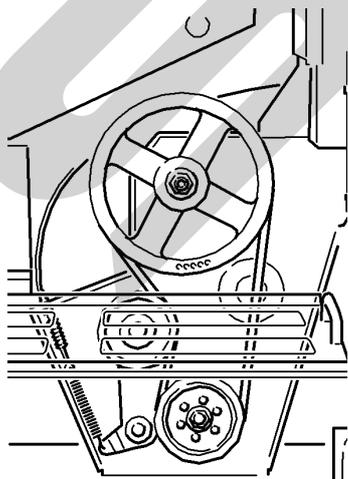
- 移動走行するときは収納してください。
- 乗降ステップ解除レバーを操作すると、ステップが飛び出しますので注意してください。

(9) 作業部



①カウンタケース

エンジンからの出力を作業部に伝達するギヤケースです。
作業部への動力の伝達の入切（作業クラッチ入切）はこのVベルトのクラッチテンションで行います。



②ピックアップ

収穫物を拾い上げ、コンベアへ供給します。

③クロープカバー（前）

収穫物のコンベアへの円滑な供給を補助するものです。

④エプロン・スカート

切断ワラ等の拾い上げの効率を上げるものです。
長ワラや立てワラの拾い上げの時は、詰まりの原因となりますのでエプロンを外して作業してください。

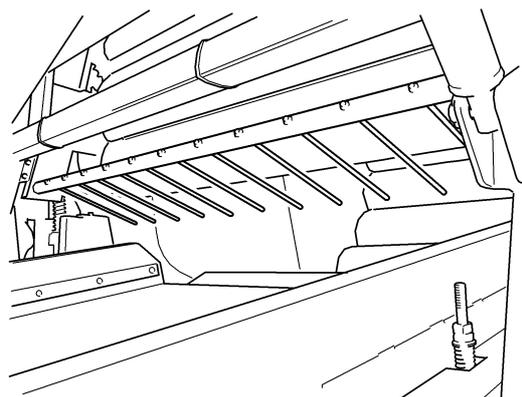
⑤コンベア

ピックアップで拾い上げた収穫物をチャンバへ供給するものです。

⑥クロープカバー（後）

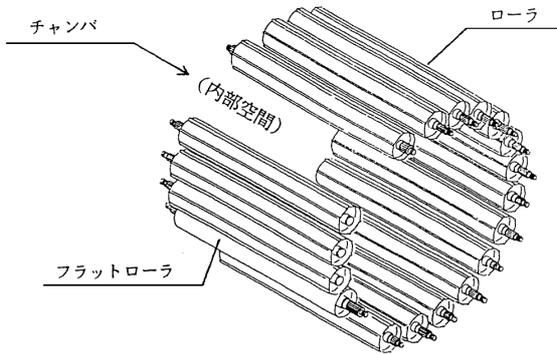
収穫物のチャンバへの円滑な供給を補助するものです。

立てワラ等、チャンバへ供給される際に、チャンバの入口いっぱいの高さになるもの時使用します。
それ以外の時はゴミ詰まりになる可能性があるので外して作業してください。



⑦チャンバローラ

チャンバ；ベールを形成する部屋です。
ローラ；収穫物をチャンバ内で回転させながら円柱状のベールに形成させるものです。

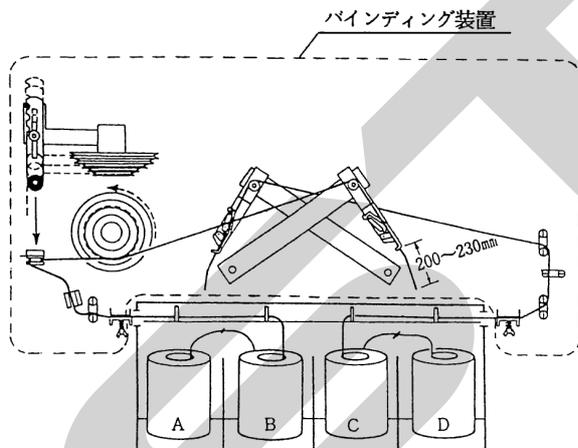


⑧ブザー・パトライト

ベールの形成が完了したことをオペレータに知らせます。
ベールの形成が完了するとブザーが鳴り、パトライトが回転します。そしてバインディング装置が作動しますので、走行を停止してください。

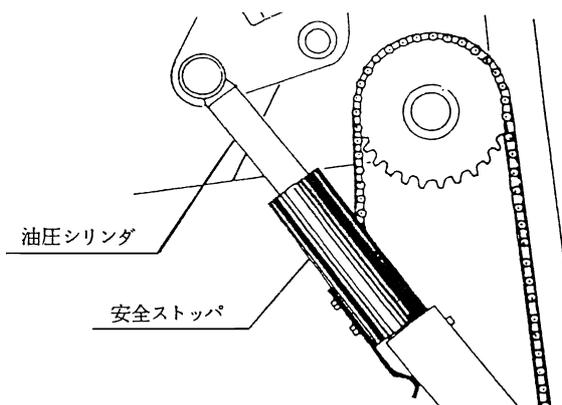
⑨バインディング装置

形成が完了したベールにトワインを巻きつけるものです。



⑩ゲート開閉油圧シリンダ・安全ストッパ

油圧シリンダはゲートを開閉するものです。
安全ストッパは点検調整時に使用し、ゲートを閉じないようにするものです。



3 運転の仕方

・ 警告

- ・ 換気の悪い場所で運転すると、排気ガスにより中毒になる事があります。
窓や戸をあけ、十分に換気をしてください。

・ 注意

- ・ エンジンを始動する時、機械が急に動いてケガをする事があります。
駐車ブレーキをかけ、作業クラッチを切ってください。
- ・ 作業クラッチを切らないでエンジンを始動すると、急にピックアップやローラが駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。
作業クラッチを切ってから始動してください。
- ・ 急発進すると、事故を起こす事があります。
周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してください。

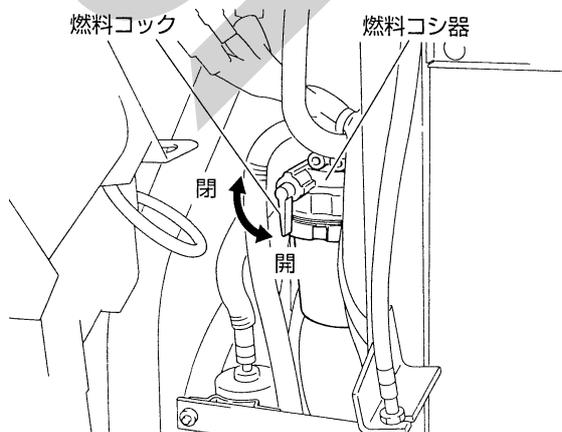
1. 走行の仕方

- (1) 燃料の量を点検し、少ない場合はディーゼル軽油を補給してください。

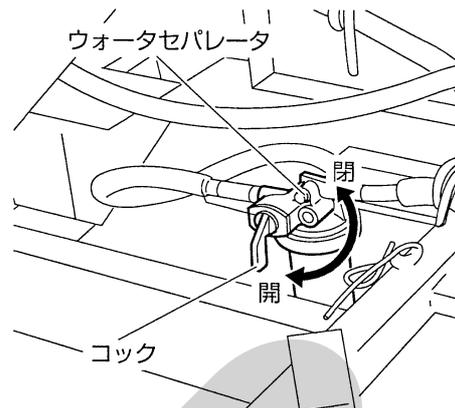
・ 危険

- ・ 給油口に火気を近づけると火災になる事があります。
火気を近づけないでください。
給油はエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

- (2) 燃料コシ器の燃料コックを「開」位置にしてください。

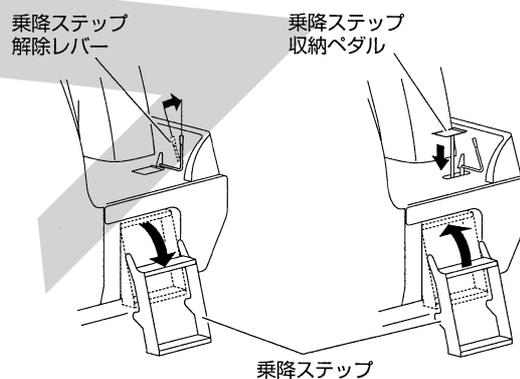


- (3) ウォーターセパレータのコックを「開」位置にしてください。

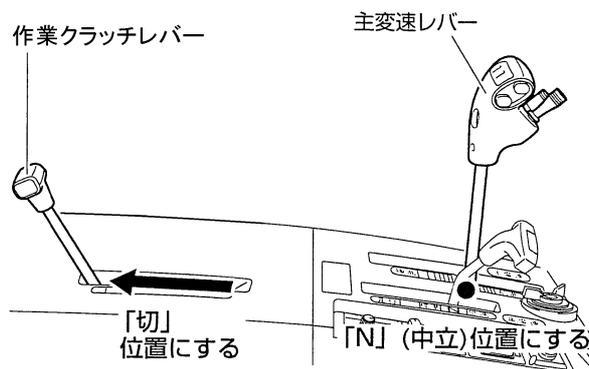


- (4) 乗降ステップをセットし、本機に乗り込み、ドライバーシートに座ってください。
乗り降りのときには、必ず乗降ステップを下図のようにセットしてください。

〈 乗降するとき 〉 〈 収納するとき 〉



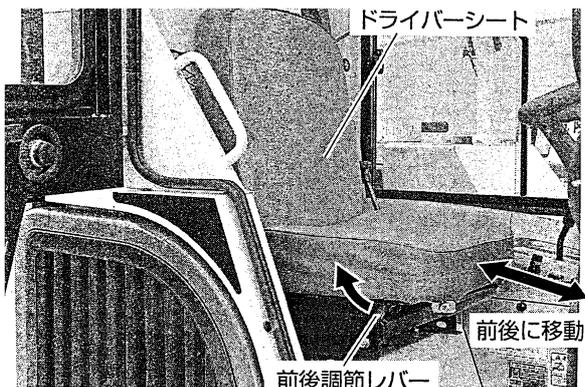
- (5) ドライバーシートに座り、主変速レバーを「N」(中立)位置に、作業クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキをかけてください。



- (6) ドライバーシートの前後位置の調節をしてください。

〈 調節のしかた 〉

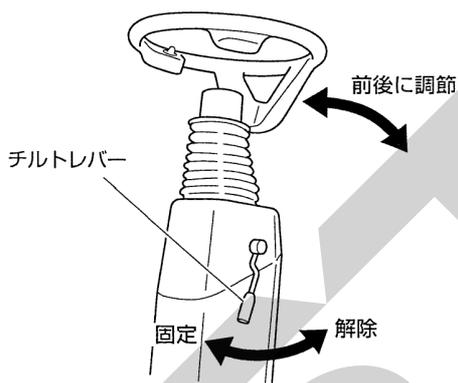
- ① 前後調節レバーを矢印方向に引き上げてください。
- ② ドライバーシートを、作業しやすい位置に前後移動してください。(6段階)
- ③ 前後調節レバーから手を離してください。ドライバーシートが固定されます。



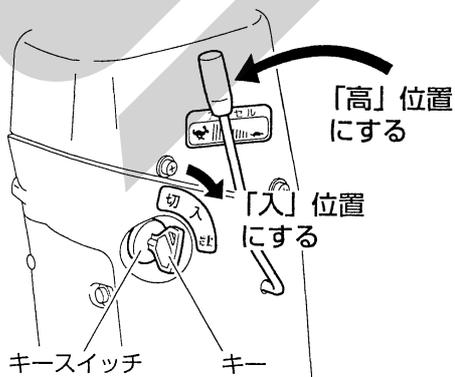
(7) ステアリングハンドルの前後角度を調節してください。

〈調節のしかた〉

- ① チルトレバーを「解除」位置にしてください。ハンドルの固定がゆるみます。
- ② ステアリングハンドルの前後の角度を、作業しやすい位置に調節してください。
- ③ チルトレバーを「固定」位置にしてください。ハンドルが固定されます。



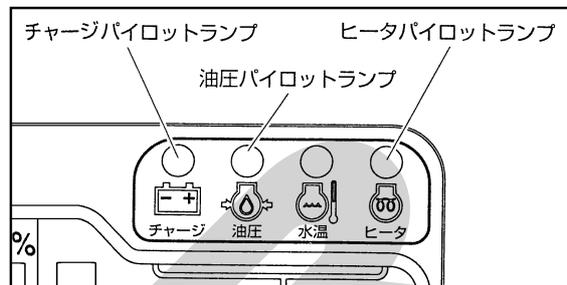
(8) アクセルレバーを手前に引き(エンジン回転「高」位置)、キースイッチにキーを差し込んで「入」位置にしてください。



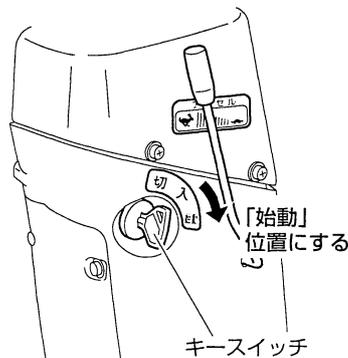
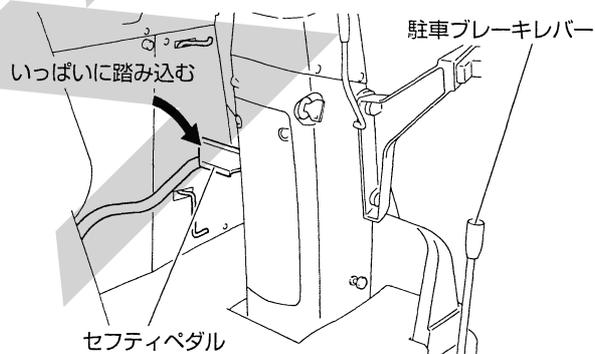
参考

- ・エアヒータに通電しているときは、液晶コンビネーションメータのヒータパイロットランプが点灯します。

- ・このとき、液晶コンビネーションメータの各ランプは、数秒間点灯してから消灯しますが、チャージパイロットランプと油圧パイロットランプは、エンジンが始動しないと消えません。
- ・寒冷時は、ヒータパイロットランプが消灯してからキースイッチを「始動」位置にし、エンジン始動後暖機運転（15分以上）を行ってください。



(9) セフティペダルをいっぱい踏み込んで、キースイッチを「始動」位置に回してください。



取扱い上の注意

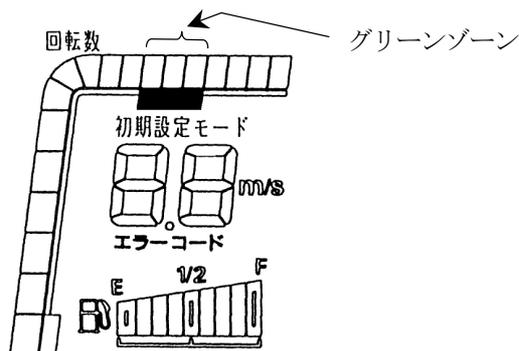
- ・セフティペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンの始動ができません。
- ・セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。10秒以内で始動しなかった場合は、いったんキースイッチを「切」位置にして、1分以上経ってから、再び始動してください。
- ・作業クラッチレバーが「入」位置では、エンジンの始動ができません。作業クラッチレバーを「切」位置にしてからエンジンを始動してください。

- (10) エンジンが始動したら、速やかにキースイッチから手を離してください。キースイッチは、自動的に「入」位置に戻ります。

取扱い上の注意

- エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「始動」位置にしないでください。セルモータが破損することがあります。

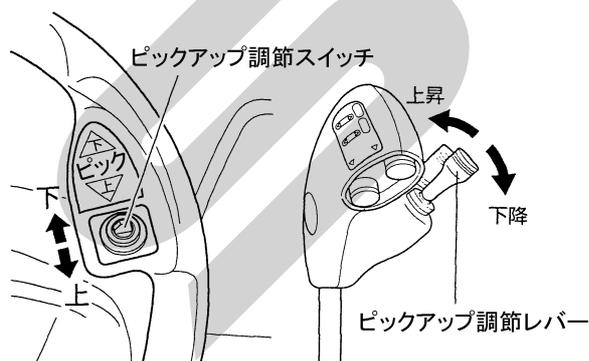
- (11) アクセルレバーを操作し、エンジン回転を液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置にしてください。



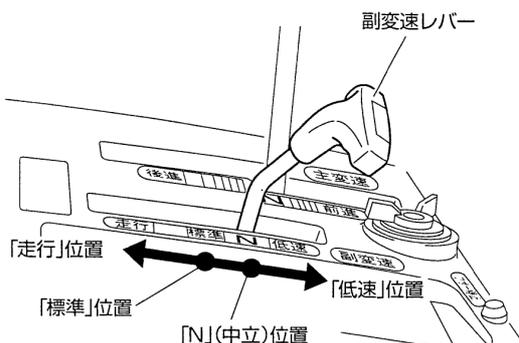
取扱い上の注意

- 本機はHSTミッションのため、走行時はエンジン回転を、液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置にしてください。

- (12) ピックアップ調節スイッチ「上」側、またはピックアップ調節レバーを「上昇」側にしてください。ピックアップが上昇します。



- (13) 副変速レバーを希望の位置にしてください。

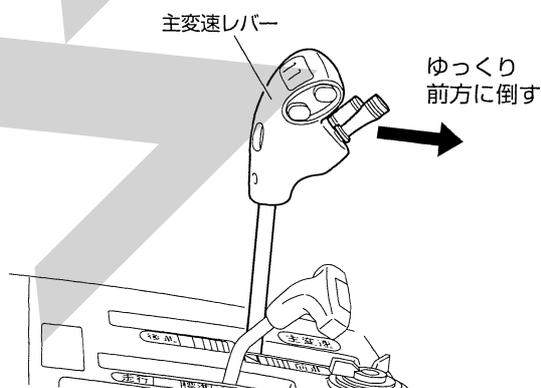


取扱い上の注意

- 副変速レバーを操作する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。動いているときに行くと、機械が破損することがあります。
- セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。
- 坂道では変速しなしてください。

- (14) ステアリングハンドルを右手で持ち、左手で主変速レバーをゆっくり前方へ倒してください。機体が発進します。

- 1) 周囲の安全を十分に確認する。
- 2) 主変速レバーをゆっくり前方に倒して発進する。
- 3) 発進後、必要に応じて主変速レバーをさらに前方へ倒してスピードを上げる。



取扱い上の注意

- 主変速レバーは、セフティペダルを踏み込まずに操作してください。セフティペダルを踏み込むと、主変速レバー「N」(中立)位置で固定されます。
- 主変速レバーを「前進」から「後進」、または「後進」から「前進」に操作する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。動いているときに行くと、機械が破損することがあります。

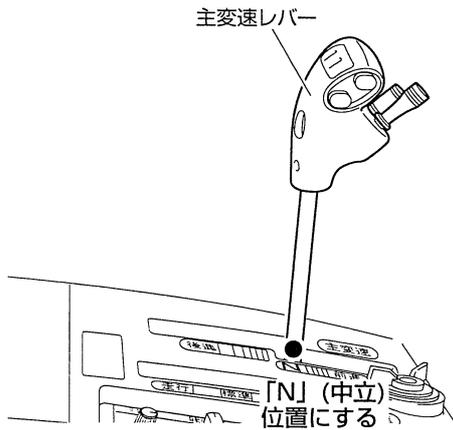
- (15) 旋回したい方向へステアリングハンドルを回すと、その方向へ機体が旋回します。

警告

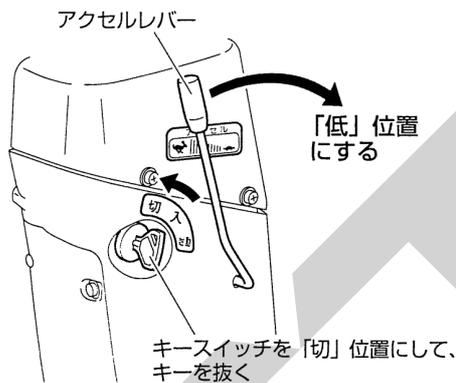
- 副変速レバーが「走行」位置での高速移動時は、急旋回しなしてください。必ず速度を落として行ってください。守らないと、接触・転倒事故のおそれがあります。

2. 停止の仕方

- (1) 主変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。



- (2) アクセルレバーを前方に押し戻してください。エンジン回転が下がります。
- (3) キースイッチを「切」位置にしてください。エンジンが停止します。
- (4) キーを抜いてください。

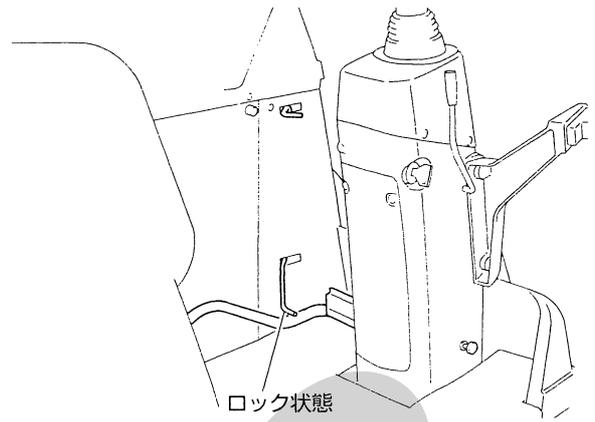
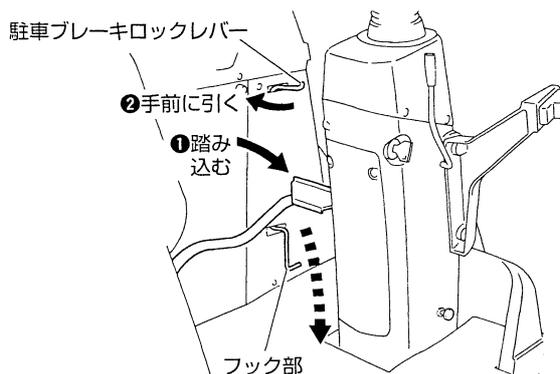


取扱い上の注意

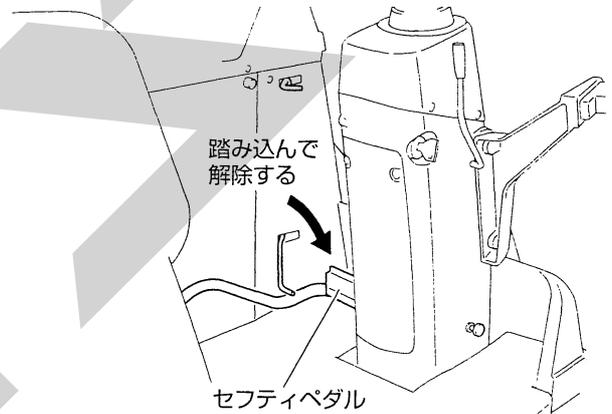
- 主変速レバーが「N」(中立)位置でないときは、キースイッチを「切」位置にしないでください。エンジンの再始動が行いにくくなる場合があります。

3. 駐車の方法

- (1) 駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけると、駐車ブレーキがかかります。



- (2) 駐車ブレーキを解除するときは、セフティペダルをいっぱい踏み込んでください。駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フック部が外れて解除できます。



4. トワインの通し方

警告

- トワインを収納する時およびトワインを通す時、ローラに接触すると巻き込まれ、ケガをすることがあります。作業クラッチを切りエンジンをとめてから行ってください。

取扱い上の注意

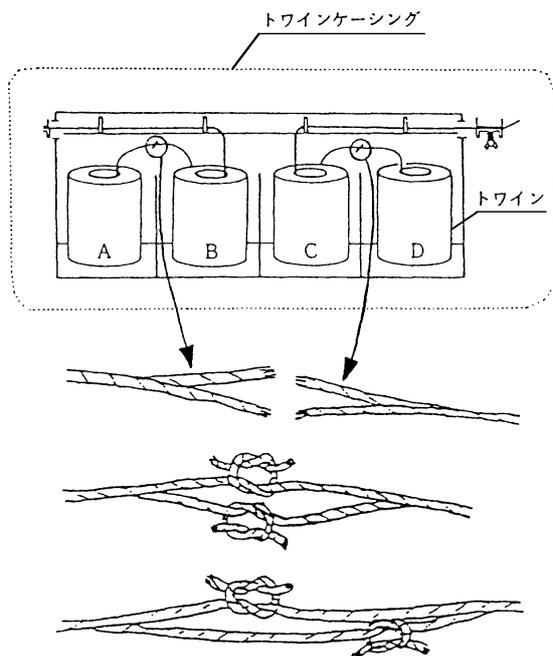
- トワインは、スター純正の次のものを使用してください。

サイズルトワイン TH6000 (6000 フィート)
PPトワイン TP12000 (12000 フィート)

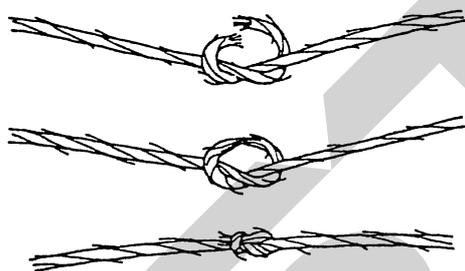
- (1) トワインを、トワインケーシング内に4個収納してください。

(2) トワインBの終わりとAの始め、Cの終わりとDの始めを結んでください。

結び方は、トワインを半分に分けてそれぞれ結び目がずれるように結んでください。



〈サイザルトワインの場合〉



(3) ドライブプーリを矢印の方向に回し、スイングアームを外側から内側に向かうように移動させて、ガイドロール間の距離が230mmになる位置でとめてください。

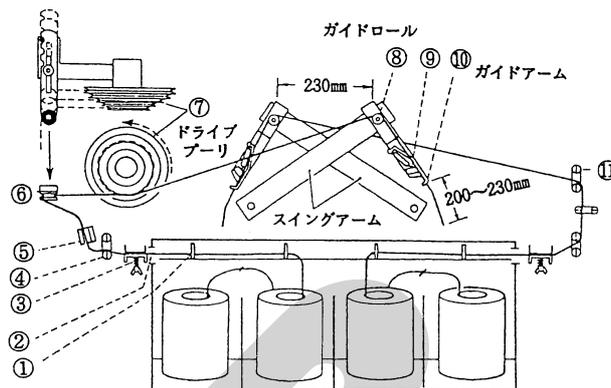
取扱い上の注意

- ・スイングアームが内側から外側に向かう位置でセットしても、バインディングは起動しません。

(4) トワインBの始端部を①～⑩の順序で通します。ガイドアームの先端より200～230mmの長さまで引き出してください。

(5) 反対側のトワインCも同様に通しますが、こちら側にはドライブプーリはありません。

⑤～⑥のかわりに⑩に通します。



2 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため、作業前に必ず行いましょう。

1 運転前の点検

1. 製品本体の点検

- (1) 各部取付けボルトに緩みはないか。
不具合が見つかった時は増し締めしてください。
- (2) 各部Vベルト・ローラチェーン・コンベアベルトの張りは適正か。
不具合が見つかった時は「6-17 各部ベルトの点検・調節の仕方」「6-22 各部ローラチェーンの点検・調節の仕方」「6-23 コンベアベルトの点検・調節の仕方」の説明に基づき調整してください。
- (3) 梱包密度検出リンク部は、正規の状態に調整されているか。
不具合が見つかった時は「6-31 梱包密度検出リンクの調整」の説明に基づき調整してください。
- (4) トワインブレーキのスプリングは正規寸法か。
不具合が見つかった時は、「6-25 トワインブレーキの調整」の説明に基づき調整してください。
- (5) バインディングナイフは、トワインの切れが良いか。
不具合が見つかった時は、「6-27 バインディングナイフの調整」の説明に基づき不具合を解消してください。
- (6) トワインは十分あるか。トワインの通し方は正しいか。バインディングアームは正規の位置になっているか。
不具合が見つかった時は、「1-4 トワインの通し方」の説明に基づき不具合を解消してください。
- (7) タイン・ロータフラッシュに損傷がないか。
損傷している時は、部品表を参考に部品を交換してください。
- (8) 各部にワラの詰まりはないか。
詰まりがある時は除去してください。
- (9) 各部の給油・注油・給脂は十分か。
不具合が見つかった時は、「2-3 給油箇所一覧表」の説明に基づき給油してください。
- (10) クローラの張りは適正か。
不具合が見つかった時は、「6-19 クローラの点検・調節の仕方」の説明に基づき調整してください。

2. エンジンルーム内部の点検

- (1) エンジンオイルの量は適正か。汚れはないか。
不具合が見つかった時は、「6-3 オイルの点検・補給・交換の仕方」の説明に基づき補給・交換してください。
- (2) 冷却水の量は適正か。
不具合が見つかった時は、「6-4 冷却水の点検・補給・交換の仕方」の説明に基づき補給してください。
- (3) エアクリーナに汚れはないか。
不具合が見つかった時は、「6-10 エアクリーナの掃除・交換の仕方」の説明に基づき掃除・交換してください。
- (4) 冷却ファンベルトの張りは適正か。
不具合が見つかった時は、「6-17 各部ベルトの点検・調節の仕方」の説明に基づき調整してください。
- (5) エンジン防塵装置にほこりやゴミがないか。
不具合が見つかった時は、「6-11 吸気口・ラジエータスクリーン・ラジエータフィン掃除の仕方」の説明に基づき掃除してください。

2 エンジン始動での点検

1. 走行部各操作部の点検

- (1) 異音はないか。
- (2) 排気ガスの色は正常か。
「6-20 排気ガスの色について」の説明に基づき確認してください。
- (3) 各レバー、スイッチの作動状態は正常か。
- (4) セフティペダルの作動具合は正常か。
- (5) ステアリングハンドルで、機体の旋回が行えるか。
- (6) 作業クラッチレバーで、作業部の作動・停止が行えるか。

2. 作業機油圧系統の点検

・ 注意

- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルあるいは作業機の急な降下でケガをする事があります。補修もしくは部品交換してください。継手やホースを外す時は、油圧回路内の圧力を無くしてから行ってください。

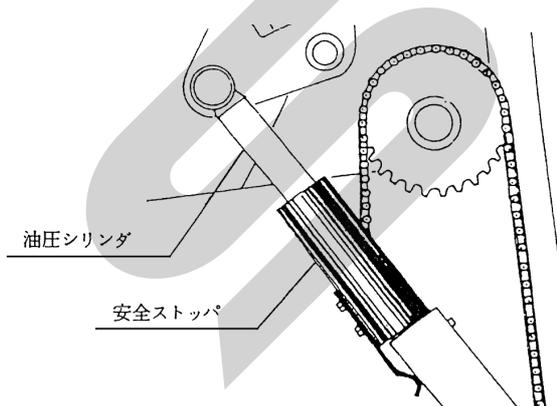
(1) ゲート開閉用油圧系統の点検

・ 危険

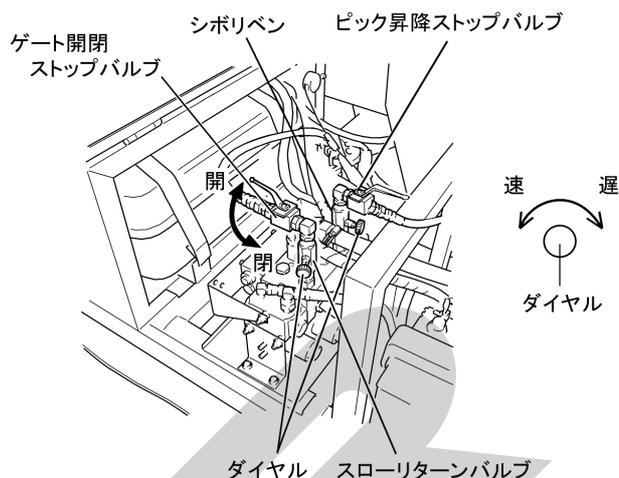
- ゲートを開ける時、後方に人がいると壁などの間に挟まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。後方をよく確認してから開けてください。
- ゲートを閉じる時、中に人がいるとゲートに挟まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。

・ 警告

- ゲートを開けての点検・調整中、不意にゲートが閉まり、挟まれてケガをする事があります。油圧シリンダに安全ストッパを掛け、ストップバルブを「閉」位置にし、ゲートを確実にロックしてください。



- ゲート開閉のストップバルブのレバーを「開」側に切替えます。



- ゲートを開き、ゲートが完全に開いたら、ゲート開閉スイッチから手を離し、ゲートが下降するか確認します。下降しなければ異常ありません。ゲートが下降する場合は、オイル漏れ箇所を探し、補修または部品交換をしてください。オイル漏れがないのに下降する場合は、ゲートの開閉を10回ほど繰り返して、エア抜きをしてください。
- ゲートの下降速度を確認してください。速すぎる時は、スローリターンバルブのダイヤルを右に回して遅くしてください。

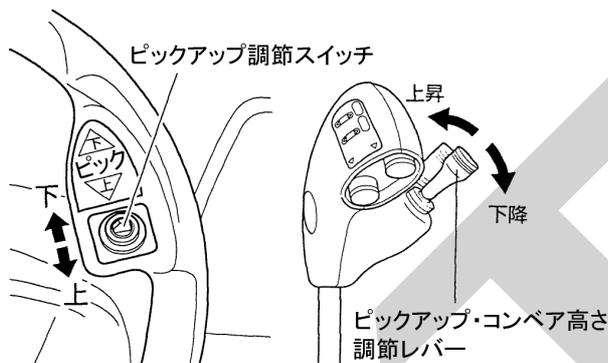
(2) ピックアップ昇降用油圧系統の点検

・ 警告

- ・ ピックアップを開けての点検、調整中、不意にピックアップが下がり、挟まれてケガをする事があります。ストップバルブを「閉」位置にしピックアップを確実に固定してください。

- (4) トラクタのエンジンをとめ、各ブラシから適量給油されているかを確認してください。

- ①ピックアップ昇降のストップバルブのレバーを「開」側に切替えます。
- ②ピックアップを上昇させ、完全に上昇したらレバー（スイッチ）から手を離し、ピックアップが下降するか確認します。下降しなければ異常ありません。下降する場合は、オイル漏れ箇所を探し、補修または部品交換してください。オイル漏れがないのに下降する場合は、昇降を10回ほど繰り返し、エア抜きをしてください。



- ③ピックアップの昇降速度を確認してください。速すぎる時は、シボリベンのダイヤルを右に回して遅くしてください。

3. 給油装置の点検

- (1) オイルタンクのオイルが満タンになっている事を確認してください。足りない時はギヤオイルSAE 90を補給してください。最大容量1.5 。

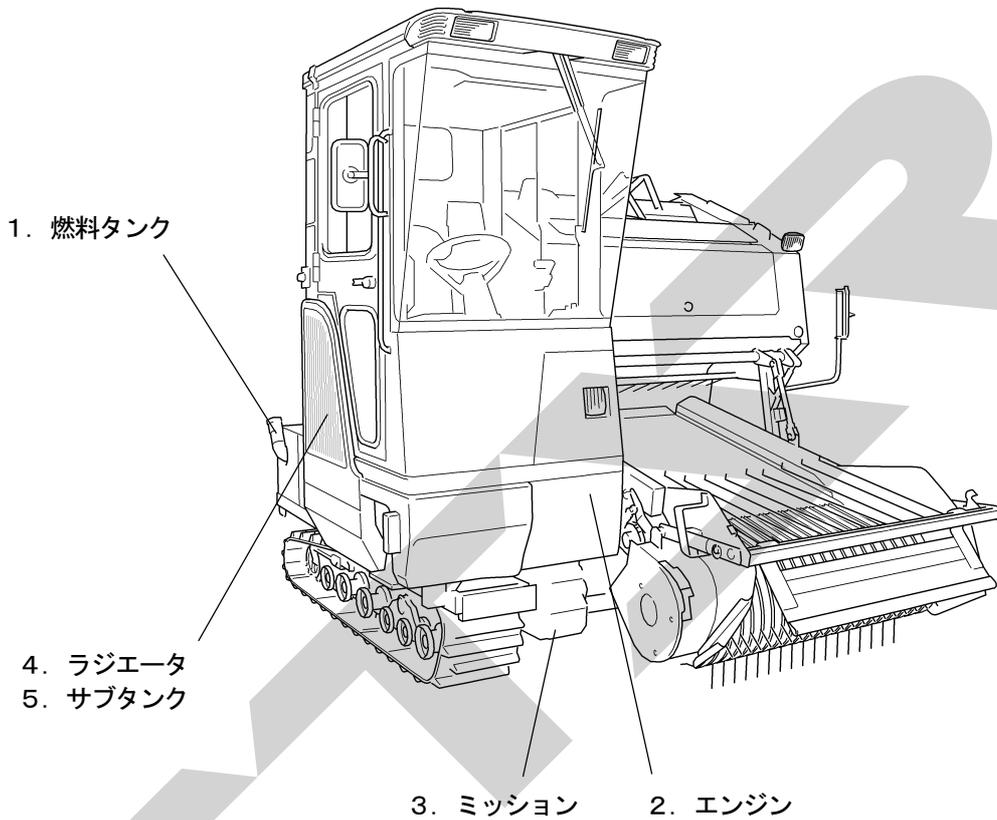
取扱い上の注意

- ・ オイルタンクの油面高さは常に4cm以上に保ってください。それ以上になると空気を吸い込み空気抜きが必要になります。空気抜きの要領は「6-32 給油装置の空気抜き要領」を参考にしてください。

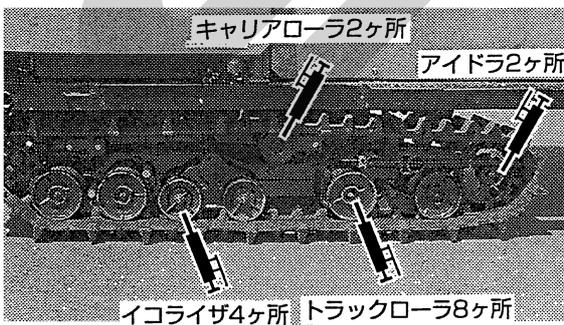
- (2) ゲートを数回開閉してください。
- (3) ゲートを閉じ、ロックインディケータが下がってきたのを確認してください。

3 給油箇所一覧表

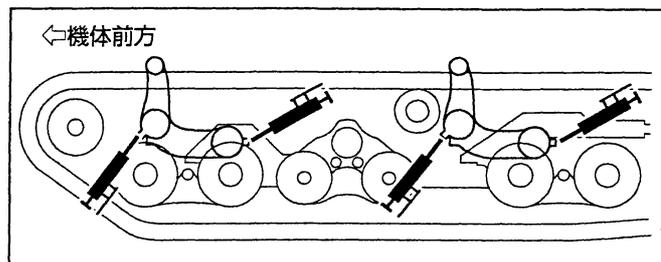
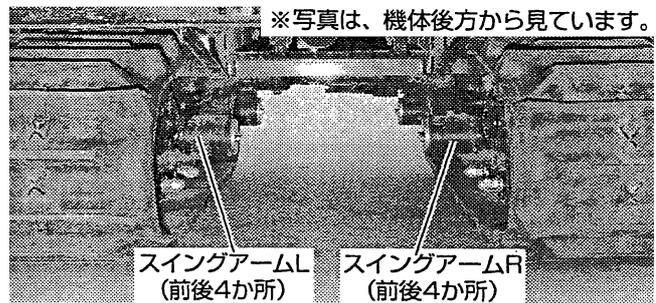
- 給油、塗布するオイルは清浄なものを使用してください。
- グリースを給脂する場合、適量とは古いグリースが排出され、新しいグリースが出るまでです。
- その他、回転、回動支点の摺動部には、適時オイルを適量に注油してください。



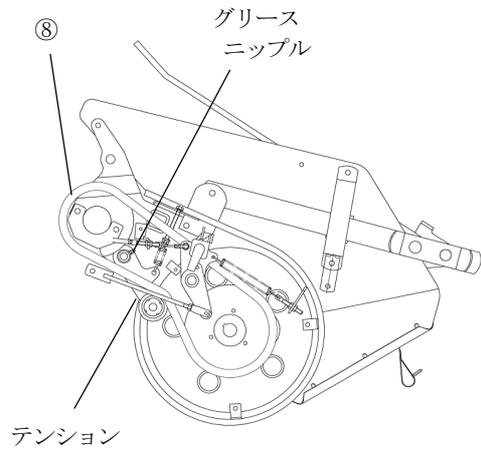
6. トラックローラ・アイドル関係



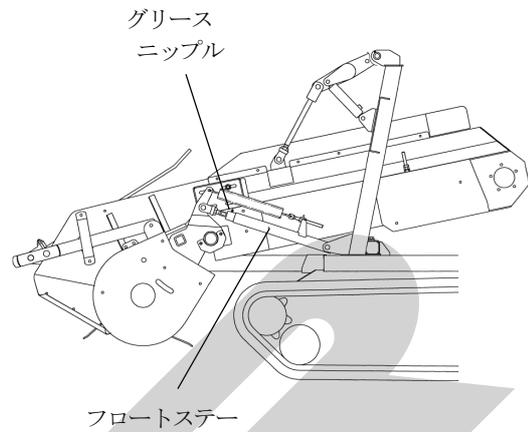
7. スイングアーム



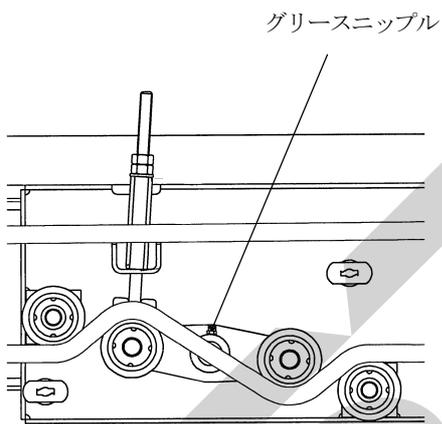
8. ピックアップチェーンテンション



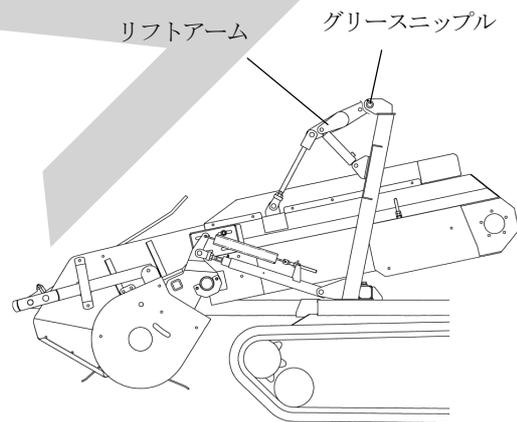
9. ピックフロート



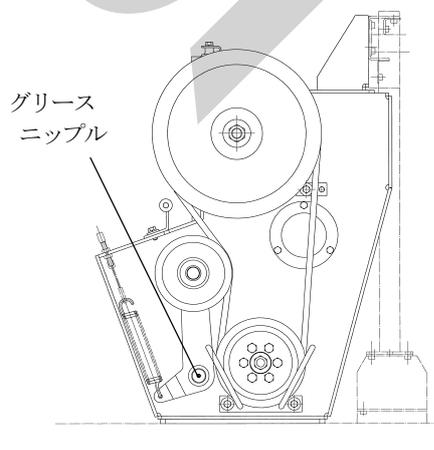
10. コンベアチェーンテンション



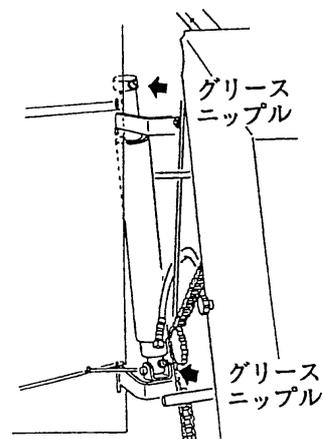
11. コンベアリフトアーム支点



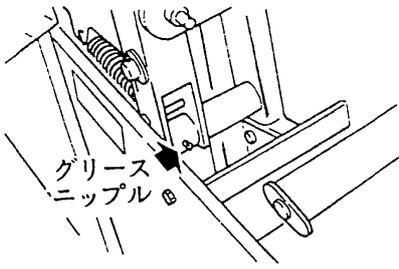
12. クラッチテンション支点



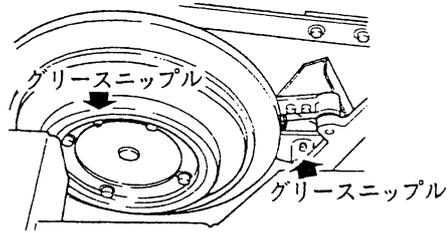
13. ゲート開閉シリンダ



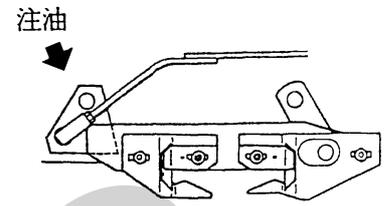
14. トリップレバー



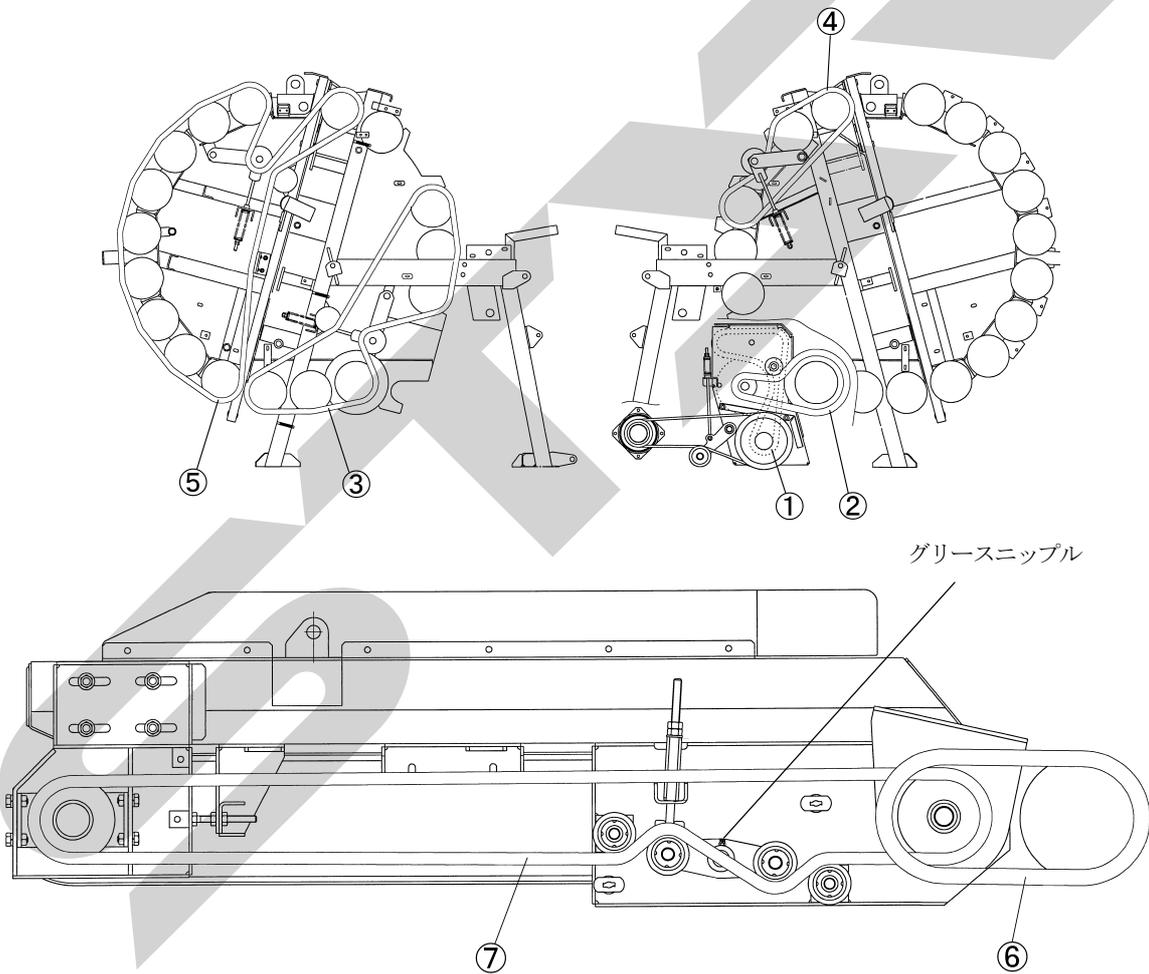
15. ドライブプーリー
・スイングアーム支点



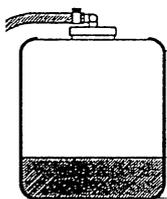
16. ナイフプレート



17. ローラチェーン



18. オイルタンク



No.	給油箇所	箇所	潤滑油の種類	交換時間	量	備考
1	燃料タンク	1	ディーゼル軽油		50・	給油
2	エンジン	1	ディーゼルエンジン用 SAE 10W・30	1回目;50時間後 又は1シーズン後 2回目以降;100時間 ごと、又は1シーズン ごとのどちらか 早い方	6・	”
3	ミッション	1	トランスミッション フルード TF-300	1回目;50時間後 又は1シーズン後 2回目以降;300時間 ごと、又は2年ご とのどちらか早い方	8.8・	”
4	ラジエータ	1	清水・アンチフリーズPT	1年ごと	6・	”
5	サブタンク	1	”	”	0.45・	”
6	トラックローラ、アイドラ関係	16	グリース;2号	使用ごと	適量	グリースニップル
7	スイングアーム	8	”	”	”	”
8	ピックアップチェーンテンション	1	”	”	”	”
9	ピックフロートステー	2	”	”	”	”
10	コンベアチェーンテンション	1	”	”	”	”
11	コンベアリフトアーム支点	2	”	”	”	”
12	クラッチテンション支点	1	”	”	”	”
13	ゲート開閉シリンダ	4	”	”	”	”
14	トリップレバー	2	”	”	”	”
15	ドライブプーリスイングアーム支点	4	”	”	”	”
16	ナイフプレート	2	オイル	”	”	塗布
17	ローラチェーン	8	※ギヤオイル SAE 90 API GL-5	”	”	塗布 ①、②、③、④、⑤、⑦ 自動給油
18	オイルタンク	1	”	”	最大 1.5・	

※コスモ石油「コスモギヤー GL-5 80W-90」又は相当品をお使いください。

3 運搬の仕方

・ 警告

- ・ 積み・降ろしをする場所は、平坦で安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- ・ 積込むトラックは、車止めなどで動かないように処置してください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- ・ アユミ板は、基準に合ったものを使用してください。守らないと転落事故の原因になります。
- ・ 積み・降ろしの機体方向は、積み込みは前進、降ろしは後進で行ってください。守らないと、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。
- ・ アユミ板の上では、進路変更を絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて、転倒するおそれがあります。
- ・ 本機の直前・直後には機械が不意に動いたときにあぶないので、絶対に立たないでください。
- ・ 本機がアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、十分に注意してください。特に、スピードの速いときは、転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。
- ・ トラックの荷台に積込んだ機体は、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。機体は丈夫なロープで確実に固定してください。守らないと、転落事故の原因になります。

・ 注意

- ・ 積み・降ろしをするときは、UFO自動スイッチを必ず「切」（ランプ消灯）にしてください。機体が急に傾いて転倒し、ケガをするおそれがあります。
- ・ 車高が最下位置になっていることを確認してください。
- ・ 乗降ステップを収納してください。
- ・ 本機は、ほ場内作業機です。公道での乗車運行はできません。乗車運行した場合は道路交通法に違反します。

1 アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

〈 アユミ板の基準 〉

- ・ 長さ …… トラックの荷台高さの4倍以上。
- ・ 幅 …… 45cm以上。
- ・ 強度 …… 1枚が3500kgに十分耐えられるもの。
- ・ 表面 …… すべらないよう処理してあるもの。
- ・ トラックの荷台に引っ掛けるためのフックが付いているもの。

2 トラックについて

- ① トラックは、本機が荷台内幅に十分納まる大きさを準備してください。
- ② トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車してください。
- ③ トラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキを掛けてください。
- ④ タイヤに車止めをしてください。
- ⑤ トラックの荷台にアユミ板のフックを段差ができないように、確実に掛けてください。

3 積み込み方

1. 本機の積み込みは、前進で行ってください。
2. ピック調節レバー（スイッチ）を操作し、ピックを最上げにします。
3. アユミ板のセット幅は、アユミ板の幅方向の中心を本機クローラ中心に合うようにトラックにかかけます。
この時、アユミ板がトラック荷台から外れない事を確認してください。

4. 本機をアユミ板に平行となるよう、副変速は「低速」で走行させます。
5. 本機をアユミ板に載せてからトラックに完全にのるまでは、本機の走行速度は低速で走行してください。
6. 本機が運搬機に上がる瞬間が、本機のバランスが一番必要となるため、十分注意が必要です。
7. 本機がトラックに積み込まれたら、セフティペダルをいっばいに踏み込んでください。
駐車ブレーキをかけてください。
8. ピック調節レバー（スイッチ）を操作し、ピック・コンベアをトラックの荷台に接地させます。
9. エンジンを停止してください。
10. 機体左右のロープフック（4ヶ所）に、十分強度のあるロープをかけて、機体を確実に固定してください。

4 降ろし方

1. 機体を固定しているロープを外してください。
2. エンジンを始動してください。
3. ピック調節レバー（スイッチ）を操作し、ピックを最上げにします。
4. セフティペダルを踏み込んで、駐車ブレーキを解除してください。
5. 本機をアユミ板に平行となるよう、副変速は「低速」で走行させます。
6. 本機をアユミ板に載せてから地面に完全にのるまでは、本機の走行速度は低速で走行してください。
7. 本機がトラックからアユミ板にのる瞬間が本機のバランスが一番不安定となるため、十分注意が必要です。
8. 本機を完全にトラックから降ろしたら、主変速レバーを「N」（中立）位置にして、駐車ブレーキを掛けてください。
9. エンジンを停止してください。

4 作業の仕方

1 本製品の使用目的

1. 本製品は、ほ場においての牧草、稲ワラ、麦かんの梱包作業に適しています。
他の用途には使用しなしてください。

2 作業のための調整

・注意

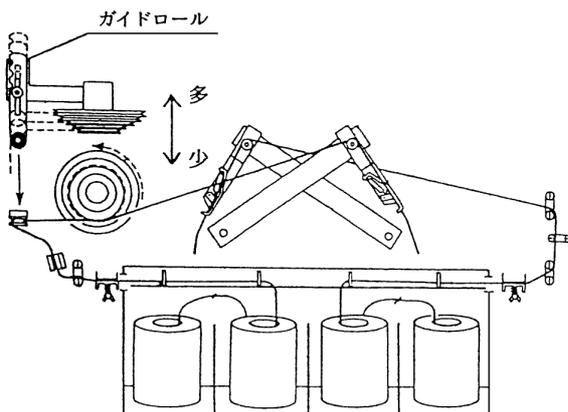
- エンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。エンジンをとめ、回転部や駆動部がとまっている事を確かめてください。

1. トワイン巻数の調整

ベールへのトワイン巻数は、梱包するものや後作業でのハンドリングの回数により調整します。

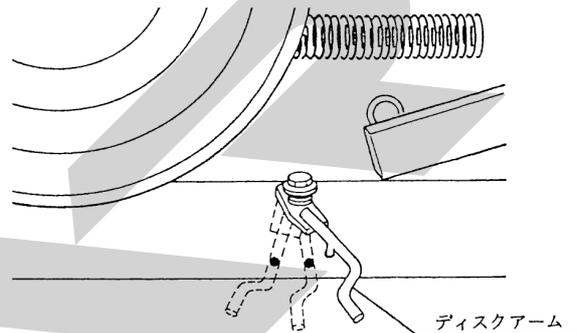
梱包対象	ハンドリング	トワインプーリ	巻数
切断ワラ 乾燥ワラ	多	大径	多
⇕	⇕	⇕	⇕
牧草、長ワラ	少	小径	少

- (1) 大径プーリにトワインを掛けると巻数は多くなります。
- (2) トワインを掛けるプーリ溝位置に合わせガイドロールの位置を調整してください。



2. トワインガイドの調整

- (1) ベール端部へのトワイン巻付位置はディスクアームを調整しています。
- (2) ディスクアームを持ち上げ、穴位置を変えてください。
- (3) 梱包する物が良く乾燥していたり、麦わらのような滑りやすいときは、内側にセットします。

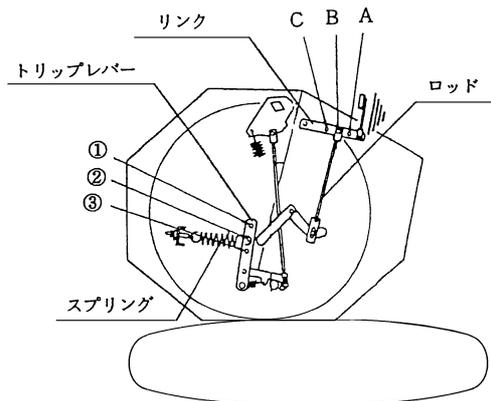


3. 梱包密度の調整

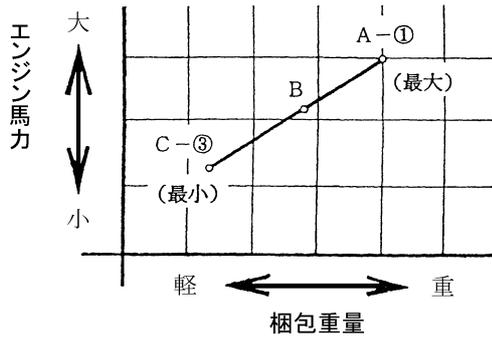
取扱い上の注意

- 梱包密度を低くすると、所要エンジン馬力は大きくなります。ほ場条件・目的に合わせて、梱包密度を調整してください。
- ローラチェーンの発熱が激しい場合は、梱包密度を低くしてください。

- (1) ロッドによる調整
ロッドをリンクのCの穴に付けると密度は低く（軽く）なり、Bの穴に付けると密度は高く（重く）なります。Aの穴は使用しなしてください。
この調整により、密度は大きく変化します。通常はBの穴で作業してください。
- (2) スプリングによる調整
スプリングをトリップレバーの①の穴に付けると密度は高く（重く）なり、③の穴に付けると密度は低く（軽く）なります。



梱包重量と所要エンジン馬力の関係は表のようになります。



(3) 作業速度による調整

作業速度をおとすと、梱包密度は高くなります。作業状況に合わせて、作業速度を調整してください。

4. ピックアップオートリフト・オートセットでのタイン地上高の設定

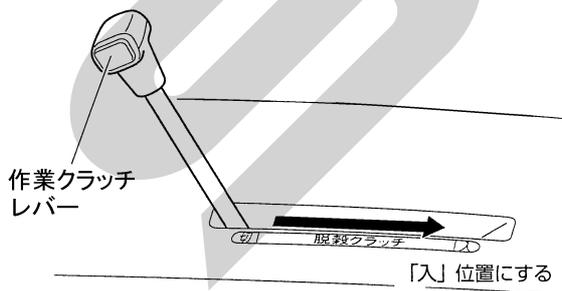
・ 注意

・ エンジンが停止している場合でも、作業クラッチレバーとキースイッチが「入」位置にあると、オートリフト・オートセットボタンを押したときにピックアップが下降することがあります。周囲の安全を確認し、操作を行ってください。

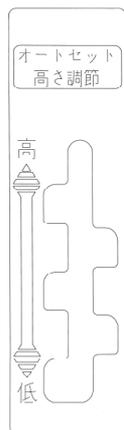
(1) く オートセット高さの設定のしかた く

オートセットで、下降するピックアップの高さを設定することができます。

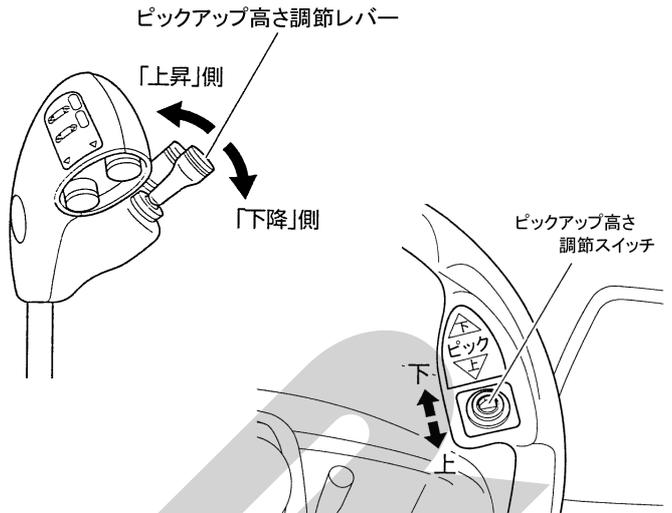
- ① エンジンを始動してください。
- ② 本機はほ場内に移動してください。
- ③ 作業クラッチレバーを「入」位置にしてください。



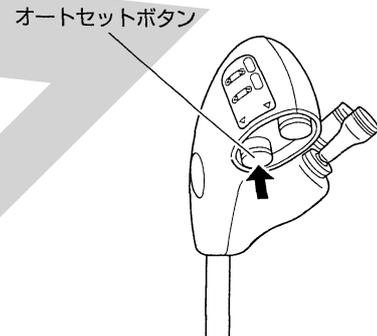
- ④ オートセット高さ設定レバーを操作してください。1段で約30mm変化します。



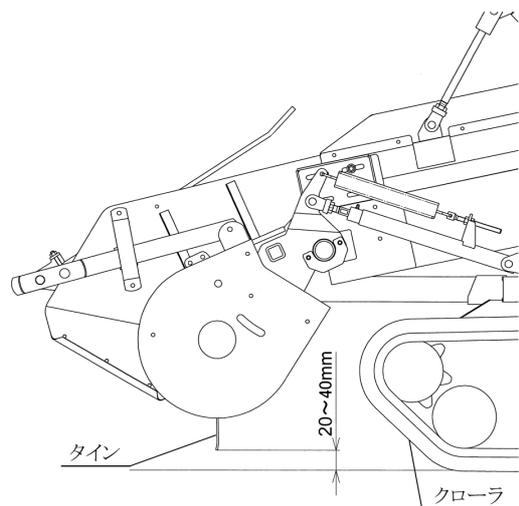
- ⑤ ピックアップ高さ調節レバー(スイッチ)を操作し、ピックアップを上限まで上昇させてください。



- ⑥ オートセットボタンを押してください。オートセット高さ設定レバーで設定した高さまでピックアップが下降します。



- ⑦ ピックアップタインの地上高が20~40mmになる様に④~⑥を繰り返して設定してください。

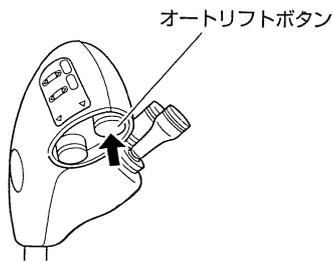


(2) く オートリフト高さの設定のしかた く

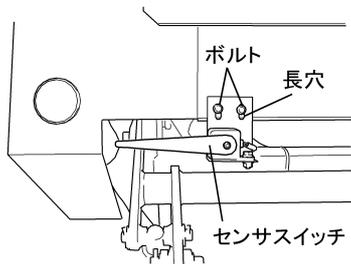
オートリフトで上昇するピックアップの高さを設定することができます。

- ① エンジンを始動してください。
- ② 作業クラッチレバーを「入」位置にしてください。
- ③ ピックアップ高さ調節レバー(スイッチ)を操作し、ピックアップを下限まで下降させてください。

- ④オートリフトボタンを押してください。
ピックアップ高さ検出センサスイッチが反応するところまでピックアップが上昇します。



- ⑤エンジンを停止してください。
⑥トワインケーシングの本機を前から見て左下にピックアップ高さ検出センサスイッチが取付いています。
⑦検出センサスイッチ取付ブラケットの長穴部のボルト2本をゆるめて、上下にスライドして調整してください。



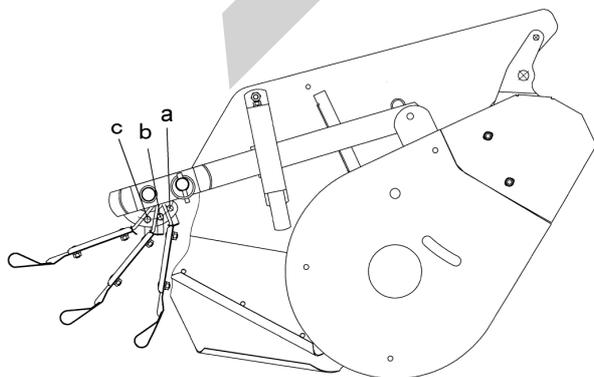
- ⑧希望の高さになる様に①～⑦を繰り返し設定してください。

5. エプロンの調整

作業する収穫物の状況に応じてピンの取付位置を変えてください。

又、穴位置Cで使用する場合、エプロンが邪魔であれば外して作業してください。

収穫物状況	穴位置
切ワラ	a
切ワラで大きめのウインドロー	b
長ワラ、立てワラ、牧草	c



3 作業要領

・危険

- 走行中および作業中、転倒するおそれがあります。路肩付近や軟弱地では、十分注意して使用してください。

・警告

- 運転中又は回転中、ピックアップに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。ピックアップへの手供給は、危険です。やめてください。ピックアップ部に草が詰まった時は、必ず作業クラッチ及びエンジンを切ってから除去してください。
- 運転中又は回転中、ローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。ローラに触れないでください。ローラに草が巻き付いた時は、作業クラッチ及びエンジンを切ってから除去してください。
- ゲートを開ける時、後方に人がいるとゲートに挟まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。後方を確認してから開けてください。
- ゲートを閉じる時、中に人がいるとゲートに挟まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。
- 傾斜地で排出すると、バールが転がり、巻き込まれてケガをする事があります。バールの排出は平坦な場所で行ってください。
- トワインを収納する時及びトワインを通す時、ローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。作業クラッチを切り、エンジンをとめてから行ってください。
- 作業をする時、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。
- 傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をまねく事があります。低速で作業してください。坂の途中で副変速レバーを操作したり変速操作をしないでください。また、斜め走行や旋回もしないでください。暴走する原因となります。坂の前で低速に変速してください。
- わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や、周囲の人への危険回避などができず、思わぬ事故を起こす事があります。前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。
- 手放し運転をすると、思わぬ方向へ暴走し、事故を起こす事があります。しっかりとハンドルを握って運転してください。

・ 注意

- ・ゲートの開閉の際、ゲートに挟まれケガをする事があります。
安全を確認して、開閉してください。
- ・運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。
カバーを開けないでください。
- ・機械の調整や、付着物の除去などを行う時、作業クラッチ及びエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が暴動され、思わぬ事故を起こす事があります。
作業クラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

・ 警告

- ・エンジンをかけたまま本機から離れると、不意に本機が動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。
エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

1. ほ場への出入りの仕方

- (1) 副変速レバーを「低速」位置にして、主変速レバーをゆっくり「前進」側に倒してください。
- (2) あぜに対して直角に出入りしてください。
20cm以上の高いあぜの場合は、アユミ板を使用してください。

〈 急な坂道の場合 〉

・ 進行方向

進行方向	登り	前進
	降り	後進

・ 移動速度

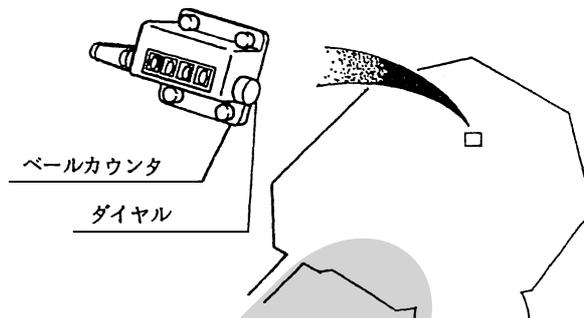
副変速レバー「低速」位置、主変速レバーは最低速で、ゆっくり登り降りしてください。

・ 警告

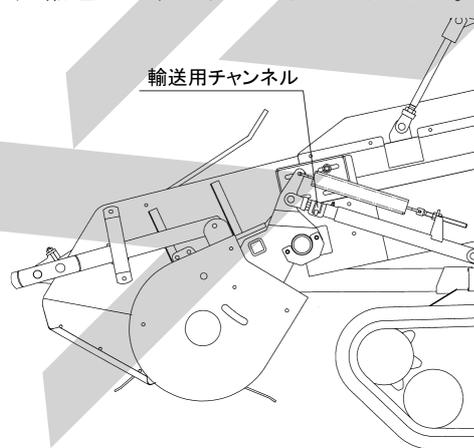
- ・急な坂道の場合は、進行方向や速度を誤ると、転倒してケガをするおそれがあります。必ず上記の方法に従ってください。

2. 実作業の要領

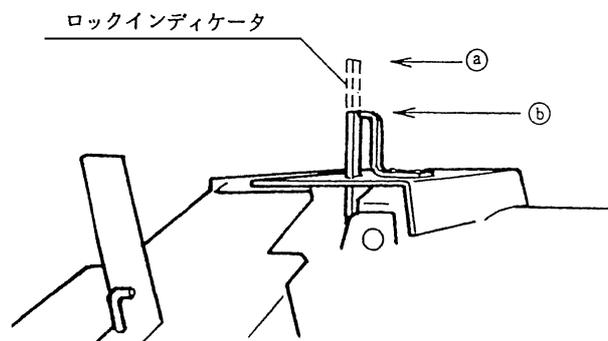
- (1) ベールカウンタのダイヤルを右に回し0にセットします。



- (2) 輸送用チャンネルを外してください。

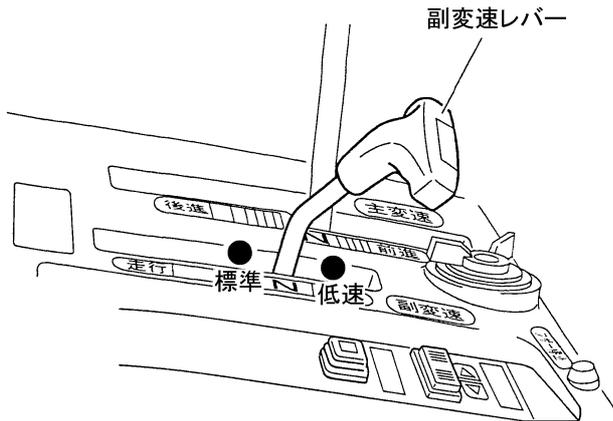


- (3) エンジンを始動してください。
- (4) ロックインディケータが②の位置に下つてくることを確認してください。
下っていないときは、ゲート開閉スイッチを「閉」側に操作し②の位置まで下げてください。



- (5) バインディングがセットされているか確認してください。
「1-3-4 トワインの通し方」を参考にしてください。

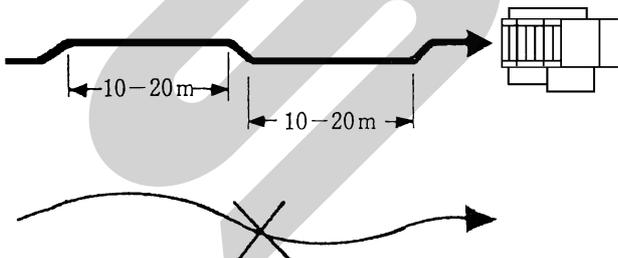
- (6) 副変速レバーを作物条件に合わせて、「標準」「低速」位置のいずれかに入れてください。



作業速度の選びかた

副変速レバー位置	使用条件
低速	・ほ場、収穫物がかなりぬれていてウインドローが大きい場合
標準	・通常

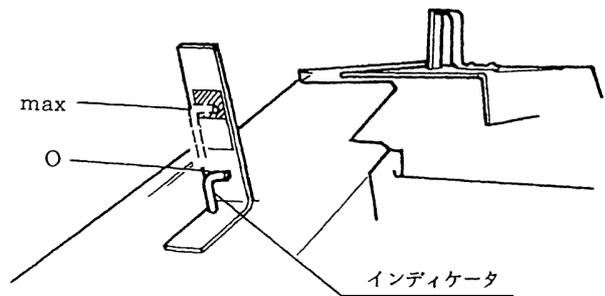
- (7) 作業クラッチレバーを「入」の位置にしてください。
- (8) 作業中のエンジン回転を、液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が「グリーンゾーン」～「MAX」位置を指すように、アクセルレバーで調節してください。
- (9) ウインドローをまたいで走行してください。
形状の良いベールを作るために、収穫物がチャンバ内に均等に入るように作業します。
ウインドロー巾がせまい時は、図示の通り作業すると形状の良いベールができあがります。



取扱い上の注意

- ・作業速度は0～5.0km/hrです。ほ場条件及びウインドローの大きさに合った速度で作業してください。
- ・梱包を成形中及びトワイン巻付け中は、作業クラッチを切らないでください。

- (10) チャンバ内の収穫物の量は、インディケータで座上から確認できます。
チャンバ内の量が増えると、インディケータが上がってきますので、目安にして作業してください。



- (11) チャンバ内のベールが所定の密度になると、ブザーが鳴りパトライトが回転してトワインの巻付けが始まりますので走行を停止してください。

取扱い上の注意

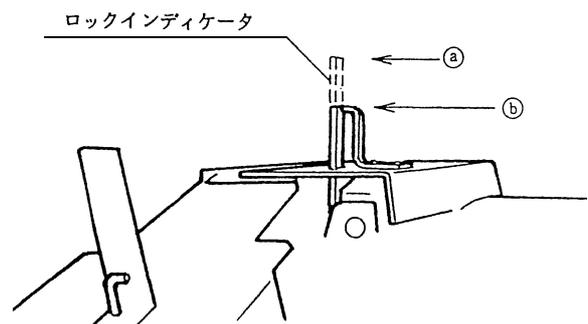
- ・トワインがチャンバ内に入って行かないときは、更に1m程度走行すると、巻付けが始まります。

- (12) トワインの巻付けが終了し、トワインが切断されると、バインディング装置が停止しますので、作業クラッチを「入」位置にしたままゲート開閉スイッチを「開」側に操作し、ゲートを開け、ベールを排出します。

危険

- ・傾斜地で排出するとベールが転がり巻き込まれてケガをすることがあります。ベールの排出は平坦な場所で行ってください。

- (13) ベールの排出が終わったらゲート開閉スイッチを「閉」側に操作して、ゲートを閉じてください。
- (14) ロックインディケータが①から②の位置に下がったことを確認して次の梱包作業に入ってください。



取扱い上の注意

- ・ロックインディケータが②の位置までさがりきっていない状態で作業に入ると、ロック機構が外れて梱包できなくなります。ロックインディケータが②の位置までさがりきるのを確認して梱包作業に入ってください。

3. バインディングの強制作動

・危険

- ・トワイン巻付装置を調整する時、ローラに接触すると巻き込まれケガをする事があります。作業クラッチ及びエンジンを切ってから行ってください。

作業終了後、ベールが未完成のときは次の手順でバインディングを手動で起動してください。

- (1) 作業クラッチを切り、エンジンをとめてください。
- (2) スイングアームのトワインを1~2m引き出し、先端を結んでください。

- (3) ラッチを上方に手でたたき上げると、スイングアームが落下します。

・注意

- ・バインディングを手動で起動させると、スイングアームがスプリングの力により、速い速度で落下します。スイングアーム回転方向に身体を入れるとケガをします。スイングアーム回転範囲には身体を入れないでください。

- (4) エンジンを始動し、作業クラッチを入れると、バインディングが作動しトワインの巻付が始まります。

5 作業が終わったら

・危険

- ・エンジン回転中やエンジンが熱い間は、燃料を抜いたり、注油・給油を絶対にしないでください。燃料などに引火して、火災の原因になります。
- ・燃料補給や燃料を抜くときは、くわエタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こすおそれがあります。
- ・燃料補給や燃料を抜いた後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。
- ・エンジンが熱い間は、シートなどを絶対にかけないでください。火災の原因になります。

・警告

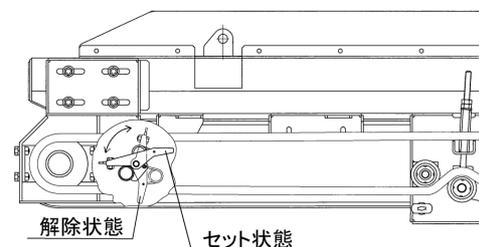
- ・点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。
- ・点検・整備をするときは、平坦で安定した場所で行ってください。本機が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。

・注意

- ・点検・整備をするときは、過熱部が十分冷えてから行ってください。ヤケドするおそれがあります。
- ・水洗いをするときは、エンジン部・電装品に水がかからないようにしてください。故障の原因になります。

1 作業後の手入れ

1. 走行部（シャーシ）に堆積した収穫物を除去してください。
2. コンベア内に堆積した収穫物を除去してください。スクレーパを解除すると清掃しやすくなります。又、清掃の際、コンベアベルトに傷が付かない様注意してください。



清掃後スクレーパをセットしてください。

3. ピックアップに付着した収穫物を、ほ場の中で取り除いてください。
4. バインディング部に堆積したゴミなどを取り除いてください。
5. ローラに付着した収穫物は除去してください。
6. 側面の駆動部に堆積したゴミなどを取り除いてください。
7. 破損した部品、消耗した部品を交換・補充してください。
8. 点検整備一覧表に基づき駆動部、連結部などを点検してください。
9. 点検整備一覧表に基づき油脂を補給してください。
10. 塗装されていない露出部は、さびを防ぐためにグリースを塗布してください。

2 長期格納する時

1. 機械各部の掃除をしてください。
2. 点検整備一覧表に基づき駆動部などを点検してください。
又、破損した部品、消耗した部品を交換・補充してください。
3. 点検整備一覧表に基づき油脂を補給してください。
回転・回動支点及び摺動部には注油し、塗装されていない露出部にはグリースを塗布してください。
4. 塗装の損傷部を補修塗装するか、または油を塗布し、さびの発生を防いでください。
5. 機械は風通しの良い屋内に保管してください。
6. やむをえず屋外に保管する時は、シートを掛けてください。
7. バッテリーは本機から外し、日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。
8. クローラの下に板を敷いてください。
9. 各操作スイッチ・レバーを「切」位置、または「N」(中立)位置にしてください。
10. ピックアップをいっぱいまで下げてください。
11. エアクリーナ・マフラ・エンジンオイル給油口などから湿気がでないように、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。
12. 燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。
13. エアコンの冷媒(クーラーガス)を規定量入れてください。
14. キースイッチのキーは、必ず抜き取って保管してください。

6 点検と整備について

調子よく作業するために、定期的に行いましょう。
機械の整備不良による事故などを未然に防ぐために、「点検整備一覧表」に基づき、各部の点検整備を行い、機械を最良の状態、安心して作業が行えるようにしてください。

タイヤ、ナイフ、トワインは消耗品となっております。磨耗、折損、消耗した時は交換、補充してください。

・ 警告

- ・ トワイン巻付装置を調整する時、ローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。作業クラッチ及びエンジンを切ってから行ってください。
- ・ ゲートを開けての点検・調整中、不意にゲートが閉まり、挟まれてケガをする事があります。ストップバルブをロックし、ゲートを確実に固定してください。

・ 注意

- ・ 傾斜地や凹凸地又は軟弱地などで行うと本機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ・ 作業クラッチ及びエンジンをとめずに点検・整備すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。作業クラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。
- ・ 不調処置・点検・整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをする事があります。元通りに取り付けてください。

1 点検整備一覧表

◇：点検、○：補給、●：交換、□：調整（掃除）、△：給油脂

点検整備項目		毎日	50時間ごと	100時間ごと	200時間ごと	300時間ごと	600時間ごと
総 体 部	部品脱落・破損の点検	◇					
	各部のボルト・ナットのゆるみ点検・増締	◇					
	エンジンの調子	◇					
	清 掃	□					
燃 料 系 統	燃料タンクの油量点検	○					
	ウォーターセパレータの水抜き	◇				□ 水がたま ったとき	
	燃料タンク混入水・沈殿物などのドレン 抜き			□			
	燃料パイプ及び接合部の亀裂・破損・ゆ るみの点検※					◇(1年ごと)	●(2年ごと)
冷 却 系 統	冷却水の点検・交換	◇					●(2年ごと)
	エンジン防塵装置の点検・掃除	□					
	ラジエータ冷却フィンの点検・掃除	◇					
点検整備項目		毎日	50時間ごと	100時間ごと	200時間ごと	300時間ごと	600時間ごと
冷 却 系 統	オイルクーラフィンの点検・掃除	◇					
	コンデンサフィンの点検・掃除	◇					
	冷却ファンベルト（ジェネレータ駆動 ベルト）の張り点検・調整	◇		□			
ア ク リ ナ	エアクリーナーの清掃・交換	□			● ホコリの多 い所	●	
潤 滑 油	「給油個所一覧表」に基づく						
	エンジンオイルエレメントの交換		●1 回目			●	
	吸入ストレーナの洗浄		□			□	
油 圧 系 統	HSTフィルタの交換					●1 回目	●
	油圧ホースの亀裂・破損有無点検※	◇					●(2年ごと)
給 脂	「給油個所一覧表」に基づく						
足 廻 り	クローラの張り点検・調整	◇		□			

◇：点検、○：補給、●：交換、□：調整（掃除）、△：給油脂

点検整備項目		新品使用 1時間	毎日	50時間ごと	100時間ごと	200時間ごと	300時間ごと	600時間ごと
操縦装置	アクセルの作動		◇					
	主変速レバーの作動		◇					
	ステアリングハンドルの作動		◇					
	副変速レバーの作動		◇					
	セフティペダルの作動		◇					
	ゲート開閉スイッチの作動		◇					
	ピックアップ高さの調節レバーの作動		◇					
	作業クラッチレバーの作動		◇					
電装品関係	作業灯		◇					
	アワメータの作動		◇					
	回転計・燃料計・水温計の作動		◇					
	配線の断線・ショート・ターミナルのゆるみ点検・増締※		◇					
	バッテリー液量の点検・補給		◇					
点検整備項目		新品使用 1時間	毎日	50時間ごと	100時間ごと	200時間ごと	300時間ごと	600時間ごと
電装品関係	バッテリー液比重点検・補充電							
	警報モニター		◇					
	ヒューズの点検・交換							
走行部	冷却ファンベルト（ジェネレータ駆動ベルト）の点検・調整			◇	□			
	HST走行駆動ベルトの点検・調整			◇	□			
	コンプレッサ駆動ベルトの点検・調整			◇	□			
作業部	ピックアップタインの破損点検		◇					
	バインディングナイフの磨耗点検		◇					
	トワインの消耗点検		◇					
	各ローラチェーンの点検・調整	◇		◇	□			
	各Vベルト点検・調整	◇		◇	□			
	コンベアベルト点検・調整	◇		◇	□			

2 燃料の点検・補給の仕方

・危険

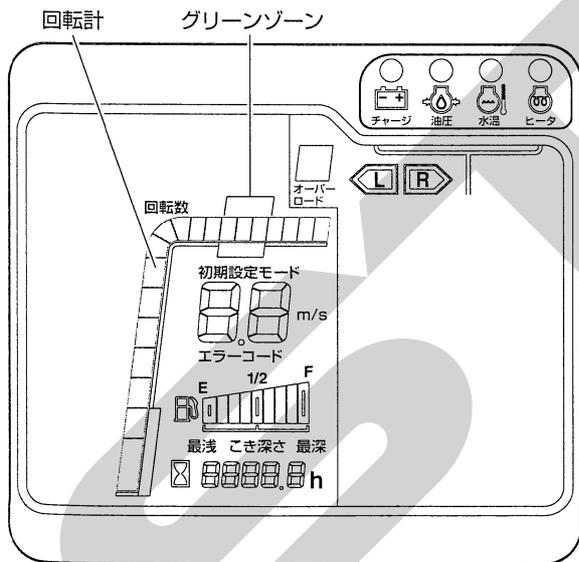
- ・燃料の点検・補給をするときは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こす原因になります。
- ・燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。

(1) 燃料の残量点検の仕方

燃料の残量は、キースイッチを「入」位置にして、液晶コンビネーションメータの燃料残量モニターで確認してください。

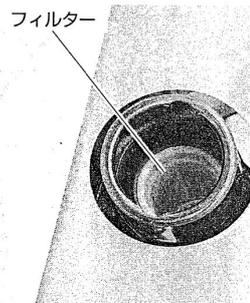
燃料の残量が少なくなったときは、マークが点滅し、ブザーが継続的に鳴ります。

ブザーを止めるときは、ブザー停止ボタンを押してください。ブザーは鳴り止みますが、マークは点滅したままです。



(2) 燃料の補給の仕方

- ①燃料キャップを取り外してください。
- ②燃料を、フィルターから液面が見え始めるまで補給してください。



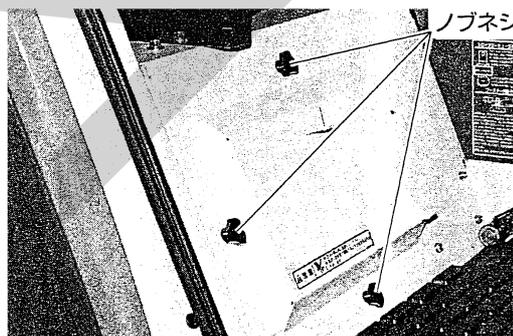
3 オイルの点検・補給・交換の仕方

(1) エンジンオイル

エンジンオイルの点検・補給・交換は、エンジン始動前か、エンジンが冷えているときに行ってください。

作業は、エンジンルームをオープンしてから行ってください。

ドライバースーツ下のカバー (ノブネジ: 3本) を取り外してください。



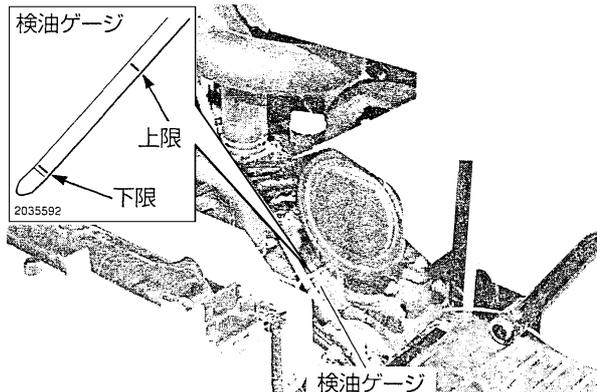
作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈点検のしかた〉

- ①検油ゲージを抜いて、先端をきれいに拭き取ってください。
- ②検油ゲージを元通りに差し込んだ後、もう一度抜き出して、ゲージの上限と下限の間にオイルがあることを点検してください。
- ③点検後は、検油ゲージを元通りに取り付けてください。

参考

- ・点検時、オイルもれのないことも確認してください。



〈 補給のしかた 〉

オイルが不足している場合は、給油口から規定量になるまで補給してください。

〈 交換のしかた 〉

- ① ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
- ② 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。

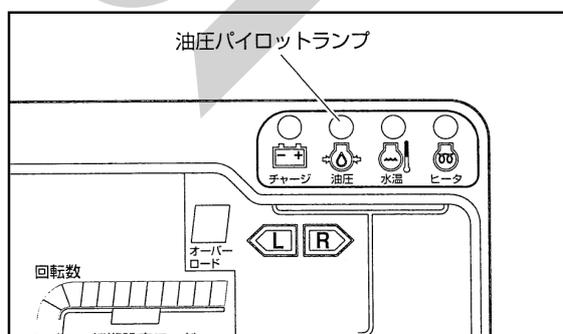
参考

- ・給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。
- ③ 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。



- ④ 給油口から、エンジンオイルを規定量まで給油してください。
- ⑤ 給油口にふたを取り付けてください。

- ⑥ エンジンを始動し、油圧パイロットランプが消えるまで、ローアイドルング（低回転）で回してください。



- ⑦ 油圧パイロットランプが消えたら、エンジンを停止し、約5分間待ってください。
- ⑧ 検油ゲージでオイル量を点検してください。不足している場合は、補給してください。

取扱い上の注意

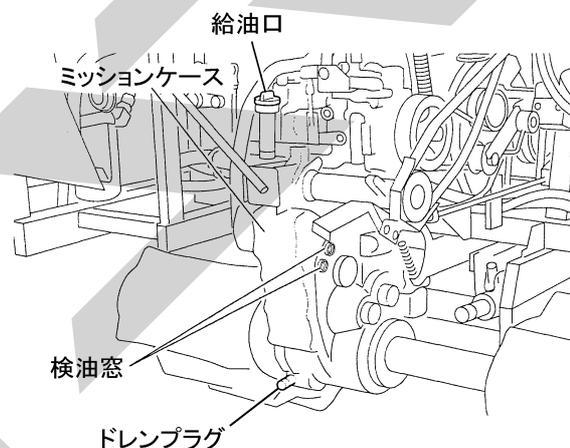
- ・オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておく、環境汚染につながります。廃油の処分は、販売店にご相談ください。

(2) ミッションオイル

ミッションオイルの点検・補給・交換は、機体を水平な状態にし、ピックアップを最上げ状態にして、刈取部をロックしてから行ってください。作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈 点検のしかた 〉

ミッションケース左側面にある検油窓を点検してください。2つの検油窓のうち、下側の窓がオイルで満たされていれば規定量です。



参考

- ・上側の検油窓は、入れ過ぎ防止のために設けてあります。
- ・点検時、オイルもれのないことを確認してください。

〈 補給のしかた 〉

オイルが不足している場合は、給油口から規定量(下側の検油窓がオイルで満たされる量)まで補給してください。

〈 交換のしかた 〉

- ① ミッションケース下部のドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
- ② 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。

参考

- ・給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。
- ③ 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。
 - ④ 給油口からミッションオイルを給油してください。下側の検油窓が、オイルで満たされていれば規定量です。

参考

- ・上側の検油窓は、入れ過ぎ防止のために設けてあります。入れ過ぎた場合でも、上側の窓の中央以下になるように油量を調整してください。
- ・上記の規定量は、ミッションケース内のオイル量です。配管等からオイルを抜いた場合は、検油窓を確認しながらオイルの補給を行ってください。

⑤給油口のふたを取り付けてください。

4 冷却水の点検・補給・交換の仕方

・ 警告

- ・ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後に開けないでください。開けると熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。エンジンの停止直後、10分程度たってから、エンジンの冷えていることを確認して開けてください。

冷却水の点検・補給・交換は、エンジンルームをオープンしてから行ってください。

作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈 点検のしかた 〉

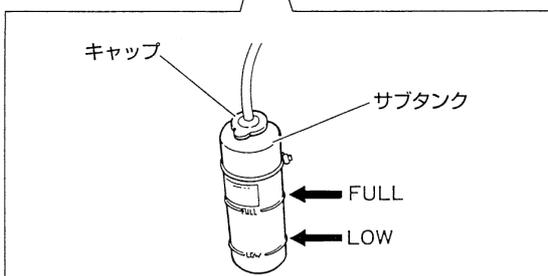
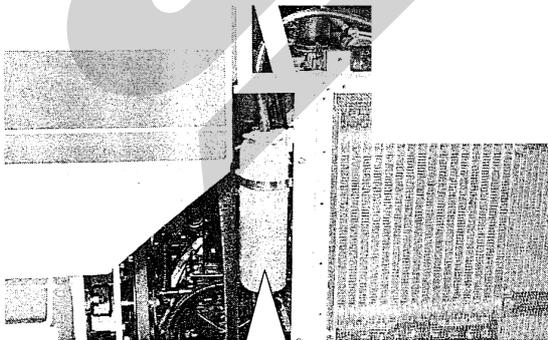
サブタンク内の冷却水が「FULL」「LOW」の範囲内にあるか点検してください。

参考

- ・点検時、水もれのないことも確認してください。

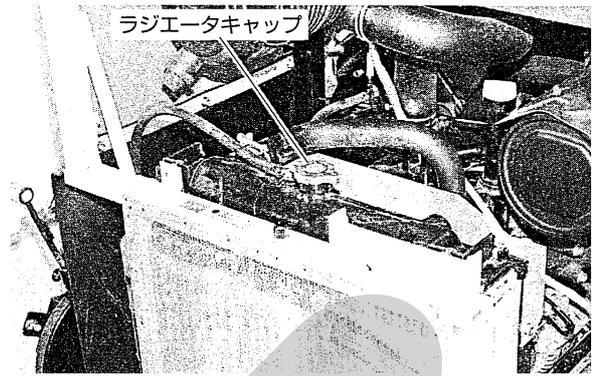
〈 補給のしかた 〉

冷却水が不足している場合は、サブタンクのキャップを外し、きれいな水道水を補給してください。



〈 交換のしかた 〉

①ラジエータキャップを取り外してください。



②ドレンコックを取り外し、ラジエータ内の水をすべて抜いてください。



③水道水で、ゴミや錆が出なくなるまでラジエータ内で洗います。

参考

- ・ラジエータ内をいっそうきれいになりたいときは、ラジエータ洗浄剤を混合した水をラジエータに入れ、15分以上エンジンを空回転してから、水を拭き取ってください。

④ドレンコックを元通りに取り付け、不凍液を必要量入れた後、水道水をあふれるまで入れてください。

⑤ラジエータキャップを取り付けてください。

⑥エンジンを始動し、5分間エンジンを空運転して、不凍液の混合を早めてください。

〈 不凍液の取扱いについて 〉

- ・不凍液は、水の凍結温度を下げる効果があります。不凍液の混合化によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯などでは下記の表を参考にして、安全な濃度で使用してください。

不凍液混合率表

外気温度(℃)		-5	-10	-15	-20	-25	-30
比率	水 (%)	85	75	70	65	60	55
	不凍液 (%)	15	25	30	35	40	45

- ・出荷時には、不凍液が入っています。冷却水交換時には、新たに不凍液を入れてください。
- ・不凍液の混合化は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。
- ・冷却水が自然に不足した場合は、水道水だけを入れてください。また、パーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して確認してください。
- ・不凍液の有効期限は1年です。毎年、新しい不凍液と交換してください。

5 エンジンオイルエレメントの交換の仕方

エンジンオイルエレメントは、エンジンオイル内の小さな異物をこし取るものです。カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に変換してください。

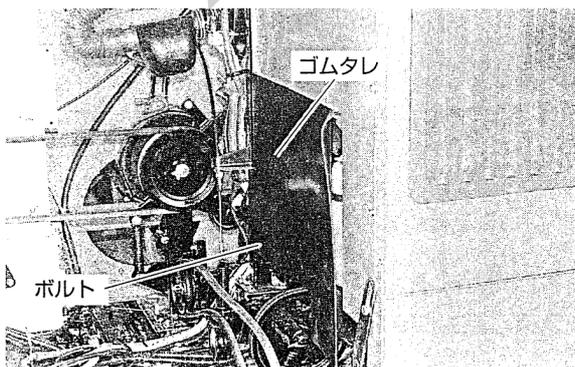
参考

- ・エンジンオイルエレメントの交換と同時に、エンジンオイルの交換も行ってください。

〈 交換のしかた 〉

エンジンオイルエレメントの交換は、エンジンオイルを拭き取った後に行ってください。

- ①エンジン後方のゴムタレのボルト(1本)を外して、ゴムタレをめくってください。



- ②オイルエレメントを、矢印方向に回して取り外してください。



- ③新しいオイルエレメントの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布してください。
- ④オイルエレメントを、ゴムリングがエンジンケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けてください。

取扱い上の注意

- ・交換後は、オイルエレメント取付面からオイルもれやにじみがないか、必ず点検してください。
- ・エンジンオイルエレメントは、純正部品を使用してください。他社製品を使用しますと故障の原因になります。

6 HSTフィルタの交換の仕方

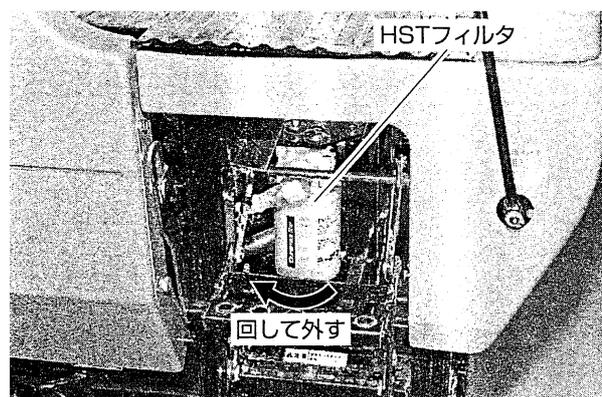
HSTオイルは、ミッションオイルと兼用しています。HSTフィルタは、カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。ミッションオイルの交換をするときに、HSTフィルタも同時に交換してください。

交換時期

300時間ごと

〈 交換のしかた 〉

- ①HSTフィルタを、矢印方向に回して取り外してください。



- ②新しいHSTフィルタの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布してください。
- ③HSTフィルタを、ゴムリングがミッションケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けてください。

取扱い上の注意

- ・交換後は、HSTフィルタ取付面からのオイル漏れやにじみがないか、必ず点検してください。
- ・HSTフィルタは、純正部品をご使用ください。

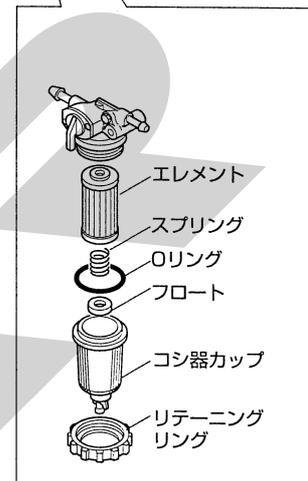
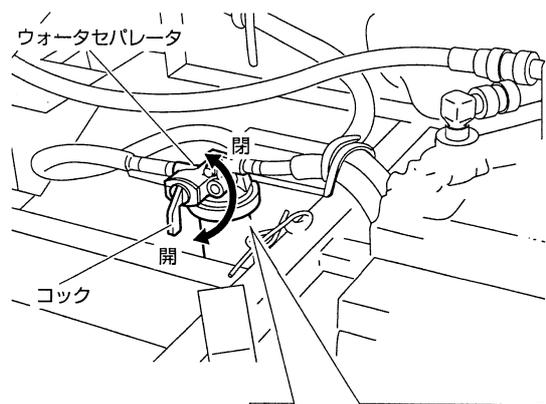
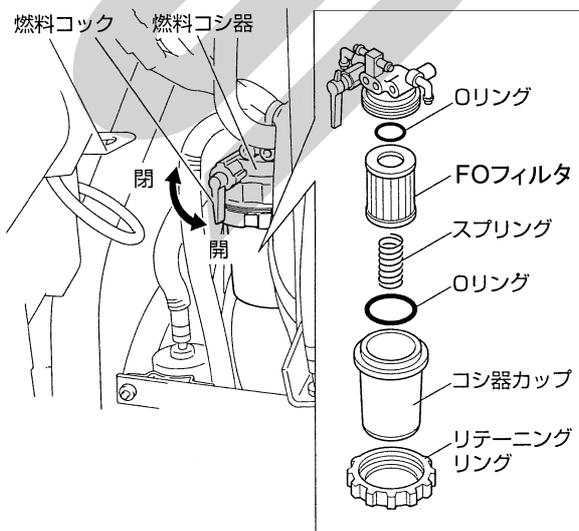
7 ウォータセパレータと燃料コシ器エレメントの点検・掃除・交換の仕方

〈点検のしかた〉

- ①エンジンルームの後部左方に付いている透明容器が、燃料コシ器です。機体後方のシャーンに付いている容器が、ウォータセパレータです。
- ②コシ器にゴミや水が沈殿していないか点検してください。沈殿していたら、下記の要領で掃除をしてください。

〈掃除のしかた〉

- ①燃料コシ器とウォータセパレータのコックを「閉」位置にしてください。
- ②それぞれのカップを取り外し、水・ゴミを取り除いてください。
- ③コシ器の洗浄が終わったら、燃料コックを「開」位置にして燃料を出しながら、コシ器内に空気が入らないようにカップを取り付けてください。



取扱い上の注意

- ・空気が入ったときは、燃料のエア抜きをしてください。

〈交換のしかた〉

コシ器内のエレメントは、300時間ごとに交換が必要です。

要領は、掃除のしかたと同じです。前述の②のときにエレメントを交換してください。

・注意

- ・マフラに、燃料がかからないように注意してください。万一、マフラに燃料がかかった場合は、ウエスなどで拭き取ってください。守らないと火災の原因になります。

8 燃料タンクのドレン抜きの仕方

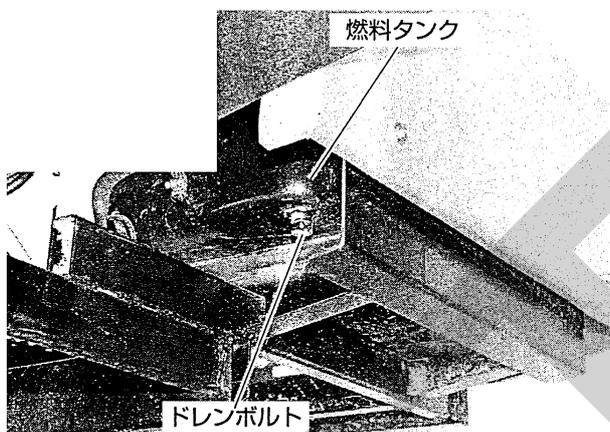
燃料タンクの底部には、水やゴミが沈殿しています。これらの沈殿物が燃料ポンプに入ると不具合の原因になりますので、定期的に取り除いてください。

参考

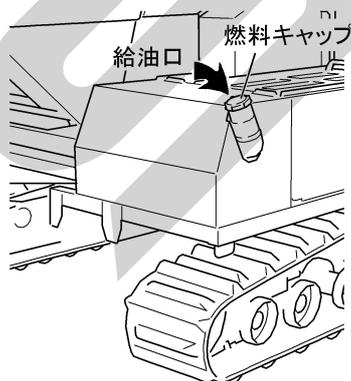
- ・燃料タンクのドレン抜きと同時に、ウォータセパレータの水抜きも、必ず行ってください。

〈ドレン抜きのしかた〉

- ①燃料タンク下部にあるドレンボルトの下に、燃料を受ける容器を置いてください。
- ②ドレンボルトを取り外してください。
燃料が流れ出て、タンク内の沈殿物が排出されます。



- ③排出後、ドレンボルトを取り外してください。
- ④燃料キャップを取り外し、新しい燃料を補給してください。

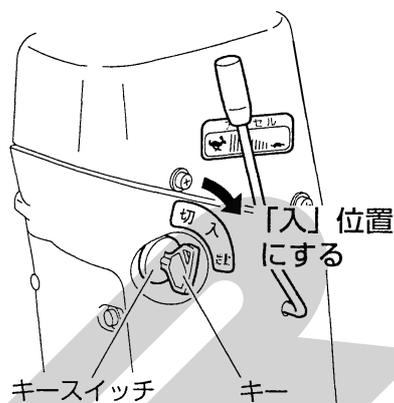


9 燃料の空気（エア）抜きの仕方

燃料タンクが空になったり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まります。下記の要領で空気抜きをしてください。

〈空気（エア）抜きのしかた〉

- ①燃料を満タンにしてください。
- ②キースイッチを「入」位置にしたまま20～30秒待ち、「始動」位置にしてください。
自動的に空気抜きが行われ、エンジンが始動します。



10 エアクリーナーの掃除・交換の仕方

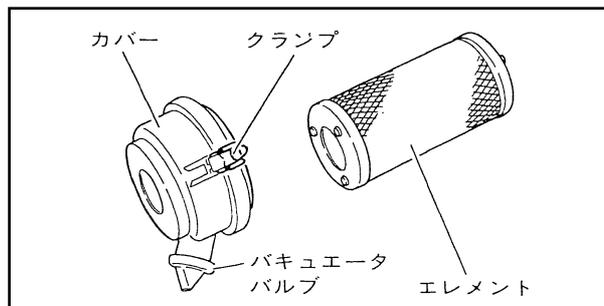
エアクリーナーは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り除き、シリンダやピストンリングの磨耗を防ぐ装置です。毎日、作用後に掃除してください。作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈掃除・交換のしかた〉

- ①カバーのクランプを外して、エレメントを取り外してください。
- ②エレメントは、内側から空気（7kg/cm²以下）を吹きつけてください。
- ③取り付けるときは、取り外しの逆手順で行ってください。

参考

- ・カバーは、矢印のシールを合わせて取り付けてください。



取扱い上の注意

- ・エレメントを交換するときは、純正部品をご使用ください。

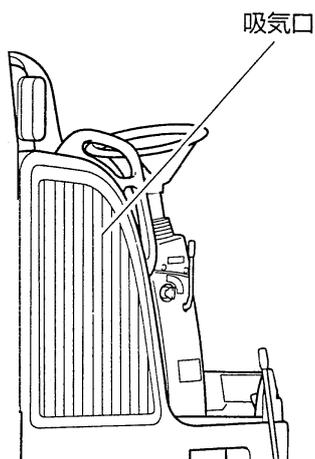
11 吸気口・ラジエータスクリーン・ラジエータフィンの掃除の仕方

吸気口・ラジエータスクリーンは、エンジンの防塵装置です。冷却風を吸入する大切な装置ですから、作業前・作業後には必ず掃除をしてください。

(1) 吸気口・エンジンルーム内の掃除のしかた

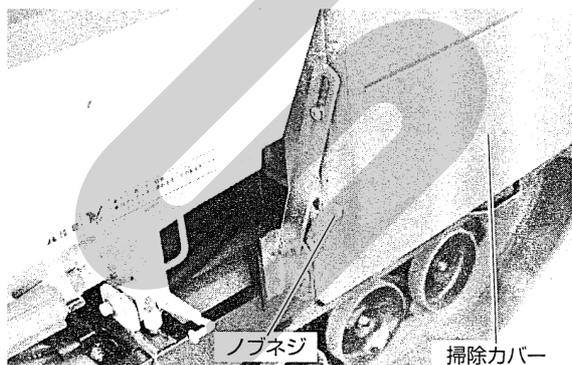
〈 吸気口の掃除のしかた 〉

吸気口の網面にゴミが付着しているときは、エンジンを停止してから、網面を軽くこすってゴミを落としてください。

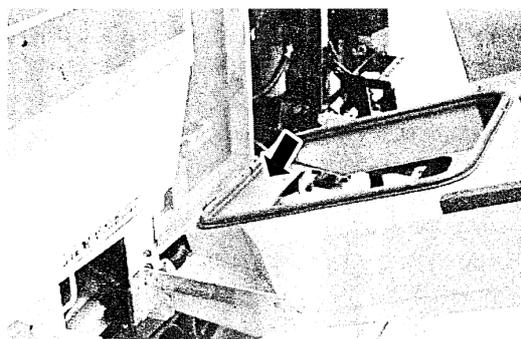


〈 エンジンルーム内の掃除のしかた 〉

- ① エンジンルームをオープンしてください。
- ② エンジンルームの掃除カバーのノブネジ (2本) を外して、掃除カバーを開いてください。



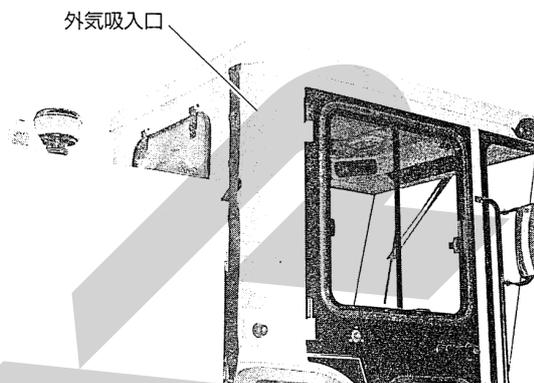
- ③ エンジンルーム内の矢印部分に溜まっているゴミを取り除いてください。



取扱い上の注意

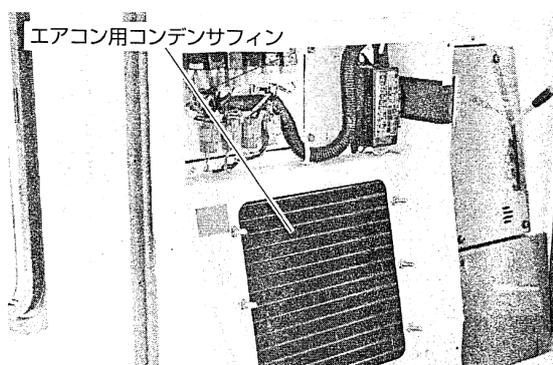
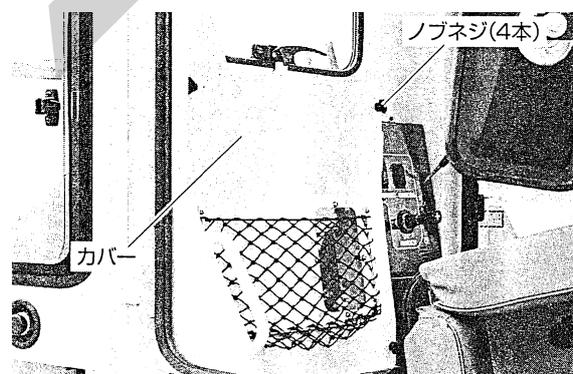
- ・ 網面へのゴミの付着には常に注意し、ゴミが付着していれば掃除するようにしてください。ゴミが付着したままにしておくと、エンジンの冷却水、およびミッションオイルの冷却不良の原因になります。

〈 外気吸気口の掃除のしかた 〉



〈 エアコン用コンデンサフィン 〉

- ① ドライバーシートを前面に倒してください。
- ② キャビン室内の後面のカバーのノブネジ (4本) を外して、カバーを取り外してください。

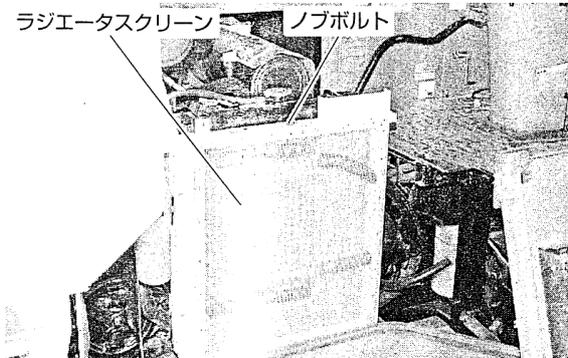


取扱い上の注意

- ・ 網面やスクリーンへのゴミの付着には常に注意し、ゴミが付着していれば必ず掃除してください。
- ・ コンデンサが目詰まりすると、冷房能力が低下しますので、定期的に掃除をしてください。

(2) ラジエータスクリーンの掃除のしかた

- ① エンジンルームをオープンしてください。
- ② ラジエータスクリーン上部のノブボルトを外して、ラジエータスクリーンを引き上げて、取り外してください。
- ③ ラジエータスクリーンに付着したワラズやホコリを、払い落としてください。



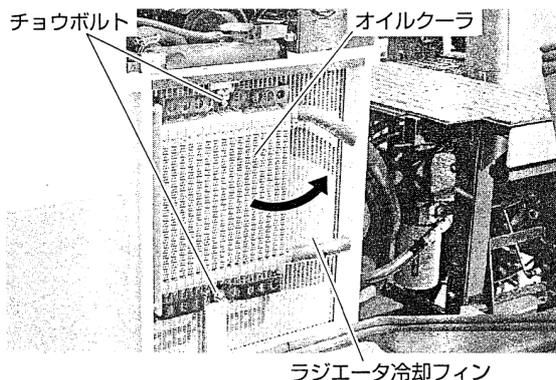
取扱い上の注意

- ・ラジエータスクリーンへのゴミの付着には常に注意し、ゴミが付着していれば掃除するようにしてください。ゴミが付着したままにしておくと、エンジンの冷却水、およびミッションオイルの冷却不良の原因になります。

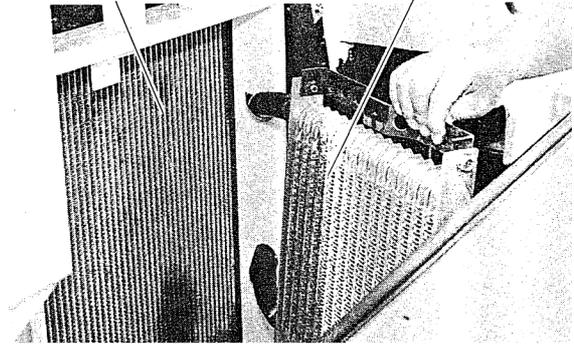
(3) オイルクーラフィン・ラジエータ冷却フィンの掃除のしかた

粉塵が特に多い場合は、下記の要領でオイルクーラフィン、およびラジエータ冷却フィンを掃除してください。

- ① エンジンルームをオープンしてください。
- ② ラジエータスクリーン上部のノブボルトを外して、ラジエータスクリーンを引き上げて、取り外してください。
- ③ チョウボルトを外して、オイルクーラを開いてください。
- ④ オイルクーラフィン・ラジエータ冷却フィンに付着しているホコリを、エアガン、あるいはブロアなどで取り除いてください。



ラジエータ冷却フィン オイルクーラフィン



取扱い上の注意

- ・ラジエータ冷却フィンは変形させないでください。

(4) フィルタの掃除の仕方 (キャビン室内)

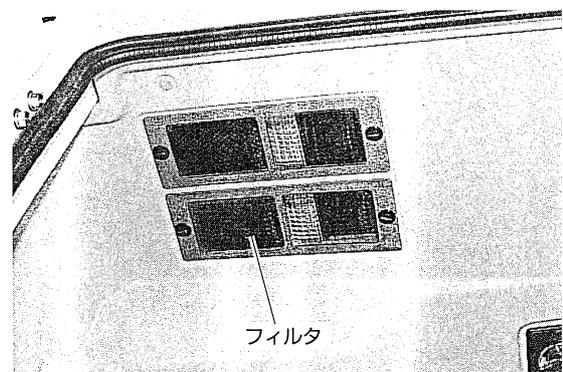
警告

- ・フィルタの掃除や点検・整備をするときは、必ずキースイッチを「切」位置にしてください。
- ・空気の吸い込み口や吹出口に、棒や手を入れないでください。内部でファンが回転していますので、ケガをするおそれがあります。

- ① キースイッチを「切」位置にしてください。
- ② フィルタを取り外して、エアガン、あるいはブロアなどで洗浄してください。

〈 フィルタの汚れや詰まりが著しい場合 〉

- ① 中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて、上下左右に動かしながら洗浄してください。
- ② 清水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥させてください。



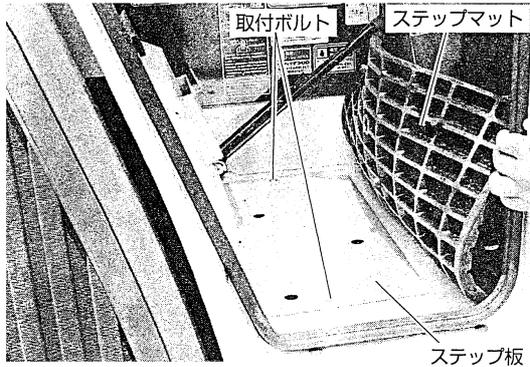
取扱い上の注意

- ・洗浄に有機溶剤 (ガソリン・シンナーなど) を使用しないでください。

12 ウォッシャー液の補充の仕方

ウォッシャータンクは、ステップマット下のカバー内にあります。ウォッシャー液が無くなったときは、下記の要領で補充してください。補充後は、元通りセットしてください。

- ①ステップマットをめくり、ステップ板を外してください。



- ②ウォッシャータンクにウォッシャー液を入れてください。



13 バッテリーの点検・整備の仕方

・危険

- ・バッテリーの点検時には、保護メガネとゴム手袋を着用してください。
- ・バッテリーの液槽キャップを外すときは、火気厳禁です。液槽キャップを開けると、液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、引火してヤケドや火災を引き起すおそれがあります。

・警告

- ・バッテリー液は、「下限 (LOWER)」以下にしないでください。容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

- ・バッテリーの電解液は希硫酸ですので、取り扱いには注意してください。もし、皮膚や衣服についたときは、直ちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
- ・バッテリー端子を取り付けるときは、⊕側を先に取り付け、取り外すときは⊖側から取り外してください。守らないと、ショートしてヤケドや火災原因になります。
- ・バッテリーの上面および周辺は、常に清潔にしてください。排気穴が小ホコリなどでふさがれると、破損や火災の原因になります。

取扱い上の注意

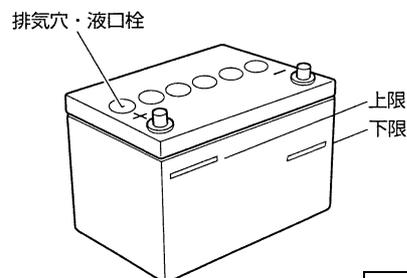
- ・バッテリーの各槽に電解液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、機械の金属部を腐蝕させます。
- ・急速充電はしないでください。
- ・バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した型式のバッテリーを使用してください。

指定バッテリー	95D31R (部品コード No. 198010-51500)
---------	------------------------------------

- ・環境保全と資源リサイクルのため、交換した古いバッテリーは、放置したり、捨てたりしないでください。必ず、バッテリーを購入したお店に渡してください。資源としてリサイクルされます。
- ・バッテリーの質量は約20kgありますので、取り扱いには注意してください。

(1) バッテリー液の点検・補給のしかた

各槽のバッテリー液が、上限と下限のラインの間にあることを確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。



指定バッテリー
95D31R

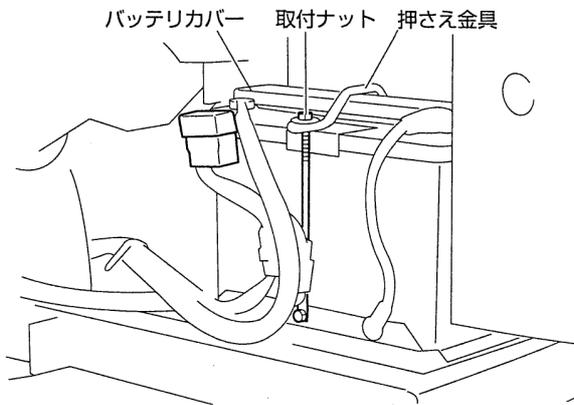
取扱い上の注意

- ・バッテリー液は、常に規定量を保ってください。
- ・バッテリー端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。

(2) バッテリーの取り外しかた

バッテリーは、運転席後部にあります。以下の要領に従って取り外してください。

- ①バッテリーを固定している、取付ナット（2個）を外してください。
- ②バッテリーの押え金具とバッテリーカバーを取り外してください。



- ③バッテリーコードの⊖端子を外した後、⊕端子を外してください。
- ④バッテリーを抜き出してください。
- ⑤バッテリーの取り付けは、取り外しの逆の手順で行ってください。

(3) 補充電のしかた

寒冷地など気温の低い地域で使うとき、エンジンの始動がしにくくなったとき、ライトが暗くなったとき、自然放電によってセル始動ができないときは、下記の要領で補充電をしてください。

- ①バッテリーを取り外してください。（前項参照）
- ②液口栓を外し、バッテリーの⊕を充電器の⊕に、バッテリーの⊖を充電器の⊖に接続してください。
- ③アンペア程度で8～10時間行ってください。
- ④充電が完了したら、充電用の接続を外し、液口栓を取り付けてください。
- ⑤バッテリーを機体に、元通りに取り付けてください。

取扱い上の注意

- ・急速充電はしないでください。
- ・取り付けるときは、ターミナル接触部の油分などを拭き取ってください。また、取り付け後は、ターミナル部にグリスを塗布してください。
- ・バッテリーの⊕ターミナル部のゴムブーツは、必ず取り付けてください。
- ・充電完了後は、液口栓を確実に締め付けて取り付けてください。

(4) バッテリーの手入れの仕方

バッテリー端子が腐蝕していたり、白い粉が付いている場合は、お湯でぬらしたウエスなどで掃除し、グリスを塗布してください。

(5) バッテリーの自然放電について

エンジンを長期間運転しないで放置していると、バッテリーは自然放電します。使用しないときでも、ときどきエンジンがかかることを点検し、必要に応じて充電してください。

14 パイプ類の点検の仕方

・ 警告

- ・作業前・作業後に、燃料パイプの老化や傷による燃料もれがないか点検し、燃料もれのある燃料パイプは交換してください。燃料もれがあると火災の原因になります。

燃料パイプやラジエータホースなどの傷みによる燃料もれ、水もれがないか点検してください。また、締付バンドがゆるんでいないか点検してください。燃料パイプやラジエータホースは、傷みがなくても2年ごとに交換してください。燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。

取扱い上の注意

- ・排油チューブも必ず点検してください。排油チューブが破損していると、エンジン焼付きの原因になります。

15 電気配線の点検の仕方

・ 警告

- ・バッテリーや配線に付着しているゴミは、作業前・作業後にきれいに除去してください。ゴミが付着していると、火災の原因になります。

電気配線コードが他の部品のエッジ部に接触して、被覆のはがれや傷、接続部のゆるみがないか点検してください。配線コードが傷んでいる場合は、販売店で修理してください。配線コードは、傷みがなくても50時間使用または、1年ごとに定期点検を受けてください。

16 ヒューズの点検・交換の仕方

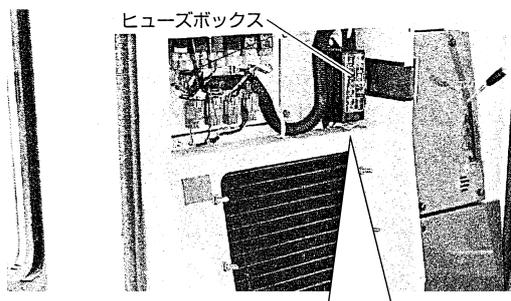
スローブローヒューズおよびヒューズボックス内のヒューズが切れていれば、規定のものと交換してください。

・ 警告

・ 規定外のヒューズとは絶対に交換しないでください。火災の原因になります。

シート後のカバー内

ノブネジ (4本) を外し、カバーを取り外してください。



ヒューズボックス

スローブローヒューズの点検

スローブローヒューズは過大電流が流れると、溶断して電装品を保護します。電源が入らない時はバッテリーの+端子部にあるスローブローヒューズを点検してください。

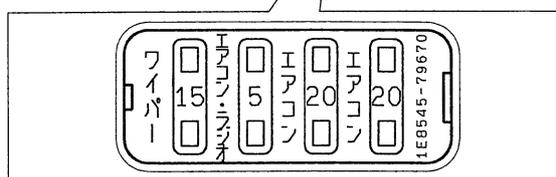
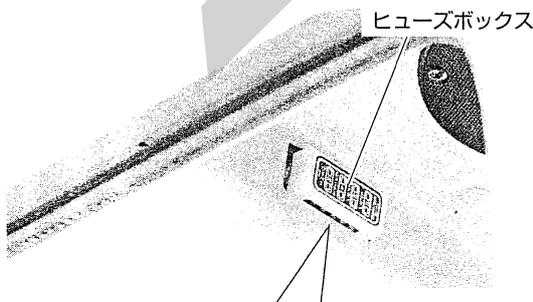
40A
ワイパー

50A 50A 50A
電源1 電源2 ジェネレータ

コントロールボックス内ヒューズ名称

作業機制御	5A	トランスミッター	5A
UFO昇降	10A	駆動バルブ	5A
UFOコントローラ	5A	燃料ポンプ	5A
満量警報	10A	メータパネル	5A
予備電源	20A	走行装置	10A
		フラッシュ	10A
		保安装置	15A
		作業灯	20A
		ゲート開閉	5A
予備	20A	ピック昇降	5A

キャビン内の頭上



17 各部ベルトの点検・調節の仕方

ベルトに傷がある時や切れたときは、交換してください。

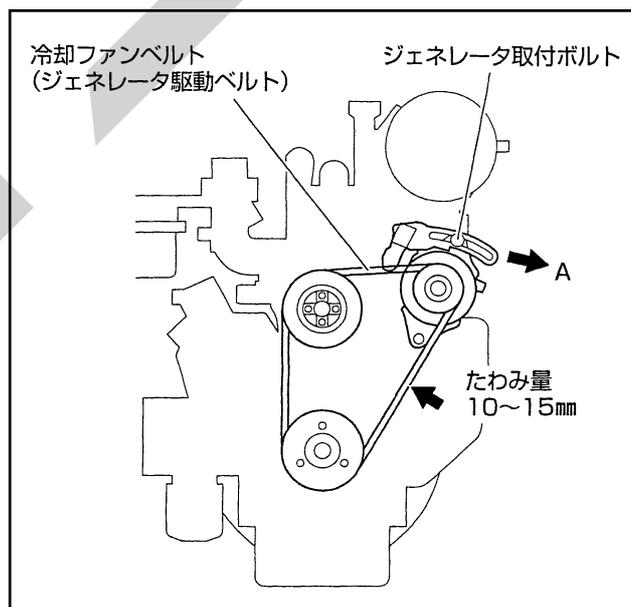
- (1) 冷却ファンベルト (ジェネレータ駆動ベルト)
エンジンルームをオープンして下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りに閉めてください。

〈 点検のしかた 〉

ベルトの中央を指で押したとき、たわみ量が 10~15mm であるか確認してください。

〈 調節のしかた 〉

- ① ジェネレータ取付ボルトをゆるめてください。
- ② ジェネレータを下図の矢印Aの方向に引っ張り、ベルトを張ってください。
- ③ ジェネレータ取付ボルトを締め付けて固定してください。



(2) HST 走行駆動ベルト

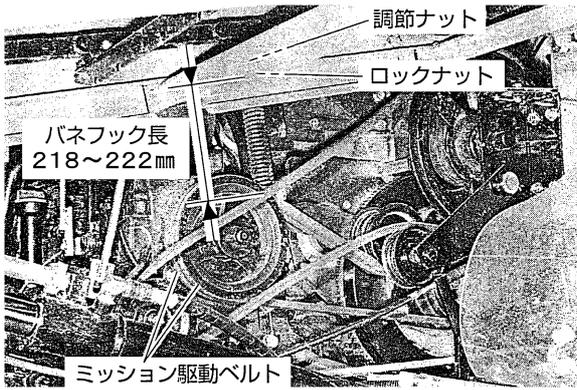
〈 点検のしかた 〉

テンション羽のバネフック長を測り、218~222mm であるか確認してください。

〈 調節のしかた 〉

- ① ロックナットをゆるめてください。
- ② 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。

- ③ロックナットを締め付けて固定してください。



(3) コンプレッサ駆動ベルト

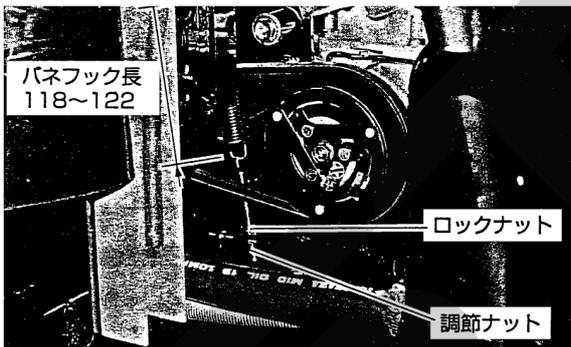
エンジンルームをオープンして下記の点検・調節してください。点検・調節後は、元通りに収納してください。

〈点検のしかた〉

テンションバネのフック長を測り、118~122mm であるか確認してください。

〈調節のしかた〉

- ①ロックナットをゆるめてください。
- ②調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
- ③ロックナットを締め付けて固定してください。



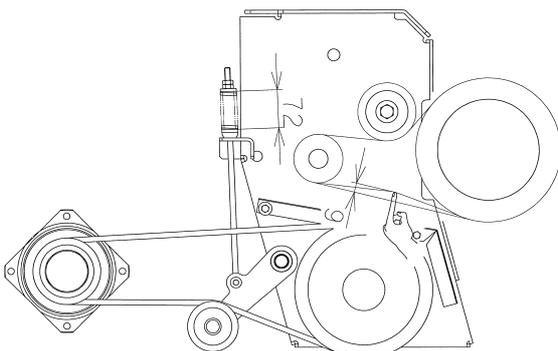
(4) カウンタケース入カベルト

〈点検のしかた〉

テンションバネのバネ長を測り、72mm であるか確認してください。

〈調節のしかた〉

- ①ロックナットをゆるめてください。
- ②調節ナットを回して、バネ長を調節してください。
- ③ロックナットを締め付けて固定してください。



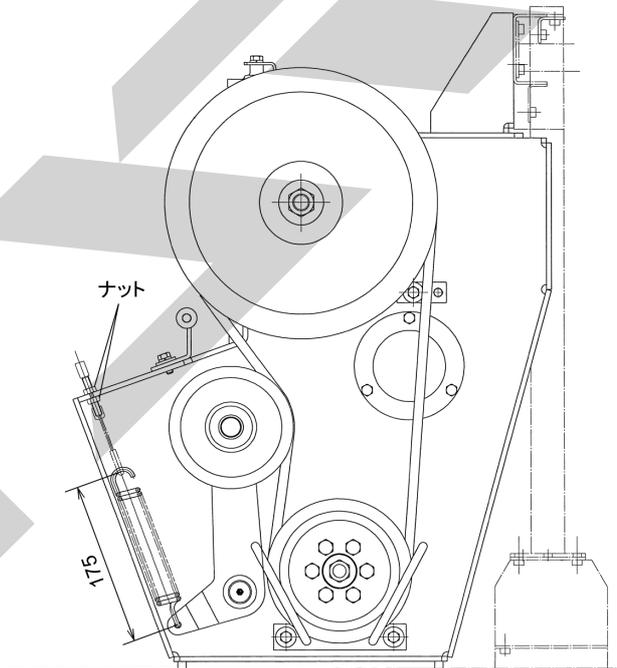
(5) 作業クラッチベルト

〈点検のしかた〉

- ①カウンタケースのカバーを外してください。
- ②エンジン停止の状態で作業クラッチを「入」位置にしてください。
- ③その時、テンションバネのバネフック長を測り、175mm であるか確認してください。

〈調節のしかた〉

- ①ロックナットをゆるめてください。
- ②調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
- ③ロックナットを締め付けて固定してください。



18 駐車ブレーキの点検・調節の仕方

サイドコラムカバーを取り外し、下記の点検・調節をしてください。

点検・調節後は、元通りに取り付けてください。

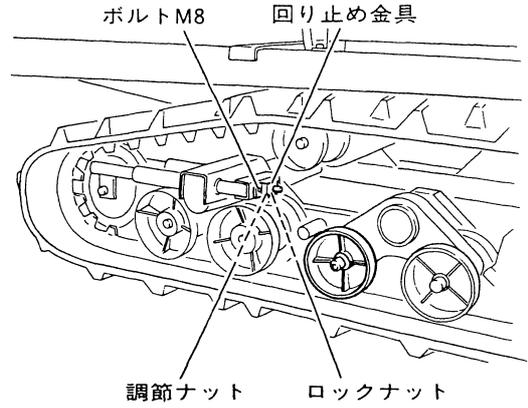
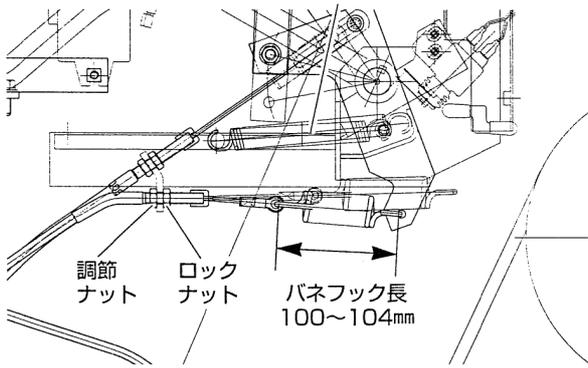
〈点検のしかた〉

- ①駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてください。
- ②バネのバネフック長を測り、100~104mm であるか確認してください。
- ③調節後、駐車ブレーキレバーを「解除」位置にしてバネが自由長になっていることを確認してください。

〈調節のしかた〉

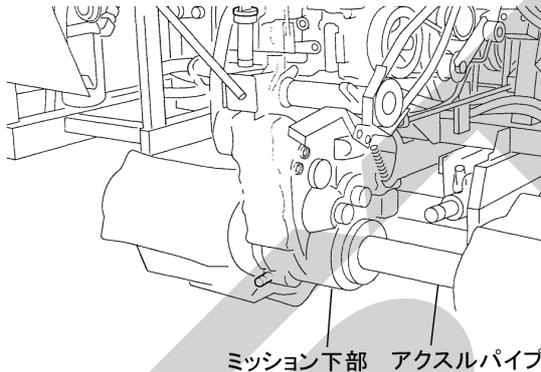
- ①ロックナットをゆるめてください。

- ②調節ナットを締め込みながら調節してください。
- ③ロックナットを締め付けて固定してください。



19 クローラの点検・調節の仕方

右側のクローラを点検するときは、ミッション下部およびシャーシ左後・右後の3ヶ所を左側のクローラを点検するときは、アクスルパイプのクローラ側およびシャーシ左後、右後の3ヶ所を同時にジャッキアップし、クローラを浮かせた状態で下記の点検・調節をしてください。



〈 ジャッキアップ時の注意事項 〉

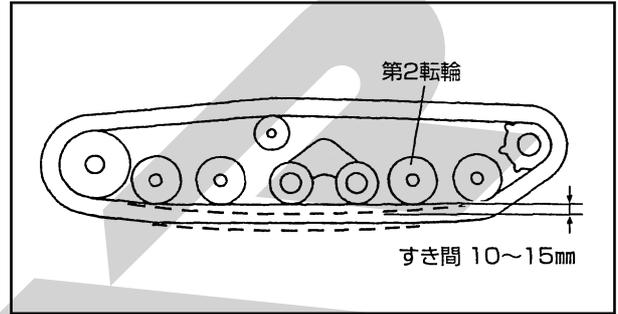
ジャッキアップをするときは、地面が固く、平坦な場所で、必ず2トン以上の容量のジャッキを使用して行ってください。

〈 点検のしかた 〉

第2転輪とクローラのすき間を測り、10~15mm であるか確認してください。

〈 調節のしかた 〉

- ①ボルト M8 を外してください。
- ②回り止め金具を取り外してください。
- ③ロックナットをゆるめてください。
- ④調節ナットを回して、すき間を調節してください。
- ⑤ロックナットを締め付けて固定してください。
- ⑥回り止め金具を取り付けて、ボルト M8 で固定してください。



20 排気ガスの色について

エンジン始動時は、少し黒色の排気ガスが出る場合もありますが、通常は無色です。

- 黒色 …… 燃料が濃すぎるための不完全燃焼。
- 白色 …… エンジンオイルが燃焼しています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。

21 クーラーガス（冷媒）の点検の仕方

クーラーガス（冷媒）が不足していると、冷房性能が低下します。

・ 警告

- ・クーラーガスは、液が目に入ったり、手にかかると、失明したり凍傷にかかるおそれがあります。冷媒回路の部品はゆるめないでください。
- ・エンジン回転中は、エンジンの回転部に手を触れないよう十分に注意してください。

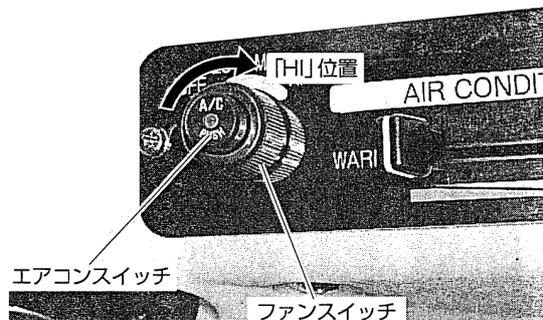
取扱い上の注意

- ・クーラーガスはR-134aを使用しています。これ以外のクーラーガスは、絶対に使用しないでください。

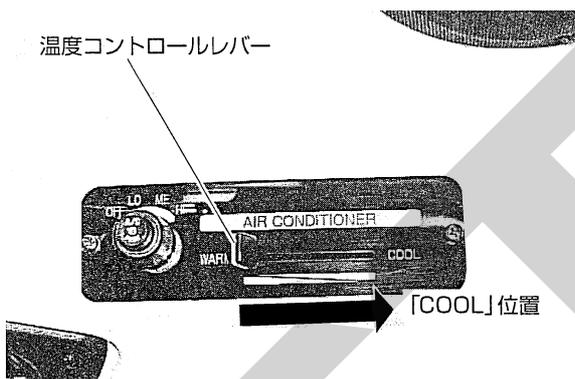
使用冷媒 (クーラーガス)	フロン R-134a
充てん量	900g

〈 点検のしかた 〉

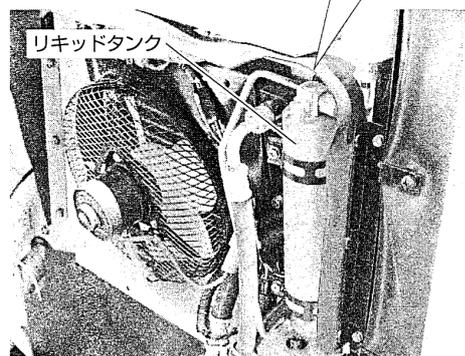
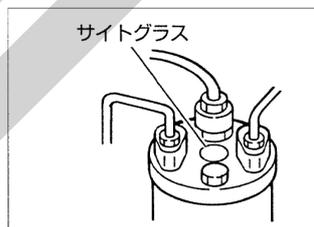
- ① エンジンを始動し、エンジン回転数を定格回転にしてください。
- ② ファンスイッチを「HI」位置 (最大風量) にしてください。



- ③ 温度コントロールレバーを「COOL」位置 (強冷) にしてください。



- ④ エアコンスイッチを「ON」 (ランプ点灯) にしてください。
- ⑤ リキッドタンクのサイトグラス (点検窓) から、クーラーガスの気泡の流れを見て、ガス量の点検をしてください。



クーラーガス量チェック表

クーラー状態	異常なし	異常あり		
高・低圧パイプの温度	高圧パイプは熱く、低圧パイプは冷たい。温度差がはっきりある。 ・コンプレッサ吐出側温度 70℃ ・コンプレッサ吸入側温度 5℃	高圧パイプは暖かく、低圧パイプはやや冷たい。温度差はあまりない。	高圧パイプ、低圧パイプにほとんど温度差が感じられない。	高圧パイプは熱く、低圧パイプはやや暖かい。温度差はあまりない。
サイトグラスの状態	ほとんど透明。気泡の流れが見えても、エンジン回転を上げたり下げたりすると透明になる。 ※1	気泡の流れるのが見える。透明または白泡のときもある。	霧のようなものが流れているのがわずかに見える。	ドアを全開にして、ファンを最大風量にし、アイドリングで回しても気泡が見えない。 ※2
パイプ接続部の状態	異常なし。	油が汚れている所がある。	油の汚れが著しい所がある。	異常なし。
このクーラーの状態	ガス量も不足なく異常はない。	少しガスがもれている所がある。	ガスがほとんどもれてしまった。	ガスが過充てんになっている。

※1 外気温度が低いときには、ガス充てん量が適正でも気泡が見えることがあります。

※2 クーラーガスがない場合があるので、高・低圧パイプの温度差がないことを確認してください。この場合、全く冷えない状態にあります。

2 2 各部ローラチェーンの点検・調節の仕方

ローラチェーンは、使用するにつれて少しずつ伸びが生じます。円滑な動力の伝達をするために、ローラチェーンの張り調整を行ってください。

特に、最初の使用では初期伸びが生じますので、使用後に必ず張り調整を行ってください。

③ ロックナットを締め付けて固定してください。

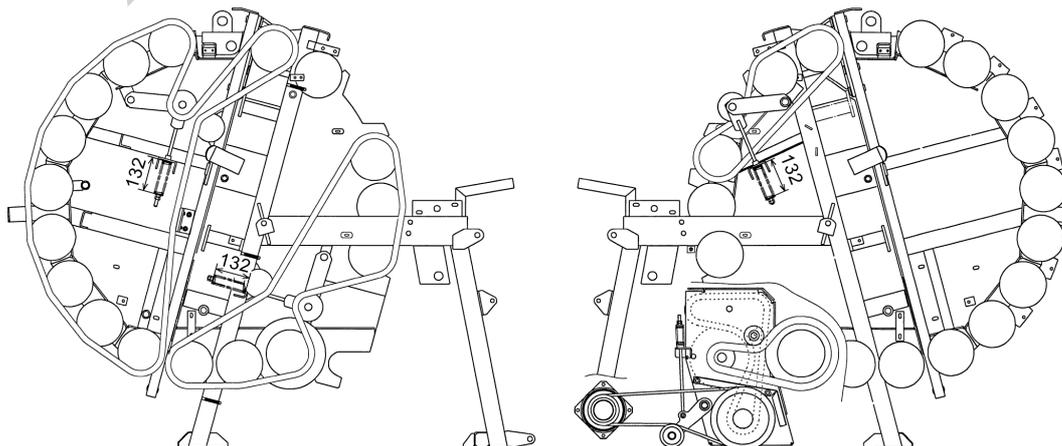
(1) ローラ駆動部 (3ヶ所)

〈点検のしかた〉

テンションバネのバネ長を測り、132mm であるか確認してください。

〈調節のしかた〉

- ① ロックナットをゆるめてください。
- ② 調節ナットを回して、バネ長を調節してください。



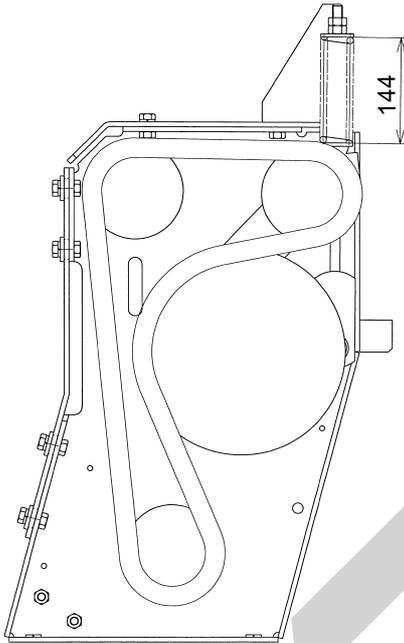
(2) カウンタケース部

〈点検のしかた〉

テンションバネのバネ長を測り、144mm であるか確認してください。

〈調節のしかた〉

- ①ロックナットをゆるめてください。
- ②調節ナットを回して、バネ長を調節してください。
- ③ロックナットを締め付けて固定してください。



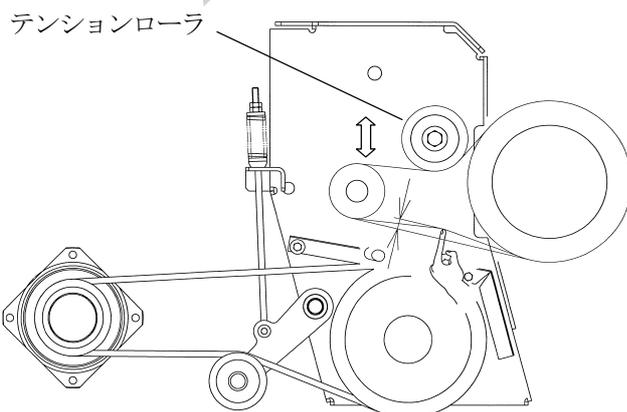
(3) 作業部入力

〈点検のしかた〉

ローラチェーンの中央部を指で押してたわみ量が6mm であるか確認してください。

〈調節のしかた〉

- ①固定ボルトをゆるめてください。
- ②テンションローラを移動させ張り量を調節してください。
- ③固定ボルトを締め付けて固定してください。



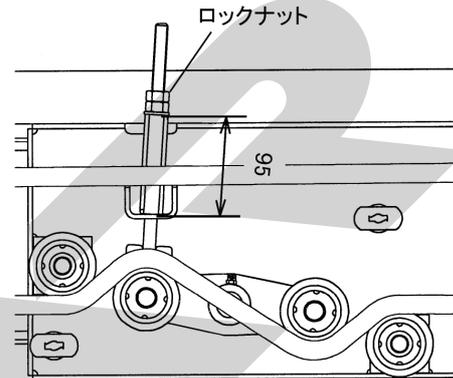
(4) コンベア部

〈点検のしかた〉

テンションバネのバネ長を測り 95mm であるか確認してください。

〈調節のしかた〉

- ①ロックナットをゆるめてください。
- ②調節ナットを回して、バネ長を調節してください。
- ③ロックナットを締め付けて固定してください。



(5) ピックアップ駆動部

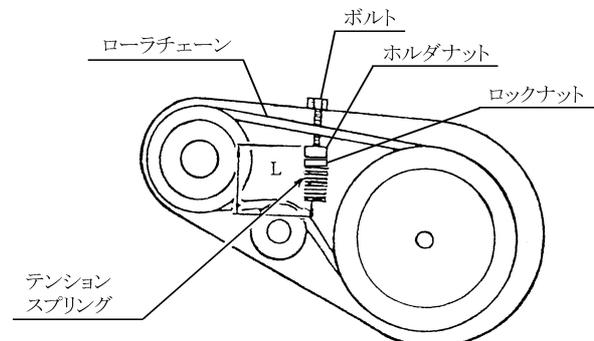
〈点検のしかた〉

テンションバネのバネフック長を測り 72mm であるか確認してください。

〈調節のしかた〉

- ①ロックナットをゆるめてください。
- ②ホルダナットを押えて調節ボルトを回して、バネ長を調節してください。
- ③ロックナットを締め付けて固定してください。

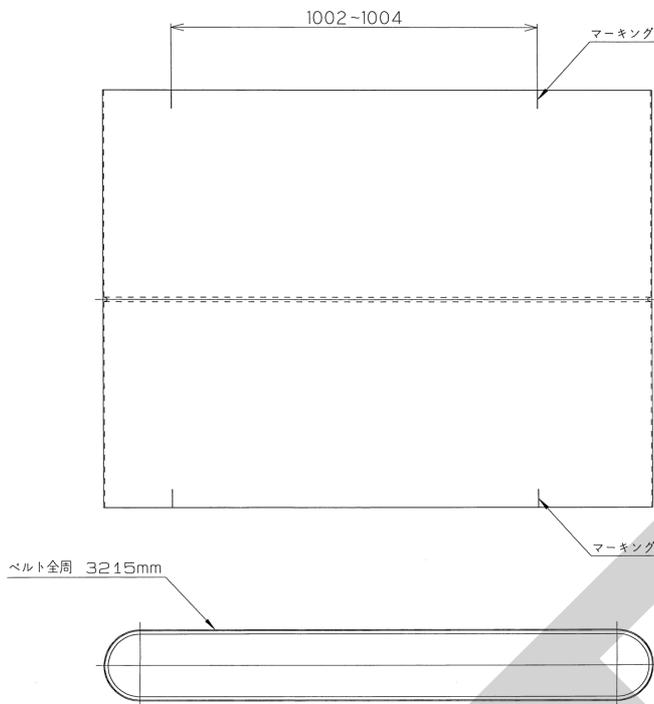
スプリングの長さは次の通りです。
L=72mm



23 コンベアベルトの点検・調節の仕方

〈点検のしかた〉

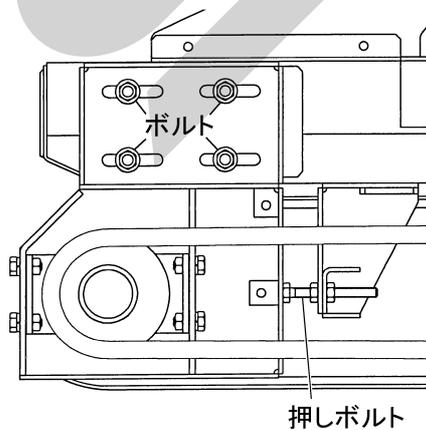
コンベアベルト表面のマーキング間距離（出荷時1000m）が左右共に1002mm～1004mmであるか確認してください。



〈調節のしかた〉

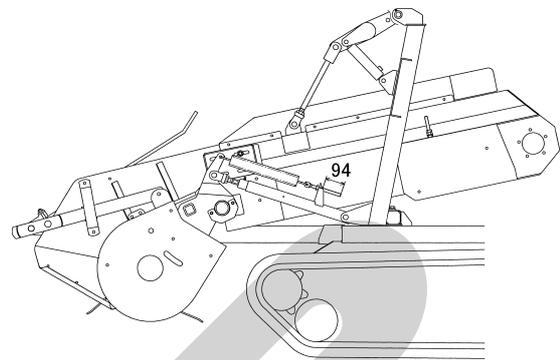
以下の要領で左右共に行ってください。

- ①ボルト4本をゆるめてください。
- ②ロックナットをゆるめてください。
- ③押しボルトを押えて、調節ナットを回してマーキング間距離を調節してください。
- ④ボルト4本とロックナットを締め付けて固定してください。



24 ピックアップの浮動調整

ピックアップの浮動調整は、スプリングステーのネジ部の長さを94mmに調整して行います。

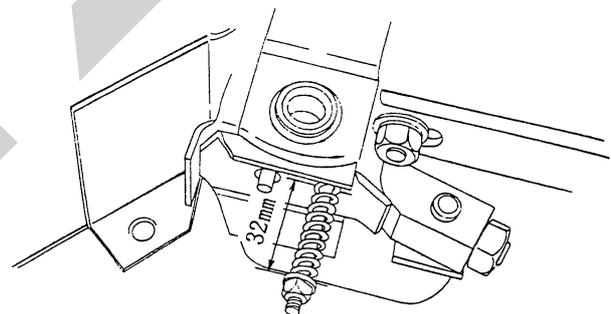


取扱い上の注意

- ・スプリングステーの調整は、左右等しく行ってください。

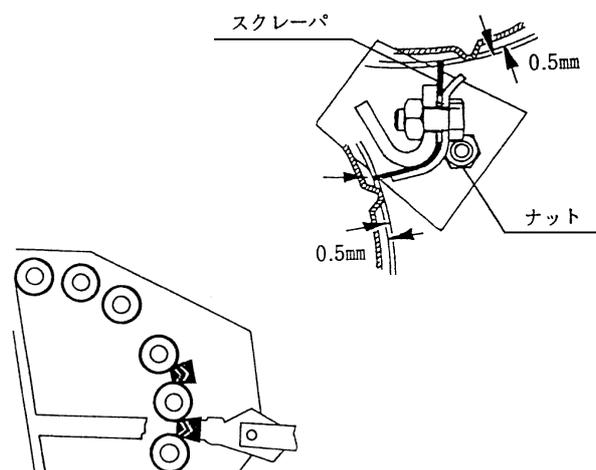
25 トワインブレーキの調整

スプリング長さを32mmに調整してください。



26 トワインスクレーパの調整

ローラ突起部とスクレーパが0.5mm位接触するようにナットを緩めて調整してください。



27 バインディングナイフの調整

(1) ナイフの切れ味が落ちてきた時は、裏返して取付けてください。

取扱い上の注意

・ナイフは、スター純正部品を使用してください。

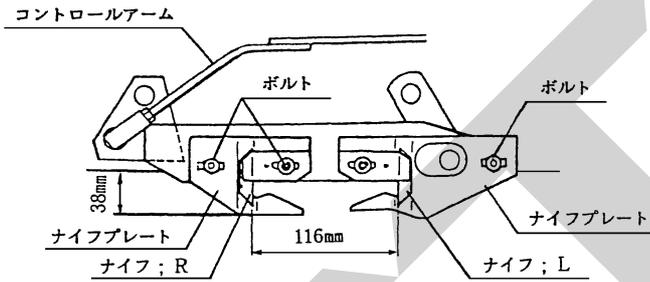
(2) 左右のトワインの切れるタイミングが悪いときは、ナイフプレートのボルトをゆるめ、ナイフプレートの取付位置を調整してください。

最初に右のナイフ；Rのトワインが切れ、次に左のナイフ；Lのトワインの順で切れることになっています。

この左右のトワイン切断の時間差が少ないほうが良い状態です。

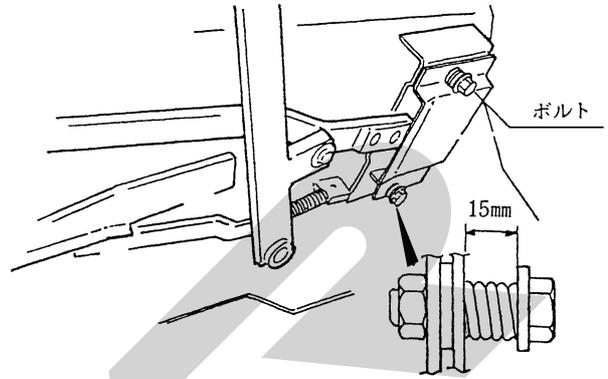
ナイフの前後の調整はコントロールアームのネジ部で行います。

トワイン切断位置でベース端部とナイフプレートの距離は約 38mm です。



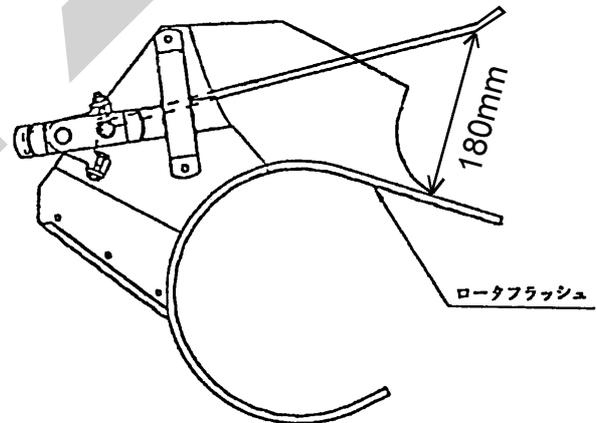
28 スイングアームブレーキの調整

ベール側でスイングアームの動きが不規則でなめらかでないときは、ボルトを調整してください。スプリングの調整高さは15mmです。



29 クロップカバーの調整

クロップカバーの曲げ部とロータフラッシュの間隔が下限で180mmになるように調整してください。

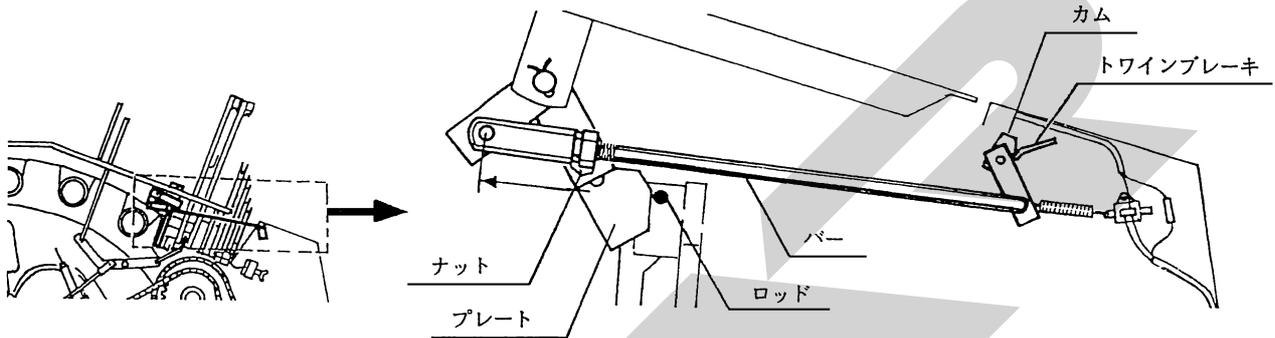


30 トワインブレーキのリンク調整

- (1) バインディングが作動したとき、プレートとロッドが図示のように接触する様にナットを緩めて調整してください。
- (2) ブレーキが解除されていないときは、カムがトワインブレーキを押し上げる様にバーの長さを調整してください。

取扱い上の注意

- ・トワインブレーキが充分開かなかったり、開くタイミングが遅いとトワインのベールへのくい込みが悪くなり、巻き付かないことになります。



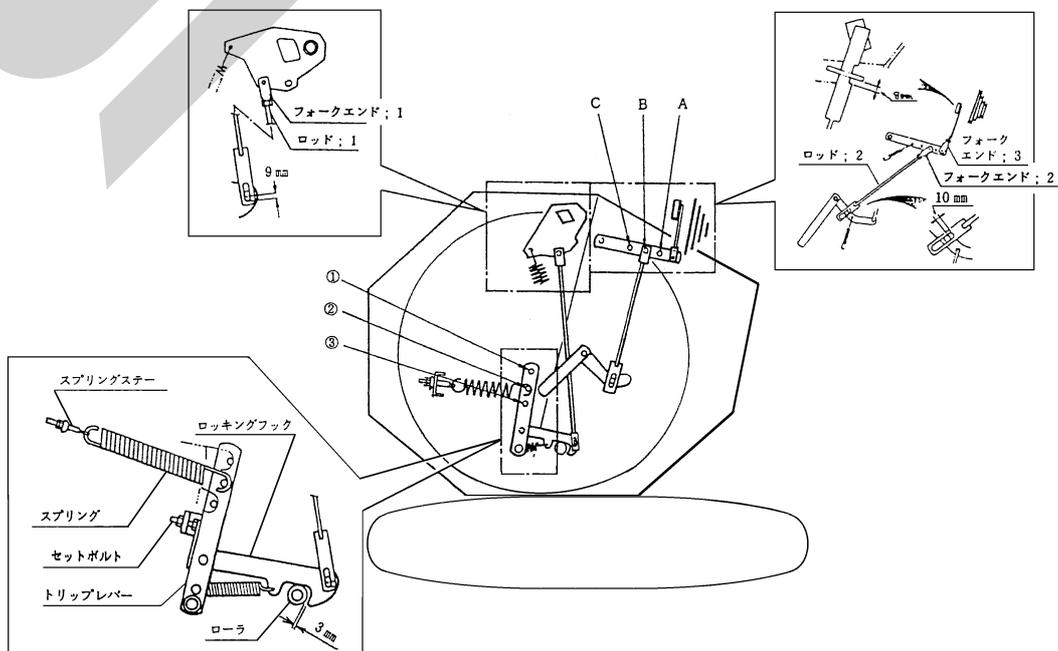
31 梱包密度検出リンクの調整

- (1) ロッキングフックとゲートのカラーのすきまが 3mm になるように、セットボルトで調整します。
- (2) ロッドの長穴とボルトのすきまが 9mm になるように、フォークエンドで調整します。
- (3) スプリングは、トリップレバーのどの穴にかけた時でもピンが手で抜ける程度に、スプリングステーで長さを調整します。
- (4) ロッド ; 2 の長穴とボルトのすきまが B の穴位置の時 10mm になるように、フォークエンド ; 2 で調整します。

- (5) ラッチとコントロールバーの切欠部のすきまが 8mm になるようにフォークエンド ; 3 で調整します。

取扱い上の注意

- ・リンクの調整寸法はロッド ; 2 を B の穴に入れた状態でセットしてください。リンクの調整を正しく行わないと、過大な負荷が発生し、作業機が破損することがあります。



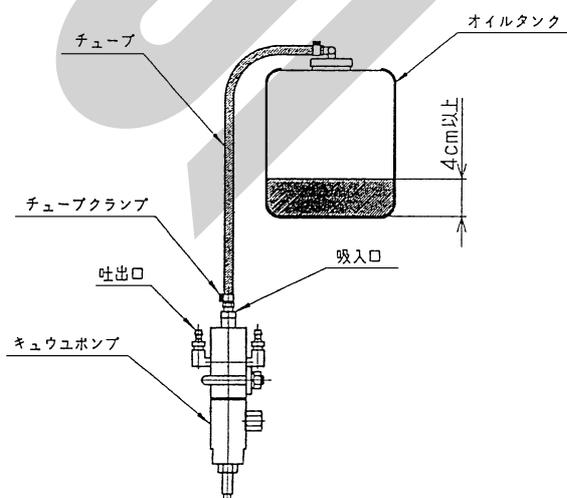
3 2 給油装置の空気抜き要領

取扱い上の注意

- ・オイルタンクに指示されているオイルの上限位置は、作業機とは関係ありません。
補充時は、タンク一杯まで（最大1.5・）ギヤオイルSAE 90を補充してください。

オイルタンクの油面高さが4cm以下になりポンプが空気を吸い込んでしまった時は、下記に従って空気を抜いてください。

- (1) オイルタンクにギヤオイル SAE 90 を満タン（最大1.5・）に入れます。
- (2) ゲートを0.5～1 間隔で5～6 回開閉し、ポンプの全ての吐出口からオイルが出ているか確認します。
- (3) 上記(2) でオイルが出ない時は、
 - ①トラクタ油圧でゲートを開きます。油圧シリンダに安全ストッパを掛けます。この時、トラクタの油圧を作動させたままにします。
 - ②キュウユポンプの吸入口部のチューブクランプを外し、チューブ内にギヤオイルを満たします。
 - ③キュウユポンプにチューブを接続し、チューブクランプを取付けます。
 - ④安全ストッパを下げ、油圧レバーを操作してゲートを閉めます。
 - ⑤ゲートを0.5～1cm 間隔で5～6 回開閉し、全ての吐出口からオイルが出ているか確認します。



7 不調時の対応

万一機械の調子が悪い場合は、不調処置一覧表により処置をしてください。

・ 警告

- ・ トワイン巻付装置を調整する時、ローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。作業クラッチ及びエンジンを切ってから行ってください。
- ・ ゲートを開けての点検・調整中、不意にゲートが閉まり、挟まれてケガをする事があります。油圧シリンダに安全ストッパを掛け、さらに、ゲートを確実にロックしてください。

・ 注意

- ・ 傾斜地や凹凸地又は軟弱地などで行うと、本機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ・ 作業クラッチ及びエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。作業クラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。
- ・ 不調処置・点検整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをする事があります。元通りに取り付けてください。

1 不調処置一覧表

	症 状	原 因	処 置
エ ン ジ ン 関 係	キースイッチを「始動」位置にしても、スタータが回らない	<ul style="list-style-type: none"> ・ セフティペダルを踏み込んでいない。 ・ バッテリーが放電している。 ・ バッテリー端子部のゆるみ、外れ、または腐蝕。 ・ スローブローヒューズ又は、ヒューズが溶断している。 ・ バッテリーの接続がプラス・マイナス逆になっている。 ・ 作業クラッチレバーが「入」位置になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ セフティペダルを完全に踏み込んでからキースイッチを「始動」位置にする。 ・ バッテリーを満充電にする。 ・ 端子部を清掃し、確実に締め付けてグリスを塗布し防錆する。 ・ スローブローヒューズ又は、ヒューズの交換。 ・ 指定したバッテリーを使用し、プラス・マイナスを正しく接続する。 ・ 作業クラッチレバーを「切」位置にする。

	<p>スタータは回るが、エンジンが始動しない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・副変速レバーが「N」（中立）位置になっていない。 ・燃料タンクに燃料が入っていない。 ・燃料にエアが混入している。 ・燃料コックが「閉」位置になっている。 ・燃料に水が入っている。 ・燃料ポンプヒューズ（5A）が溶断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・副変速レバーを「N」（中立）位置にする。（走行中または作業中にエンジンが停止したときは、副変速レバーを「N」（中立）位置にしないとエンジンが始動しない場合があります。） ・燃料を満量にし、エア抜きを行う。 ・燃料のエア抜きを行う。 ・燃料コックを「開」位置にする。 ・燃料コシ器に水がたまっていれば抜く。 ・ヒューズを交換する。
--	----------------------------	---	--

	症 状	原 因	処 置
エ ン ジ ン 関 係	<p>運転中に水温パイロットランプが点灯し、ブザーが鳴る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・冷却水が不足している。 ・冷却ファンベルトがゆるんでいる。又は、破損している。 ・ラジエータ冷却フィンが目詰まりしている。 ・エンジンオイルが不足している。 ・過負荷運転をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷却水を補給する。 ・ベルトの張り調整、又は交換する。 ・清掃する。 ・オイルを補給する。 ・負荷を軽くする。（牧草・ワラの状態に応じて、適正な作業速度を選んでください。）
	<p>取扱い上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンジンがオーバーヒートですので、速やかに本機を停止し、作業クラッチレバーを「切」位置にして、エンジン回転をローアイドル（低回転）に下げて冷却運転をしてください。水温パイロットランプが消灯してから、エンジンを停止し、エンジンが十分冷えてから適正な処置を行ってください。 		
	<p>運転中に油圧パイロットランプが点灯し、ブザーが鳴る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジンオイル量が少ない。 ・エンジンオイルの粘度が低い。 ・プレッシャスイッチが故障している。 ・オイルポンプが故障している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オイルを規定量まで補給する。 ・適正粘度のオイルと交換する。 ・スイッチを交換する。 ・修理してもらう。
キ ャ ビ ン 関 係	<p>運転中にチャージパイロットランプが点灯し、ブザーが鳴る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェネレータが故障している。 ・冷却ファンベルトがゆるんでいる。又は破損している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修理してもらう。 ・ベルトの張り調整、又は交換する。
	<p>キャビン内が冷えない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・風量が少ない、又は風が出ない。 ・吹出し空気が送風になっている。 ・吹出し空気温度が高い。 ・コンプレッサが回転していない。 ・冷媒量が不足している。 ・コンデンサが詰まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロアモータの作動を調べる。 ・温度コントロールレバーを「COOL」側にする。 ・コンプレッサの回転を調べる。 ・ベルトの張りを調整する。又は、電磁クラッチの作動を調べる。 ・補充する。 ・掃除する。
	<p>キャビン内が冷えすぎる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クーラー吸気口（室内）が開いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・閉じる。

ピックアップ部	ピックアップが昇降しない	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップバルブが閉じている。 ・シボルベンが完全に閉じている。 ・ミッションオイルの不足。 ・油圧系統の異常（破損、油もれ等）。 ・電気系統の異常（電磁弁、スイッチ、ハーネス不良等）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップバルブを開く。 ・シボルベンを開く。 ・ミッションオイルを補給する。 ・油圧系統の修理、補修、交換。 ・電気系統の修理、補修、交換。
	異音の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・タインの折損。 ・ロータフラッシュの破損。 ・カムローラベアリング破損。 ・ローラチェーンの給油不足。 ・ローラチェーンの張り不良。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイン交換。 ・ロータフラッシュ交換。 ・部品交換。 ・ギヤオイル給油。 ・「6-22 各部ローラチェーンの点検・調節の仕方」に基づき調整する。

	症 状	原 因	処 置
ピックアップ部	収穫物を拾い残す	<ul style="list-style-type: none"> ・ピックアップタインの地上高が適切でない。 ・作業速度が速い。 ・タインの折損。 ・ピックアップの浮動調整不良。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な地上高で作業する。 ・車速を遅くする。 ・タイン交換。 ・オイルを補給する。 ・「6-24 ピックアップの浮動調整」に基づき調整する。
	ピックアップが回転しない	<ul style="list-style-type: none"> ・タインが地面に入りすぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な地上高で作業する。
	収穫物が詰まる	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジン回転速度が遅い。 ・クロップカバーの調整不良。 ・作業速度が速い。 ・ウインドローが大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適正なエンジン回転速度で作業する。 ・「6-29 クロップカバーの調整」に基づき調整する。 ・車速を遅くする。 ・ウインドローを小さくする。
コンベア部	コンベアベルトが滑って動かない収穫物を搬送できない	<ul style="list-style-type: none"> ・コンベアベルトの張り調整不良。 ・泥を多量に拾ってしまい、コンベア内のローラに泥が付着し、コンベアベルトとの摩擦力が極端に低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「6-23 コンベアベルトの点検・調節の仕方」に基づき調整する。 ・コンベア内のローラとコンベアベルト内面に付着した泥をきれいにふきとる。 ・泥を拾わないように作業する。
	コンベアベルト表面に傷がつく	<ul style="list-style-type: none"> ・コンベア内のローラに塵や泥が付着し内側からコンベアベルトが押され、ピックアップ部と干渉する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンベア内のローラに付着した、塵や泥を除去する。
	コンベアベルトが左右どちらかに寄る	<ul style="list-style-type: none"> ・コンベア内のローラ真ん中のV溝に塵や泥が詰まり、コンベアベルトのV突起がV溝から外れてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクレーパを調整する。
	異音の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・ローラチェーンの給油不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「2-3 給油箇所一覧表」に基づきオイル補給及び調整。
カウンタケース部	<p>作業クラッチを「入」位置にしても作業部が回らない</p> <p>作業クラッチを「切」位置にしても作業部が止まらない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業クラッチの調整不良。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「6-17 各部ベルトの点検・調節の仕方」に基づき調整する。

	異音の発生	<ul style="list-style-type: none"> ローラチェーンの給油不足。 ローラチェーンの張り不足。 Vベルトの張り不良。 	<ul style="list-style-type: none"> 「2-3 給油箇所一覧表」に基づきオイル補給及び調整。 ギヤオイル給油。 「6-22 各部ローラチェーンの点検・調節の仕方」に基づき調整する。 「6-17 各部ベルトの点検・調節の仕方」に基づき調整する。
ローラ部	異音の発生	<ul style="list-style-type: none"> ローラへの巻付き、つまり、泥付着。 ローラチェーンの給油不足。 ローラチェーンの張り不足。 ローラがへこんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 巻付き、つまり、泥除去。 「6-32 給油装置の空気抜き要領」に基づきオイル補充及び調整。 「6-22 各部ローラチェーンの点検・調節の仕方」に基づき張り調整。 ローラ交換。

	症 状	原 因	処 置
ローラ部	ローラへの巻付き	<ul style="list-style-type: none"> エンジン回転速度が遅い。 ローラがへこんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 回転速度を調整。 ローラ交換。
	ペールがチャンバ内で回らない	<ul style="list-style-type: none"> 梱包密度が高すぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「6-31 梱包密度の調整」に基づき調整。
	ローラチェーンの発熱	<ul style="list-style-type: none"> 梱包密度が高すぎる。 ローラチェーンの給油不良。 ローラチェーンの張り不良。 	<ul style="list-style-type: none"> 「4-2-3 梱包密度の調整」に基づき調整。 「6-32 給油装置の空気抜き要領」に基づきオイル補充及び調整。 「6-22 各部ローラチェーンの点検・調節の仕方」に基づき張り調整。
ロッキングフック部	作業中、ロッキングフックが外れる	<ul style="list-style-type: none"> ゲート開閉の油圧が完全に戻っていない。 ロッキングフックの調整寸法が狂っている。 ブザーが鳴らないため、設定梱包密度を超えても作業している。 パトライトが回らないため、設定梱包密度を超えても作業している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「4-3 作業要領」に基づき作業する。 「6-31 梱包密度検出リンクの調整」に基づき調整。 不調処置一覧表の「ブザーパトライト部」に基づき処置。 不調処置一覧表の「ブザーパトライト部」に基づき処置。
	梱包が緩い	<ul style="list-style-type: none"> 設定梱包密度が低い。 スプリングが外れている。 トワイン巻数が少ない。 車速が速い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「4-2-3 梱包密度の調整」に基づき調整。 「4-2-3 梱包密度の調整」に基づきスプリングを掛ける。 「4-2-1 トワイン巻数の調整」に基づき調整。 車速を遅くする。
ブザー部	ブザーが鳴らない	<ul style="list-style-type: none"> ヒューズが切れている。 コードが断線している。 スイッチの調整不良。 	<ul style="list-style-type: none"> 「6-16 ヒューズの点検・交換の仕方」を参考にヒューズ交換。 コード交換。 取付位置を作業機前側に移動する。
パトライト部	パトライトが回らない	<ul style="list-style-type: none"> ヒューズが切れている。 コードが断線している。 スイッチの調整不良。 	<ul style="list-style-type: none"> 「6-16 ヒューズの点検・交換の仕方」を参考にヒューズ交換。 コード交換。 取付位置を作業機前側に移動する。

バイディング部	設定梱包密度に達しても、バイディングが作動しない	<ul style="list-style-type: none"> ・バイディング装置が正規の初期設定状態になっていない。 ・バイディング装置の給脂不良。 ・トワインブレーキが解除されない。 ・トワインプーリからトワインが外れている。 ・トワインのからまり、引っかかりがある。 ・トワイン先端がチャンバ内に入っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「4-2-1 トワイン巻数の調整」に基づき調整。 ・給脂 ・「6-30 トワインブレーキのリンクの調整」に基づき調整。 ・「1-3-4 トワインの通し方」に基づき調整。 ・トワインのからまり、引っかかりを直す。 ・引っかかりを取り除き、チャンバ内に入れる。機体の濡れている部分をふき取る。
	設定梱包密度になる前に、バイディングが作動する。	<ul style="list-style-type: none"> ・バイディング装置のスイングアームが正規の初期設定状態になっていない。 ・ナイフの切れが悪く、みち糸が長くなり、梱包途中にトワインが巻き込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「1-3-4 トワインの通し方」に基づきスイングアーム位置を調整。 ・ナイフ交換。

	症 状	原 因	処 置
バイディング部	ベールからトワインが外れる	<ul style="list-style-type: none"> ・トワイン巻数が少ない。 ・トワインの両端部がベールの端部に近い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「4-2-1 トワイン巻数の調整」に基づき調整。 ・「4-2-2 トワインガイドの調整」に基づき調整。
	スイングアームの動きが不連続	<ul style="list-style-type: none"> ・スイングアームブレーキの調整不良。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「6-28 スイングアームブレーキの調整」に基づき調整。
	トワインの切れが悪い	<ul style="list-style-type: none"> ・ナイフの切れが悪い。 ・ナイフプレートの位置が悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナイフ交換。 ・「6-27 バイディングナイフの調整」に基づき調整。
	トワインが切れる	<ul style="list-style-type: none"> ・トワインのからまり、引っかかりがある。 ・ナイフプレートが戻らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トワインのからまり、引っかかりを直す。 ・ナイフプレートの裏側に注油する。
	ベールの右側しかトワインが巻き付かない	<ul style="list-style-type: none"> ・トワインブレーキが解除されない。 ・スイングアーム先端のプレート (80819) とガイドアーム (80816) が磨耗して、トワインを保持しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「6-30 トワインブレーキのリンク調整」に基づき調整。 ・部品交換。
	ベール1ヶ所にトワインが多く巻き付く	<ul style="list-style-type: none"> ・左側のトワインブレーキのスプリングが弱いためにトワインが切れない。 ・ナイフの切れが悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「6-25 トワインブレーキの調整」に基づきトワインブレーキのスプリングを縮める。 ・ナイフ交換。
	ベールの中央にトワインが巻き付かない	<ul style="list-style-type: none"> ・ナイフプレートが戻らない。 ・トワインがトワインスクレーパとローラの間から出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナイフプレートの裏側に注油する。 ・「6-26 トワインスクレーパの調整」に基づき調整。

	バイディングが再起動する	<ul style="list-style-type: none"> ・ラッチ・クラッチバーが錆びて動きが悪い。 ・クラッチバーの右側にゴミがたまっている。 ・クラッチバーが磨耗してロックしない。 ・クラッチバーのスプリング (82935) が伸びている。 ・ゴム付きスプリング (86184) が破損している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・注油 ・ゴミを除去 ・部品交換 ・部品交換 ・部品交換
	スイングアームが下まで落ちてセットされない	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブプーリのワンウェイクラッチが破損している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部品交換
ゲート開閉部	ベールが排出されない	<ul style="list-style-type: none"> ・梱包密度が高過ぎる。 ・排出後、作業クラッチを「切」位置にしている。 ・急傾斜地で排出しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「4-2-3 梱包密度の調整」に基づき調整。 ・作業クラッチを「入」位置のまま排出。 ・平坦な所で排出。
	ゲートが開かない	<ul style="list-style-type: none"> ・スローリターンバルブが閉じている。 ・油圧系統の破損・油もれ。 ・ロッキングフック部の調整不良。 ・ストップバルブが閉じている。 ・ミッションオイルの不足。 ・油圧系統の異常（破損、油もれ等）。 ・電気系統の異常（電磁弁、スイッチハーネス等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・スローリターンバルブを開く。 ・破損部の補修または部品交換。 ・「4-2-3 梱包密度の調整」に基づき調整。 ・ストップバルブを開く。 ・ミッションオイルを補給する。 ・油圧系統の修理、補修、交換。 ・電気系統の修理、補修、交換。
	症 状	原 因	処 置
給油部	オイルが出ない	<ul style="list-style-type: none"> ・タンクのオイル油面高さが4cm以下になっている。 ・ポンプに空気が入っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「6-32 給油装置の空気抜き要領」に基づき調整オイル補充及び調整。 ・「6-32 給油装置の空気抜き要領」に基づき調整

	症 状	原 因	処 置
自動装置関係	エラーコード 66 が表示される	<ul style="list-style-type: none"> ・通信コネクタが抜けている。 (通信コネクタは、シート後のコントロールBOX内にあります。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・抜けている場合は、確実に差し込む。
	エラーコード 68 が表示される	<ul style="list-style-type: none"> ・各コントローラのヒューズが切れている。 (シート後のコントロールBOX内にあります。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒューズボックス内のヒューズを点検し、ヒューズを交換する。 ※電線が短絡している場合は、修理を依頼してください。
	エラーコード 69 が表示される	<ul style="list-style-type: none"> ・コントローラの異常 	<ul style="list-style-type: none"> ・コントローラを交換する。
	エラーコード C1-22 が表示される	<ul style="list-style-type: none"> ・傾斜角調節ダイヤルが故障している。 ・コネクタが抜けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・傾斜角調節ダイヤルを交換する。 ・抜けている場合は確実に差し込む。
	エラーコード C1-32 が表示される	<ul style="list-style-type: none"> ・傾斜角センサが故障している。 ・コネクタが抜けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・傾斜角センサを交換する。 ・抜けている場合は確実に差し込む。
	エラーコード C1-33 が	<ul style="list-style-type: none"> ・車高検出センサが故障している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車高検出センサを交換する。

表示される エラーコード C1-34 が 表示される	<ul style="list-style-type: none"> ・コネクタが抜けている。 ・車高検出センサのアームがフリーになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・抜けている場合は確実に差し込む。 ・車高検出センサのアームをセットしなおす。
エラーコード C1-62 が 表示される	<ul style="list-style-type: none"> ・車高調節レバーが故障している。 ・コネクタが抜けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車高調節レバーを交換する。 ・抜けている場合は確実に差し込む。
エラーコード C1-63 が 表示される	<ul style="list-style-type: none"> ・コネクタが抜けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・抜けている場合は確実に差し込む。
エラーコード C1-66 が 表示される	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒューズが切れている。 ・コネクタが抜けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒューズを交換する。 ※電線が短絡している場合は、修理を依頼してください。 ・抜けている場合は確実に差し込む。
エラーコード C1-67 が 表示される	<ul style="list-style-type: none"> ・傾斜角調節ダイヤル、または車高検出センサが故障している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・傾斜角調節ダイヤル、または車高検出センサを交換する。
エラーコード C1-68 が 表示される	<ul style="list-style-type: none"> ・コントローラデータの異常 	<ul style="list-style-type: none"> ・コントローラを交換する。

原因や処置の仕方がわからない場合は下記事項とともに購入先にご相談ください。

1. 製品名
2. 部品供給型式 (型式)
3. 製造番号
4. 故障内容 (できるだけ詳しく)

SFAA

SFAA

SFAA

本社	066-8555	千歳市上長都1061番地2 TEL0123-26-1123 FAX0123-26-2412
千歳営業所	066-8555	千歳市上長都1061番地2 TEL0123-22-5131 FAX0123-26-2035
旭川営業所	070-8004	旭川市神楽4条9丁目3番35号 TEL0166-61-6131 FAX0166-62-8985
豊富営業所	098-4100	天塩郡豊富町字上サロベツ1191番地44 TEL0162-82-1932 FAX0162-82-1696
帯広営業所	080-2462	帯広市西22条北1丁目12番地4 TEL0155-37-3080 FAX0155-37-5187
中標津営業所	086-1152	標津郡中標津町北町2丁目16番2 TEL0153-72-2624 FAX0153-73-2540
花巻営業所	028-3172	岩手県花巻市石鳥谷町北寺林第11地割120番3 TEL0198-46-1311 FAX0198-45-5999
盛岡事務所	020-0173	岩手県岩手郡滝沢村滝沢字根堀坂552-3 TEL019-694-1661 FAX019-694-1662
仙台営業所	983-0013	宮城県仙台市宮城野区中野字神明179-1 TEL022-388-8673 FAX022-388-8735
小山営業所	323-0158	栃木県小山市梁2512-1 TEL0285-49-1500 FAX0285-49-1560
名古屋営業所	480-0102	愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字南屋敷191 TEL0587-93-6888 FAX0587-93-5416
岡山営業所	700-0973	岡山県岡山市下中野704-103 TEL086-243-1147 FAX086-243-1269
熊本営業所	861-8039	熊本県熊本市長嶺南1丁目2番1号 TEL096-381-7222 FAX096-384-3525
都城営業所	885-1202	宮崎県都城市高城町穂満坊1003-2 TEL0986-53-2222 FAX0986-53-2233